
プリキュアオールスターズ×逃走中～水面に眠る海神～

リリカルショーバイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュアオールスターズ×逃走中～水面に眠る海神～

【NZコード】

N4811N

【作者名】

リリカルショーバイ

【あらすじ】

プリキュアに選ばれし中学生18人が、ダイビングが盛んな広大なビーチを有するある港で、恐怖の逃走劇に巻き込まれる！120分間逃げ切り、賞金を獲得する者は果たして現れるのか！？

逃走者紹介&o;キャラクター設定（前書き）

逃走中小説第2弾です

本来の作品とキャラの設定が異なりますが、どうぞ「了承ください」
実際の逃走中と何度も照らし合させて、何とかキャラを練り上げました

名前の横の「内」の色は、そのキャラのイメージカラー（言わば「テロップ」があった場合の文字の色）を表しています

ミッションがかなりオリジナリティに欠けるかもしませんが、
前作同様温かい目で読んでいただければ幸いです

逃走者紹介 & キャラクター設定

美墨なぎさ > 赤 <

ベローネ学院女子中等部3年生
足が速くミッシュョンにも積極的だが、それがマイナスイメージを生む事も

雪城ほのか > 空色 <

ベローネ学院女子中等部3年生
じと
お淑やかな第一印象とは裏腹に、結構足は速い

九条ひかり > 黄緑 <

ベローネ学院女子中等部1年生

ミッシュョンには全て立ち向かう意気込みあり

日向 咲 > 青緑 <

夕凪中学校2年生

瞬発力には絶対の自信を持つ

美翔 舞 > 藍色 <

夕凪中学校2年生

ハンターにも勝る、底なしの持久力を具えている

夢原のぞみ > 赤紫 <

サンクルミエール学園2年生

1位2位を争うほど足が遅いが、行動的である

夏木りん > 茶色 <

サンクルミエール学園2年生

かなりの怖がりだが、瞬発力も行動力もピカイチで、逃走成功の大本命

春日野うららり > 黄色 <

サンクルミエール学園1年生

積極的であるが、運があまり無い

秋元こまち > 緑 <

サンクルミエール学園3年生

肝つ玉が大きく、（恐らく力チューシャ繫がりで）美希と行動する事が多い

水無月かれん > 青 <

サンクルミエール学園3年生

かなり行動的だが、ミッショソには結構消極的

美々野くるみ > 紫 <

サンクルミエール学園2年生

ハンターにビビりまくりで、ミッショソ参加者を「偽善者」と罵る事も

桃園ラブ > ピンク <

四つ葉中学校2年生

ミッショソには絶対参加せず、自首する気満々らしい

蒼乃美希 > 水色 <

鳥越学園中等部2年生

運動神経抜群で、（恐らく力チューシャ繫がりで）こまちと行動する事が多い

山吹祈里 > オレンジ <

白詰草女子学院中等部 2年生

近からうが遠からうが、ミッションには必ず参加するつもり

東 せつな > 黄赤色 <

四つ葉中学校 2年生

足は結構速いが、相当なスピードである

花咲つぼみ > 桜色 <

明堂学園 2年生

瞬発力も持久力も運も全く無い

来海えりか > アクア色 <

明堂学園 2年生

金にかなり貪欲な為、自滅する事も

明堂院いつき > 山吹色 <

明堂学園 2年生

りんに次ぐ足の速さで、行動的でもある

逃走者紹介&amo.キャラクター設定（後書き）

こんな感じですが、いかがでしょうか？

それぞれのキャラクターへのメッセージお願いします

「 頑張れ！」とか「 早く捕まってくれ！」とか何でも結構です！

それと・・・くるみやラブが好きな方、悪者キャラにしてしまって本当にゴメンなさい(¬_¬)

招待状（前書き）

まだまだ更新は滞りがちになります。9月末からはスムーズに更新出来ると思います。ご了承ください m(_ _) m

招待状

今回の逃走中に参加する事となる18人。

ゲーム開始前日、彼女達の許ところに招待状が届けられた・・・

桃園あゆみ「ラブ?せっちゃん?」

ラブ「何、お母さん?」

せつな「ものすいへ珍しい物を見る様な顔をしてるけど・・・」

あゆみ「これ、2人宛ての手紙なんだけど」

ラブ・せつな「?」

2人はその2通の封筒を手に取った。そこには・・・

ラブ「『逃走中』?」

せつな「何処かで聞いた様な・・・」

秋元まどか「こまち?」

こまち「どうしたの、お姉ちゃん?」

まどか「Jの手紙、あんた宛ての物なんだけど」

J「まち「『逃走中』……？何かしら……？」

藤田アカネ「ひかり、何それ？」

ひかり「今朝ポストに入つてたんです。私宛てみたいで……」

アカネ「『逃走中』……？それってまさか……？」

ひかり「アカネさん、知つてるんですか？」

アカネ「まあ……テレビで見た事あるから……でもこれって、芸能人だけしか参加出来なかつた筈はずだけど……」

田向みのり「お姉ちゃん、テレビに出るの？」

咲「そんな訳無いじゃん。でも……逃走中つてあの逃走中だよね？」

みのり「だよね……」

咲「一般の人も参加出来る様になつたとか……な訳無いか」

みのり「もしそうだつたら、応募が殺到しちゃうよ」

来海ももか「とつあえず読んでみたら?」

えりか「うん、 そうだね」

封筒を開け、中の手紙を読む。

えりか「えっと・・・何何?」

舞「『あなたは逃走中のプレイヤーに選ばれた』・・・えつ!? 私が!? 嘘でしょ!?」

なぎや「『これは120分間ハンターから逃げるゲーム』・・・120分って長くない?」

美希「『最後まで逃げ切れば、賞金72万円』!? すごい金額・・・!」

のぞみ「『参加するなら、明日午前11時頃に送迎に来る車に乗り、ここに集合せよ!』・・・ここへ何処? あつ・・・」

招待状には、エリアとなる場所の地図が併記されていた。

祈里「ここって、最近出来たばかりのビーチがある港だよね?」

こつき「何でも、ダイビングが盛んだとか・・・」

かれん「でも、何でこんな所で？」

「ううう、車に乗る以前に、参加するか否かでしょ・・・？」

くるみ「あまりにも怖いのは嫌なのよね・・・」

ほのか「面白そうね。是非とも参加したいわ」

りん「やつてやううじゅん！」

つぼみ「どうしよう・・・？」

おのおの
日々の思いを口にし、その日は終わった。

つぼみは自宅前で送迎の車を待っていた。

翌日

つぼみ「逃走中・・・人気あるのは知ってるけど・・・あれって芸能人だけのものの筈・・・なのに、何で一般人の私が・・・？」

突然届いた招待状に関して、未だに疑問を抱いていた。

とその時・・・

えりか「つぼみ！」

隣に住むえりかが、家から出て来るや否や、つぼみの許に駆け寄つて來た。

つぼみ「えりか！」

えりか「どうしたの、つぼみ？」「んな休口に、家の前でそわそわしちゃつて……」

つぼみ「い……いえ……だから、これは……つまつ、その……」

えりか「ひょっとして……」

つぼみ「はい……？」

えりか「これの事？」

えりかがポケットから出したのは、紛れも無くつぼみにも届いた逃走中の招待状だった。これにはつぼみも動搖を隠せない。

つぼみ「えつ！？えつ！？な……何でえりかの所にも！」

えりか「やつぱりそつだつたんだ……・・・実はね、いつきの所にも招待状來たんだって」

つぼみ「え～！？何ですか～！？」

すると、送迎の車と思われる黒い大きなワゴン車が2人の前で止まつた。ドアが開くと、中から黒のスーツにサングラスと言つ出で立ち、ハンターを彷彿させるJPと思わしき男が降りてきた。

男「花咲つぼみ様、来海えりか様……ここにおられるという事は、逃走中へのご参加を決定されたと見做して宜しいですね……?」

つぼみ「は……はい……」

えりか「当たり前じゃん! 賞金獲つて帰つて来るつもりだもん!」

男「ご参加を表明していただき有難う御座います……どうぞ中へ。
・既に他の参加者が乗車されております……」

つぼみは睡を飲み込み、えりかは自信に満ちた表情を浮かばせて乗車した。そこには……

つぼみ「えつ……?」

えりか「あつ……!」

フェアリーパークで出会った15人のプリキュア達と同士のいつきが乗つっていたのだ。更に彼女達は、派手な色の衣装を身に付け、頭には某サッカーメーカーのヘッドギアが巻かれ、両手にはハーフグローブが嵌められ、肘と膝にはサポーターが取り付けられ、左の二の腕には携帯電話を入れた小型ポケットが装着されていた。

つぼみ「ど……どういう事ですか!? み……皆さんにもあの招待状が届いたんですか!?!?」

ラブ「うん、そうだよ」

のぞみ「面白そ�だつたし、やつてみる価値はあるかなと思つてさ」

なめむと「でも、まさかプリキュア旦つ中学生が全員逃走中に招待されるとはね~」

咲「ここうのを奇遇つて言つただよね

えりか「それはいいけど・・・まさか皆・・・その格好で来た訳じやないよね・・・?」

ひいら「当たり前でしょ

ひかり「私達がこんなヘッジギアやサポーターを持つてる訳無いじやないですか」

えりか「だよね・・・? だとしたら何で・・・?」

ほのか「あそこは更衣室があるの分かる?」

つばみ「更衣室ですか?」

ほのかが指差す車の後方には、確かに更衣室と書かれた部屋がある。

くるみ「何か良く分かんないんだけど・・・そこに私達の名前が書かれた籠があつて・・・」

せつな「そこそこうのが入つてたのよ

舞「それに着替えてくれつて言われたから・・・」

りん「ハツキリ言つて恥ずかしいよね、この衣装。普段こんな派手

な色の服なんて滅多に着ないからね・・・」

かれん「それはそうと、2人とも早く着替えてきなさい」

こまち「到着したら、すぐにゲームが始まるみたいだし・・・」

えりか「はつーそつでしたーつぼみ、早く着替えるよー」

つぼみ「ええつーちよ・・・えりかー」

えりかはつぼみの手を引いて更衣室内へと消えていった。

いつき「あの2人・・・ゲーム直前だけど、大丈夫かな・・・?」

祈里「自滅しなきやいいけど・・・」

美希「何か心配ね・・・」

数分後、2人は着替え終わり、更衣室から出てきた。

えりか「いやつて改めて着ると、やっぱ派手だよね〜、これ。

田立ち過ぎじゃん」

つぼみ「ホントですね・・・周りから変な眼で見られそうですね・・・

」

ゲーム開始5分前 - - -

男「田的地區に到着しました・・・ビワ湖・・・」

逃走者達は車のドアを開き、一斉に降りる。

なぎさ「しかし暑いね～。夏真っ盛りだよ～。120分持つかな～?
？」

咲「持たなきやダメでしょ？でも熱中症には気を付けないとけま
せんね」

のぞみ「それにしてもさ、ここ何処？」

ラブ「エリアの中である事は間違いないらしいけど・・・

つぼみ「かなりの殺風景ですね」

彼女達が辿り着いたのは、エリアとなる港の高台にある広大な駐車
場だった。

男「ここでオープニングゲームが行われます・・・

ほのか「ここで？」

舞「でも、ボックスもスタート地点も見当たらないわ

せつな「あれじゃない？」

せつなが、その強い視力でハンターボックスを見つけた。逃走者は
スタート地点に足を運ぶ。

彼女達の視線の先には、サングラスに黒スーツという出で立ちのハンターが4体、近未来的で電飾が施してある観音開きのボックスの中に収納されている・・・門も木製では無く貴金属製である。

「ひかり「テレビで見るのと全然違う・・・。」

ひかり「更なる恐怖を演出してゐる感じ・・・。」

「これより、ゲームを始める・・・。」

何処からか不気味な低い声のアナウンスが聞こえる。その瞬間、18人に緊張が走る。

遂に始まるプリキュア達による逃走中。その結末はいかに！

招待状（後書き）

次回、逃走中恒例の緊迫のオープニングゲーム開始！

逃走者達の運はいかなるものなのか！？

緊迫のオープニングゲーム（前書き）

逃走者達の運が試されるオープニングゲーム！

果たして、ハズレを引いてしまつのは誰なのか！？

緊迫のオープニングゲーム

「これより、ゲームを始める……」

不気味な低い声のアナウンスが聞こえると、18人に緊張が走る。

「君達の前にいる4体のハンターは、ボックスの中に閉じ込められている……」

目の前にある色分けされた鎖は全部で18本……
その内1本だけが、ボックスの扉を開放するハズレの鎖……
それを引くと4体のハンターが解き放たれ、ゲームがスタートする……」

アナウンスが終わると、18人は一斉にざわめく。

ハンターまでは25m。逃走者は1人ずつ鎖を引き抜かなければならぬ。ハズレを引けば、ハンターが目の前の逃走者に襲い掛かる。更に、ハズレ以外の17本の内5本は、ハンター・ボックス前進スイッチとなっており、これを引くとハンター・ボックスがオープニングゲーム装置と共に3m前進し、逃走者との距離が縮まる様になっている。

ひかり「はい。16番……遅い……」

舞「えつ……！？1番……！？嘘！」

美希「11番……回つてきたら、確実にハズレ引くわね……」

りん「おつ……8番だ……」

つぼみ「7番ですか・・・いいと思つんですが・・・」

鎖を引く順番は、事前に行つたくじ引きにより既に決定している。

1人目・美翔舞

くるみ「何色?」

舞
「じやあ・・・黄緑を」

なぎさ「何で?」

舞「自然に近い色なんで」

クリアか・・・? ハンタ―放出か・・・?

舞
一
行
き
ま
す
！

ジャラッ!

シーン・・・

美翔 舞 ケリア

三

のみ - 何? 」の音? 「

舞「キヤー！ハンターボックスが動いてるー！」

舞以外「ええ～！？」

舞が引いた黄緑は、ハンターボックス前進スイッチの1つだった。これで、ハンターとの距離は22mに縮まった。

咲「まーいー！（怒）」

舞「ゴメンなさい！」

無事に鎖を引き抜いた逃走者は、ハンターから離れた場所でストップ出来る。

舞「ゲーム開始前から早々に**ひんじゅく**螺旋買う様な事しちゃった……ビックリする……？でも今は、エリアの下見の事で頭がいっぱい……！」

残る鎖は17本

2人目・春日野うらら

うらら「それでは……無難に黄色を

いつき「無難かどうかは、引くまで分からぬのに……

クリアか……？ハンター放出か……？

うらら「引きます！」

ジャラツ！

シーン・・・

春日野うらり クリア

うらら「ハンターボックスが動く気配も無い・・・・完全にセーフ
だ・・・・！わ〜い！」

残る鎖は16本

3人目・桃園ラブ

ラブ「これね〜・・・ホントに考え方がないよね〜・・・・

ほのか「じゃあ、何色にするの？」

ラブ「何色にするも何も・・・理由付けられないし・・・・

美希「つべこべ言わずに、早く選びなさいよ・・・・」

かれん「皆待ってるわよ？」

ラブ「じゃあ、もういいや。ホントに勘で・・・・ピンク！」

せつな「完全に詰ありじゃない・・・・全然勘じゃないし・・・・

クリアか・・・?ハンター放出か・・・?

ラブ「行くよー！」

ジャラツ！

シーン・・・

桃園ラブ クリア

ラブ「ボックスも動いてないね。あの変な音も無いし・・・よしつ
！この調子で、幸せゲットだよ！」

残る鎖は15本

4人目・来海えりか

つぼみ「何色にするんですか？」

えりか「全部危険な臭いがする色しか残つて無いんだよね～・・・」

こまち「でも、ハズレは一本だけよ？」

祈里「ボックスが前進してくるのは4本あるけど・・・」

えりか「じゃあこれ！グレー引くよー。」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

えりか「せーの・・・」

ジャラツ！

シーン・・・

来海えりか
クリア

「おまえ、」JRの歯つて……おまえ……。」

えりか「ハンターボックスが前進しちゃつたー！」

残りの逃走者「やつぱりー！？」

これで、ハンターとの距離は19mに縮まった。

つぼみ「えーりーかー！（怒）」

えりか「アハハハハ！ ゴメンね～！」

いつき 全然謝る気無いじゃん！（怒）

無事に鎖を引き抜いた逃走者は、ハンターから離れた場所でスター
ト出来る。

えりか「あんな事言われたつて・・・それがハズレでどれがスイッチかなんて分かる訳無いじゃん・・・!兎に角、ゲームが始まるまでしつかり下見しておかなくちゃ・・・!」

残る鎖は14本

5人目・水無月かれん

「こまち「何色引くの？」

かれん「エリ亞である港に海があつて、快晴の今日は雲一つ無い空があつて、水のプリキュアである私がここにいて、引くのはこれしかないのでしょう・・・青!」

咲「3重のこじ付け・・・」

なぎさ「有り得ない・・・!」

クリアか・・・?ハンター放出か・・・?

かれん「引くわよ!」

ジャラツ!

シーン・・・

水無月かれん クリア

かれん「ボックスが動く様子は無いわね・・・」

残る鎖は13本

現在スタート地点に残っている逃走者は、りん・のぞみ・祈里・ひかり・くるみ・こまち・なぎさ・美希・ほのか・咲・せつな・つぼみ・いつきの13人。

ハンター放出と早期確保の危険性は徐々に高まる。

緊迫のオープニングゲーム（後書き）

次回から愈々ゲームがスタート！

オープニングゲームでハンターの餌食となるのは果たして誰なのか！？

そして、逃走者達の心の内は！？

ゲームスタート！（前書き）

遂にハンターが放出され、ゲームがスタートする！

4体のハンターの餌食となつてしまつのは誰なのか…？

因みに逃走者には、前作同様に、一緒にいる筈のスタッフはいないという設定です。誰かに話し掛けている様な台詞は、独り言だと思つて下さい。

ゲームスタート！

6人目・美墨なぎさ

のぞみ「何色ですか？」

なぎさ「金色！」

美希「何ですか？」

なぎさ「プリキュアの最強フォームは、眞金ピカじゃん！」

くるみ「ただお金が欲しいだけなんじゃないの？」

なぎさ「ギクッ！」

つぼみ「図星みたいですね・・・」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

なぎさ「行くぞー！」

ジャラッ！

シーン・・・

美墨なぎさ クリア

ガガガガガガガ

なぎさ「うわ～！ハンターボックスが動いた～！」

残りの逃走者「はあ～！？」

これで、ハンターとの距離は16mに縮まった。

なぎさ「ありえない！」

ほのか「それはこっちの問題かー（怒）」「

残る鎖は12本

7人目・花咲つぼみ

いつき「何色？」

つぼみ「じゃあ・・・オレンジを引きます！」

せつな「何で？」

つぼみ「綺麗な色じゃないですか。お花にしてもこいつ綺麗な色のがありますし」

咲「なるほどね」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

つぼみ「それでは引きますー！」

ジャラツ！

シーン・・・

花咲つぼみ クリア

ハハハハハハハハ

つぼみ「キヤー！ハンターボックスが～！」

残りの逃走者「また～！？」

これで、ハンターとの距離は13mに縮まった。

りん「つぼみもえりかの事言えないじゃん！（怒）」

つぼみ「ゴメンなさい！^{わが}態とじやないんです～！」

確かに態^{わが}とでは無い。

こまち「さっきまで結構遠くにいたハンターが・・・

祈里「今ではこんなに近くに・・・」

ひかり「絶対捕まりますよ、ハズレを引いたら・・・」

残る鎖は11本

8人目・夏木りん

りん「うわ～・・・マジで超怖い・・・！」

のぞみ「りんちやん、何色にするの？」

りん「引きたくないな～・・・」

咲「でも、引かなかつたら何も始まらないよ？」

りん「分かってるけどさ～・・・」

ひかり「勘でも何でもいいですか？」

りん「じゃあいいや。自分のイメージカラーの茶色ー。」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

りん「引くぞ！」

ジャラツ！ ガコン！

残りの逃走者「わああーーー！」

門かんぬきが外れてしまい、4体のハンターが放出。ゲームが始まった・・・

一目散に逃げていく逃走者達。

ピ――――――――――

ハンターの視界には・・・夏木りん・・・

りん「ヤバい・・・マジでヤバ過ぎる・・・！」

逃げ続けるりん。彼女が逃げる先には・・・花咲つぼみ・・・
つぼみ「先にスタート地点を抜けた人達は何処にいるんだろう・・・
？えつ・・・？あれハンター？もう出てきたの・・・！？」

りんを追い掛けているハンターを田撃し、その場から離れる。

ピ――――――――――――――

その時、りんを追っていた4体のハンターの標的が、突然つぼみに
変わった。

つぼみ「えつ・・・！？嘘でしょ・・・！？」
「こっち来たー！」

ピ――――――――――――――

一目散に逃げるつぼみ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。
最早、逃走不可能・・・

つぼみ「いやー！」　ポンッ

残り時間119分17秒　花咲つぼみ確保　残り17人

つぼみ「何でー！？何でハズレを引いてない私が捕まらなきゃいけ
ないの！？嘘！？」

油断大敵だ・・・

ピリッピリッ ピリッピリッ

「ひらり「あつ・・・メールかな・・・?」

確保情報は、全ての逃走者にメールで通達される。

ラブ「確保情報だ・・・!『花咲つぼみ確保、残り17人』・・・」

えりか「ええ!つぼみ捕まつたの!-?」

なぎさ「あいつ運無さうだもんな。オーラ全然感じられないし・

・・「

りん「ええつ?つぼみ近くにいたの?全然気付かなかつた・・・

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

run for money 逃走中

逃走劇の舞台となるのは、観光スポットにもなつてゐる、ダイビングが盛んな広大なビーチを有するとある港。広さは東京ドームおよそ2個分。また建物内へは原則進入出来ない。この中を17人の逃走者は、4体のハンターから逃げ回る。

せつな「泳ぎに来てる人が沢山いるわね。すぐ賑やかね」

のぞみ「泳ぎたいな……でも今はハンターから逃げる事を考えないと」

こまち「坂が多いわね、このHリアは……これをどう上手くつかが鍵になりそうね……」

美希「暑い……一寸水飲もう」

逃走者には、飲料水500mlが入ったペットボトルが1本支給されている。これで水分補給出来るが、無くなつても補充はされない。

美希「ガブガブ飲んだら、後に響きそうね……」

ひかり「今……残り117分50秒で1万3千円……もう1万円超えてる……！」

賞金は1秒ごとに100円ずつ上昇。120分間逃げ切れば72万円を獲得出来る。

更にこのゲームは自首、つまりゲームを途中でリタイアする事も出来る。各自の^{おのおの}逃走者が持っている遊覧船のチケットを持って港へ行き、チケットを切つてもらつて乗船すればその時点の賞金を獲得出来る。

但し、ハンターに捕まれば賞金は0円。その時点でゲームから排除される。

ラブ「50万円超えたら、すぐに自首しよう……でもその為には、港からあまり離れない方がいいな……」

早くも自首する気満々のラブ。港付近でハンターの様子を窺う。

祈里「自首は絶対しない……私でも出来るんだってところを見せたい……！」

りん「自首したら、その人の氣を疑うよ……！」

この2人の頭の中に、自首といつ言葉は存在しない様だ。

くるみ「もうヤダ、怖過ぎる……」んなに楽しそうな所なのに・・・

本来の高圧的(?)な態度とは一変、ハンターに本気で怯えているくるみ。

くるみ「こんなゲーム……楽しめる訳無いじゃないの……！」

意外にも小心者の様だ。

舞「すみません。ハンター見掛けませんでした？」

観光客からハンターの位置を探ろうとする舞。

男「ハンターって何ですか？」

舞「サングラスに黒いスーツを着た、この雰囲気には相応しくない格好をした人なんですけど……」

男「見た？」

女「ううん。『メンなさい』、見てないです」

舞「いや、見てないならいいんです。有難う御座います」

ほのか「何処からハンターが来るか分からぬわね、『レジ』や」

見通しの悪い通りに来てしまったほのか。

ほのか「動くと危険だけど、ここは絶対に抜けないと」

移動を試みる。しかし、背後からハンター・・・

ほのか「360度、常に警戒しないと・・・あつ、ハンターいた・・・
・・・」

見つかった・・・

一目散に逃げるほのか。その近くにいたのは・・・

いつき「誰か追い掛けられてる・・・」

いつきだ・・・彼女も危険を感じ、その場から離れる。

尚も逃げ続けるほのか。意外にも足が速く、そのまま曲がり角を使つて、ハンターを撒いた。

ほのか「やっぱりハンターって速いわね・・・直線勝負じゃ絶対負

けるわ・・・」

「まち「やつね・・・美希さん」でも電話してみよつかしら・・・？」

美希に電話を掛ける「まち。

フルルルルルル

美希「何・・・？電話・・・」まちさんから・・・はい、美希です「

「まち「美希さん、今どの辺にいるの？」

美希「今ですか？今はえ～っと・・・ビーチのダイビング器材を洗う大きな桶の近くです。」まちさんは？」

「まち「私は、ダイビングサービスっていう建物の近くよ」

美希「ダイビングサービス・・・あつ、近いですね。じゃあ、後で会流しましょう」

「まち「ええ、わかつたわ」

2人は電話を切った。

「まち「美希さん、大丈夫かしら・・・？ビーチって結構見晴らし良過ぎなのよね・・・」

咲「随気持ち良さそうに泳いでるな～」

羨ましげに海と観光客を見つめる咲。

その近くに黒い影・・・

咲「ヤバい、ボーッとしてたらダメだ・・・・今は逃走中に集中しないと・・・・ん・・・?ゲッ、来たよ!」

見つかつた
・
・
・

咲「来た、来た、来た・・・！うわつ！滅茶苦茶速い！」

一目散に逃げる咲。しかし、その差はどんどん縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

咲「うわあ～！」
ボンツ

残り時間 112分36秒
日向 咲確保
残り16人

・・・
「 咲「捕まつた・・・!嘘・・・!?もう終わりなの・・・!?最悪・

ピリッピリッ

せつな「吃驚した・・・！メールの着信音大き過ぎ・・・！何でマ
ビツクリ

なぎさ「『日向 咲確保』だつて……！」

舞「ええっ！？咲！？捕まるの早くない！？」

いつき「ソフトボール部のエースが、こんなに早くに捕まるの・・・！？」

くるみ「意外過ぎる・・・！」

多くの人が賑にぎわう広大なビーチ。

これだけ大勢の人が集まれば、こんな事も日常茶飯事・・・

女「あれ？ここにあつた筈あずのビーチボールが無い！」

男「俺のシユノーケルは！？」

男「フイン、何処行つたんだよ！？」

女「私のサングラス、誰か見なかつた！？」

落し物を探し回る4人の観光客。

この落し物が、逃走者達に手を差し伸べる・・・

かれん「観光客が全員ハンターに見えてしがないわ・・・」

ピリッピリッ ピリッピリッ

かれん「ん・・・？何かしら・・・？」

「ひらり「通達だ……！」

のぞみ「『現在4人の観光客が、それぞれの落し物を探している』・・・」

ひかり「『彼等が探している物を届ける事が出来れば』・・・」

祈里「『お礼として、逃走に役立つアイテムを渡してくれる』・・・」

えりか「『やるかやらないかは、君達の自由だ！』・・・落し物？
しかもアイテムって？」

通達 逃走アイテムを獲得せよ！

現在4人の観光客が、ビーチボール・シュノーケル・フイン・サン
グラスを落としてしまい、エリア中を探している。その探している
物を見つけ、該当する観光客に届ければ、お礼として逃走に役立つ
アイテムを受け取る事が出来る。

うらら「逃走に役立つアイテム……どんな物なんだろう？それを
知る意味でも、探してあげよう……！」

祈里「探してあげた方がいいよ……！絶対に……！」

りん「よしつ、探すか」

くるみ「嫌よ動ぐの……探している間にハンターに見つかったら、
何もかも終わりじゃない……！絶対やらない……！」

ラブ「リスクは冒したくない・・・！誰かやつてよ」

落し物を探す為に動けば、ハンターに見つかる危険が高まる。探し
てあげるかあげないかは逃走者の自由。

逃走者達は、落し物を探し当てる事が出来るのか！？

ゲームスタート！（後書き）

逃走に役立つアイテムとは、一体何なのか！？

それは、次回明らかとなるだろう！

逃走アイテム（前書き）

アイテムを獲得するべく、動き出した逃走者達！

彼女達が受け取る、役立つアイテムとは！？

逃走アイテム

4人の観光客が探している落し物を届ければ、逃走に役立つアイテムを受け取る事が出来る。現在落し物を探しているのは、うらう・りん・祈里の3人。

祈里「ビーチボールにサングラスに・・・」

うらう「シュノーケル・・・フィン・・・」

りん「何処だらうな・・・」

落し物はエリアの何処に落ちているか分からぬ。また探すには動くしかない為、動けばハンターに見つかる危険が高まる。

なぎさ「近くにありそうな気がするんだけどな・・・」

かれん「ハンター来そうで怖いわ・・・」

ほのか「穴場に落ちてそうで危険だわ・・・」

こまち「一寸^{ちょっと}探してみよっかしら・・・?」

3年生の中で、動くのはこまちただ1人。

ひかり「サングラスとか見つかりにくそうだけど・・・探してあげないと、その人困るから」

のぞみ「ビーチボールなんて落とすかな、普通」

ひかりとのぞみも、危険を顧みずに落し物を探す。

かれん「それにしても、暑過ぎる・・・少し水分補給した方が・・・」

日陰で休んでいるかれんの近くにハンター・・・

かれん「こんなに暑い夏、今まで経験した事無いわ・・・ホントに・・・ん・・・？ハンター・・・！」

見つかった・・・

一日散に逃げるかれん。建物の影を利用し、上手く撒いた様だ。

かれん「これ・・・休んでる暇無いわね・・・いつハンターが来るか・・・」

しかし、彼女が向かう先に別のハンターが・・・

ピ――――――――――――――

そして、見つかった・・・

かれん「うわーっ！」

一日散に逃げ続けるかれん。しかし、その距離は徐々に詰められていく。最早、逃走不可能・・・

かれん「あうっ！」

ポンッ

残り時間 107分9秒 水無月かれん確保 残り15人

かれん「嘘でしょ・・・? あんな所にハンターがいるなんて・・・!
うわ〜・・・ホント悔しい・・・」

休憩した事が仇あだとなつた・・・

えりか「あつ・・・!『水無月かれん確保』・・・!」

こまち「かれんが・・・!?」

くるみ「嘘・・・かれん・・・」

ラブ「一寸待つちよつとて・・・! びんごん捕まつてくじゃん・・・!」

のぞみ「何処かな〜?」

落し物を探しているのぞみ。すると・・・

のぞみ「あつ〜! ビーチボールあつた!」

ビーチボールを発見。これを該当する観光客に届ければ、お礼に逃走に役立つアイテムを受け取る事が出来る。

のぞみ「さて、誰が探してるんだろうな〜・・・うわ〜!」

りん「わあ〜!」

曲がり角からりんが現れた。

のぞみ「り・・・りんちゃん・・・！おど脅かさないでよ～」

りん「それは『ひちの台詞』だよ・・・！心臓止まるかと思つたじやん・・・！あれ？のぞみ、ビーチボール見つけたの？」

のぞみ「うん。今から届けに行くところ」

りん「あっちに『ビーチボール』って何回も言いながら彷徨わなわないてた人を見かけたんだよ。だから、多分その人のだと思う」

のぞみ「ホントに？教えてくれて有難うれう」

りん「いやいや。・・・つてハンター來たよー！」

のぞみ「ええ～！？」

のぞみとりんがハンターに見つかった。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピ――――――――――――――――――

りん「こっち來た・・・！」

りんだ・・・

一目散に逃げるりん。アスリート並みの脅威の瞬発力でハンターの追跡を振り切った。

りん「ビビッた・・・！」

彼女が逃げた先には・・・

りん「あれ？これってフインじゃない？」

落し物であるフインを発見。

りん「誰だろう、これ落としたの？探さないと・・・！」

のぞみ「危なかつた・・・！あれで来られたら、絶対逃げれないよ
・・・ん・・・？あの人かな？」

のぞみがオロオロしている観光客を見つけた。

のぞみ「すみません」

女「はい？」

のぞみ「あれ！？あなた、なぎさんとの同級生の・・・志穂さん！？」

ビーチボールを探していた観光客は、何と言つ事か、なぎさんとの
かの同級生・久保田志穂だつた。

志穂「ええ！？何で、何で、何で！？何でのぞみがこんな所に
いるの！？」

のぞみ「いや・・・私、今逃げてるんですけど・・・」

志穂「その格好・・・もしかして、逃走中！？」

のぞみ「……とは一寸違ひゲームひとつですね……」

志穂「あつーそれって、それって、それってー探してたビーチボーリ吉祥!」

のぞみ「わうなんですか?じゃあ、どうだ?」

のぞみは志穂にビーチボールを渡す。

志穂「有難う!それじゃあ、それじゃあ、それじゃあ……お礼つて言つちやあれだけど……はい!」

志穂が渡してくれた物とは……

のぞみ「ほ・・・保冷剤・・・?」

志穂「のぞみ結構暑そうだし、これで少し涼んで!それじゃ!頑張つてねー!」

のぞみ「はい。有難う御座います」

のぞみは、志穂がくれた物に疑問を抱いていた。

のぞみ「これが逃走に役立つアイテム?……あれ?紙切れがある・

・何これ?」

その紙切れに書かれていたのは、道具の説明だった。

のぞみ「何何?」

彼女が受け取った保冷剤らしき物は、実はハンター冷却剤。これをハンターに投げ付ければ、1体だけハンターを冷却させて足止め出来る。但し、灼熱の太陽が照り付けている為、その効力は5分間のみ。

のぞみ「絶体絶命の時に役立ちそう・・・！」

少し勇気が湧いてきた様だ。

せつな「この逃走中・・・出てた人達皆怖いって言ってたけど・・・実際やってみると、ホント怖いわ・・・」

ハンターの恐怖に駆られるせつな。足取りが重く、思う様に動けない。

美希「アイテム・・・まさかハズレがあるって事は無いでしょうね・・・？」

アイテムにハズレは無い。

祈里「早く探してあげないと・・・！」

落し物を探す祈里。

その近くに黒い影・・・

祈里「ハンターいた・・・！こつちは危ない・・・！」

逸早くハンターに気付き、その場を離れる。ハンターは祈里に気付

いていない。

しかし、そのハンターが向かう先には・・・

せつな「どうすればいいの・・・？」

せつなの姿・・・そして、見つかった・・・

せつな「えつ・・・？いや～！」

背後から迫るハンターに気付き、一目散に逃げるせつな。しかし、
気付くのが遅過ぎた。最早、逃走不可能・・・

せつな「ああ～！」　ポンッ

残り時間103分27秒　東　せつな確保　残り14人

せつな「ええ～・・・？精一杯頑張ろうとした矢先に・・・嘘～・・・

・

ピリッピリッ　　ピリッピリッ

いつき「メールだ・・・！」

ラブ「せつなが捕まつた・・・！」

なぎさ「ヤバいな～・・・減り方が尋常じゃないよ・・・！」

りん「あの人かな？」

りんが探し物をしていると思われる男を発見。

りん「すみません」

男「えつ？」

りん「あれっ！？あんた咲の同級生の・・・健太！？」

その観光客は、咲と舞のクラスメイト・星野健太だった。

りん一 何してんの、こんな所で！？

健太「俺は泳ぎに来たに決まってるだろ。お前こそ何してんだよ、そんな派手な色の服着て」

りん「今、ハンターっていうのから逃げてるんだよ」

健太「それって、逃走中の事か?」

りん「まあ、言わばそれに似たゲームだね」

健太「あれ？ それって、俺が探してたフインじゃねえか。見つけてくれたのか？」

りん「うん。ていうか、あんたのだつたんだ。じゃあ・・・はい」

りんは健太にフインを渡す。

健太「サンキュー！じゃあ、そのお礼で・・・」

健太が渡してくれた物とは・・・

りん「ローラースケート?」

健太「もう俺にはサイズが合わないし、これでたこさん活躍してくれ。じゃあな!」

りん「何でこんな所で親父、ギャグを・・・?あれ?何、この紙?」

またしても、道具の説明が書かれた紙切れ。

彼女が受け取ったローラースケートらしき物は、緊急用逃走靴。これを履くと、延べ1分間ハンター以上の速さで逃げる事が出来る。

りん「結構履き心地いいじゃん」

正に虎に翼だ・・・

観光客の中には、家族で遊覧船を楽しむ者も数多くいる。しかし・

・
母親「あれ?チケットが無い!-せつきました^{はず}筈なのに・・・」

父親「家に忘れてきちゃったかも・・・」

母親「今日は諦めようか?」

子供「やだー!船に乗りたいー!」

子供「乗せてくれなきゃヤダー！」

子供「うわーん！」

チケットが無く、困り果てている3組の家族。そして、船に乗れずに泣きじやぐる7人の子供達。

その泣き声に共鳴し、近くにあるボックスで、逃走者達が嘗て倒した怪物達が、ハンターとなつて田原めよつとしている・・・

「ひひひ、早く探してあげないと・・・」

ピコッピコッ ピコッピコッ

「ひひひ、えつ？ 何？ 」

メールだ・・・

美希「ミシシヨンー・・・！」

ほのか「『港の船乗り場で、3組の家族がチケットを無くして困っている』・・・」

えりか「『残り85分までに、それぞれの家族にチケットを渡して』

・・・」

くるみ「『引き連れている子供を泣き止ませなければ』・・・」

のぞみ「『最大7体のハンターが放出されてしまつ』……ええ、
!? 7体も! ?」

舞「『急ぎたまえ!』……7体とかシャレになんないでしょ……
! ?」

MISSION? ハンター放出を阻止せよ!

港の船乗り場で2人家族・4人家族・6人家族の親が遊覧船に乗る為のチケットを無くし、子供達が泣き出してしまった。残り85分になると、その泣き声に共鳴して、ザケンナー・ウザイナー・コワイナー・ホシイナー・ナケワメーke・ソレワターセ・デザトリアンを封印したボックスからハンターが放出。その数は最大で11体に増えてしまう。阻止するには、それぞれの家族に遊覧船のチケットを渡し、子供達を大人しくさせなければならない。なお逃走者が持っているのは、自首用のチケット1枚。チケットは1枚につき2人しか有効でない為、4人家族には2枚、6人家族には3枚を他の逃走者と出し合つて渡さなければならない。

祈里「と言つ事は……これを渡すと、自首出来なくなるつて事だよね……?」

そう……ハンター放出を阻止するには、自首の権利を棄てるしかない。

ラブ「あたし自首したいもん。渡したくないよ

えりか「任した方がいいでしょ? 誰かやるよ」

くぬみ「血首はしないけど、ミッションには絶対行かない」

エリアには4体のハンター。ミッションに動けば、遭遇する危険も高くなる。

ハンター放出まで、およそ14分。

ハンター放出を防げるのか!?

逃走アイテム（後書き）

ここまで4人の逃走者（つぼみ・咲・かれん・せつな）が確保された
残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・ラブ・ひかり・えりか・くる
み・こまち・なぎさ・美希・舞・ほのか・うらら・いつきの14人
復活した怪物達！逃走者達はどうなつてしまつのか！？

ハンター放出阻止へ！（前書き）

14人に課せられた最初のミッション！

怪物達、そしてハンターを封印する事は出来るのか！？

ハンター放出阻止へ！

残り85分までに、3組の家族に自首用のチケットを規定枚数渡さなければ、子供達の泣き声に共鳴して、最大7体のハンターが放出されてしまう。

美希「とりあえず、こまちさん電話して・・・2枚のチケットを渡さないと」

美希はこまちに電話を掛ける。

プルルルルル

こまち「美希さんから・・・もしもし？」

美希「こまちさん、今どの辺ですか？」

こまち「今ね、私旅館の近くなのよ」

美希「旅館・・・なるほど。あたしは浜辺の方なんですよ」

こまち「浜辺の方・・・」

美希「はい。こまちさん、ミシシショノビツします」

こまち「勿論やるわ」

美希「じゃあ、お互いのチケットを合わせて、4人家族に渡しますよ」

こまち「美希さんも行くの？」

美希「行きます、行きます」

こまち「それじゃあ、港で待ち合わせて事で

美希「分かりました」

2人は電話を切った。

こまち「港・・・あつ・・・！ハンター・・・！」

こまちの視線の先にハンター・・・

逸早く見つけ、回り道をする。ハンターは気付いていない様だ。

こまち「エリアが狭いから、ハンターに遭う危険が高いわ・・・」

思う様に港に近付けない。

なぎさ「周りに人がいないな・・・よしつ、2人家族に渡すか

いつき「ここにいても、泣き声がすごく聞こえる・・・あの子達を大人しくさせないと・・・！」

なぎさといつきも、危険を顧みずミッションに向かう。

しかし、その近くに黒い影・・・そして、見つかった・・・

ハンターが視界に捉えているのは・・・

ピ――――――――――――

なぎさ「えつ・・・つわーー！」

なぎさだ・・・

いつき「あつ・・・・・なぎさを追われてる・・・危ない・・・」

「・」

なぎさに釣られて、いつきも逃げる。

しかし、彼女が逃げる先に別のハンター・・・

いつき「暫^{しば}くは離れて様子を・・・つてわ～っ！」

ハンターと鉢合わせに・・・

一目散に逃げるいつき。その時、なぎさを追つていたハンターの標的が、突然いつきに変わった。

いつき「ええ～！？ 何で～！？」

逃げ続けるいつき。しかし、その差はどんどん無くなる。最早、逃走不可能・・・

いつき「うわあ～！」 ポンッ

残り時間96分38秒

明堂院いつき確保

残り13人

いつき「2体で追つて来られた・・・しかも速いし・・・」

祈里「『明堂院いつき確保、残り13人』・・・！」

えりか「つぼみもいつきも捕まっちゃったよ・・・」

なぎさ「早く港に行って、チケット渡さないと・・・！」

港へと続く一本道に差し掛かったなぎさ。ところが・・・

男「いじらつー何なんだ君は!-?」

なぎさ「へつ!-?」

突然2人組の男に道を塞がれてしまった。

男「ここから先は関係者以外立ち入り禁止だぞ!-」

なぎさ「あたしは、ただこれを・・・」

男「何だ?遊覧船に乗るのか?」

なぎさ「そつじやないんですけど・・・」

男「だつたら話にならん!-帰れ!-」

なぎさ「ちよ、一寸待つて下さいよーあたしは、これをあそこで泣いてる子に渡そつと思つて・・・」

男「どうじても通りたかったら、通行証を持つて来なさい」

ながわ「通行証?そんなの何処で手に入るんですか?」

男「漁協に行けば発行してもらえる。話はそれからだ」

ながわ「ええっ…漁協までかなりあるじゃん! ありえないと!」

港に入る為には通行証が必要となる。その為、漁協に行つて発行してもらわなければならぬ。

ながわ「何でメールに無い事までやんなきゃいけない訳!?」

「まあ」「あら? ながわさん?」

愚痴を漏らしてこちらの近所に、しまりが通り掛かった。

「まあ」「ながわさん、どうしたの?」

ながわ「しまりさん、どうしたの?」

しまり「どうじて…港に行かない? リッシュコンは出来ないのよ?」

ながわ「漁協で通行証を発行してもらわないと、港に入れさせてくれないんだよ…」

「まあ」「ええ…? メールでそんな事書いてなかつたでしょ?」

ながわ「やつだよーだから焦つてんだよー。」

なぎやと一緒にこまちも漁協へと向かつ。

「まち「こ」の逃走中、実際の放送以上にハードル高過ぎるわ・・・」

りん「あつ・・・のぞみ」

りんがのぞみと合流。そこへ祈里もやつて来た。

のぞみ「りんちゃん、折角3人いるから、これで6人家族に渡しに行こう!」

りん「OK!」

祈里「ハンターには気を付けよ! 大勢で動けば、見つかる危険も高くなるし」

りん「のぞみ、特にあんたは出しゃばんないでよ

のぞみ「ふえーん・・・そんなの分かってるよ・・・」

何も知らずに、3人は港へと向かう。

一方、他人任せのこの2人は・・・

ラブ「港からハンター来られちゃ、自首出来ないよ・・・誰かハンター止めて」

くるみ「兎に角・・・安全策を常に取らないと・・・動いたら、ハンターの思つ壺よ・・・!」

動きたくない様だ。

美希「あれ？ こまちさんは？」

港の近くにやつて来た読者モデル。しかし、そこにこまちの姿は無い。

その近くに黒い影・・・

美希「こまちさん、何処行つたのかしら・・・？」電話してみた方が・・・ヤバい、ハンター・・・！」

見つかつた・・・

一目散に逃げる美希。彼女が逃げる先には・・・ミッションに向かう3人の姿・・・

のぞみ「もう一寸で港に着くよ」

祈里「あれ？ あれって・・・美希ちゃん？」

りん「ハンターに追われてない、まさか？」

美希「3人とも逃げて！」

りん「やつぱりだ！」

美希に釣られ、3人も一目散に逃げる。

ハンターに追われ、3人はバラバラに・・・

尚も逃げ続ける美希。しかし、その差がどんどん縮まっていく。最早、逃走不可能……

美希「ああっ！」　ポンッ

残り時間93分50秒　蒼乃美希確保　残り12人

美希「うわ～・・・捕まつた・・・」まちさん、ゴメンなさい・・・

「

ピコッピコッピコッピコッ

「うひひ「また確保情報だ・・・！」

ラブ「えっ！？ 美希たん捕まつた！」

ほのか「あの運動神経抜群の美希さんが・・・」じじで捕まつた・・・

！」

えりか「どんどん捕まつてるよ・・・」ヤバ過ぎだつて・・・！」

その頃、なぎわとじまちが漸く漁協に到着。

なぎわ「すみません！あの・・・」

「まち「港の通行証を発行してほじこですけど・・・」

受付「お名前は？」

なぎや「美豊なぎやです」

「まち「秋元」まちです」

受付「かしこまつました。少々お待ち下さい」

そつ言つて、受付の者は中の方へ消えていった。

?「あれ?なぎやさんここまちさん」

2人の背後から突然声を掛けた人物。それは・・・

なぎや「ひ・・・ひかり・・・急に声出さないでよ・・・!」

ひかり「すみません・・・あの、お2人はここで何を・・・?」

「まち「ミッションの為に港に行こうとしたんだけど、通行証が必要だつて言われて・・・」

なぎや「ここで今発行してもらつてるとこや」

ひかり「ええ?港には入れないんですか?」

こまち「みたいなの・・・それにしても、ひかりさんは何でこんな所に?」

ひかり「私はここでミッションに行く人を探してたんですが・・・誰も見つけられなくて・・・」

受付「お待たせしました」

受付の者は、なぎさとじまちの通行証を持つて現れた。

受付「どういたしまして」

なぎさと・じまち「有難う御座います!」

ひかり「お二人は、4人家族にチケットを渡すおつもりなんですか？」

じまち「私は美希さんと行くつもりだったけど・・・捕まつたみたいだし・・・」

なぎさと「あたしは、最初から2人家族のをやううと思つてたから・・・」

・

ひかり「じゃあ、私のチケット」じまちさんに託します。これで4人家族を助けてあげて下さい」

なぎさと「ひかり、自首しないの？」

ひかり「絶対しません!逃げ切ります!」

じまち「ひかりさんのその意思、私がしつかり伝げるわ!」

ひかり「お願ひします!」

じまち「なぎさとさん、急ぎましょ!」

なぎさと「ホントだ、あと6分ぐらい・・・じゃあひかり、行って

くぬめー！」

ひかり「頑張つてくださいー！」

2人は港へと急ぐ。

ひかり「そ、うだ・・・・・！他にミシシヨンに行く人に伝えないと・・・・・！時間無いし・・・・！」

ひかりは逃走者達に電話を掛ける事に。

プルルルルル

りん「電話・・・・？ひかりからだ・・・もしもし？」

ひかり「りんさん？通行証つてもらいました？」

りん「通行証？何それ？」

ひかり「漁協で発行してもらえる物なんですが、それが無いと港に入れないんですよ

ひかり「はあ！？何その制度！？そんな物持つてる訳無いじゃん！漁協にも行つてないし

ひかり「私ももらいたいんですけど・・・先に発行したこまちさん

にチケットを託しちゃつたんで・・・

りん「こまちさん、発行したんだ」

ひかり「はい。なぎさんも一緒に発行してもらつてました。なので、先ずは漁協に来てください」

りん「OK! 有難う、教えてくれて」

2人は電話を切つた。

りん「よしつ・・・! 漁協か・・・急がないと、時間無い・・・」

漁協を目指すりん。

ハンター放出まで 5分

なぎさとこまちは、港へと続く一本道へとやつて来た。そこには、先程なぎさを足止めした2人組の男・・・

男「君は・・・さつきの」

なぎさ「ほら・・・言われた通り、通行証持つて来ましたよ。これで文句ないでしょ?」

なぎさと一緒に、こまちも通行証を見せる。

男「うん、いいだろ? 通つていー」

男達は道を開けてくれた。

こまち「有難う御座います」

なぎさ「よーしー。」

2人は、それぞれが担当する家族の許へ。

ながれや「すみません。このチケット、良かつたら使って下さい」

母親「いいんですか？」

ながれや「いいんです。あたし、遊覧船乗らないんで」

母親「すみません、有難う御座います・・・」それで遊覧船乗れるよ

！

子供「ホントに…やつた…お姉ちゃん、有難う…」

ながれや「いやいや、びっくりました」

「まあ」「あの・・・すみません・・・チケットを無くされたみたいですね・・・」

父親「あつ・・・実はそつなんですよ・・・」

「まあ」「だつたら、この2枚のチケット受け取つてください」

母親「いいんですか、こんないい物もらつても」

「まあ」「いいんですよ。お子さん達と、これでいい思い出作つてく
ださい」

父親「すみません、こんな不注意な私で・・・ほら、これで遊覧船
乗るや」

子供「乗れるの！？」

子供「やつた～！嬉しいな～！」

母親「すみません。本当に有難う御座います」

こまち「いえいえ、喜んでいただければ・・・」

ハンター放出まで 4分

ピリッピリッピリッピリッ

舞「何かしら・・・あつ、//シジョンの途中経過・・・」

ひらり「『美墨なぎさ・九条ひかり・秋元こまちの活躍によつ』・・・」

ほのか「『2人家族と4人家族の子供達が泣き止み、3体のハンタ一放出は免れた』・・・」

ラブ「『残るは6人家族のみ』・・・ヤバいな～、あと3分半ぐらいで4体出できちゃうよ～・・・」

くるみ「なぎさつたら・・・活躍したがりなのが良く分かるわ・・・完全な偽善者ね・・・」

りん「よしつ、着いた！」

りんが漁協に到着。

りん「すみません。あの・・・通行証を発行して下さー

受付「お名前は?」

りん「あたし、夏木りんです」

受付「かしこまりました。少々お待ち下さい」

そう言って、受付の者は中の方へ消えていった。

りん「早くしてほしいな・・・マジで時間無いよ・・・」

ハンター放出まで 3分30秒

このままでは4体のハンターが放出され、合計8体となってしまう。

間に合ひつか!?

ハンター放出阻止へー！（後書き）

逃走者への応援メッセージも宜しくお願ひします！

しかし、自分でやる事増やしてゐるから、全然^{はかど}持らない・・・

更新頻度も酷くなつてゐるし・・・

〃ミッション終了！（前書き）

未だに泣き止まない4人の子供達。

3枚のチケットを渡し、ハンター放出を防げるのか！？

〃シショノ一終ア！

祈里「のぞみちゃんにりんちゃん、何処行つたんだろ？・・・？」

ハンターに追われて、2人と逸れてしまつた祈里。

フルルルルルル

祈里「ん？電話だ・・・ひかりちゃんから・・・もしもし？」

ひかり「祈里さん、港の通行証持つてないですよね？」

祈里「通行証？何それ？」

ひかり「港に入る為には、漁協から発行してもうつ通行証が無いといけないんですよ」

祈里「嘘！？そんな事メールに書いてなかつたじゃん！」

ひかり「そりなんですよ。それで、今りんさんが通行証を発行しに行つてるんで、りんさんを見つけたら、チケットを渡してほしいんです」

祈里「分かつた」

2人は電話を切つた。

祈里「それにもしても酷いよ・・・指示してない事をやれって・・・意外性を求める過ぎてる感じがする・・・」

受付「お待たせしました、ビッグ！」

一方で、りんは漸く通行証を受け取る。

りん「有難う御座います！」

そして、通行証を手にするや否や、一目散に港を指す。

ハンター放出まで 3分

りん「ヤバいな・・・マジで時間無いじゃん・・・歩いてたら
絶対間に合わない・・・」

くるみ「あと3人の偽善者が必要なんでしょう、ハンター出て来させ
ない為には・・・」

人任せ且つ貢献者を侮辱する、準お世話役のミルクこと美々野くる
み。

くるみ「ずっと隠れてれば、ハンターなんか見向きもしないわよ・・・

自分の事しか頭に無い様だ。

しかし、その近くにハンター・・・

くるみ「えっ・・・あれハンターじゃない・・・何で近くにい
るのよ・・・!？」

その場から離れ、素早い身のこなしで、物陰に身を隠す。気付かれていない様だ。

くるみ「危ない……見向きはしなかつたけど……近くで見ると、ハンターってホントに怖い……！」

ハンター放出まで 2分30秒

舞「行きたいけど……距離あるし、時間無いし……諦めましょう」

ひいら「動く理由が無いと動けないよ～」

ほのか「次のミッションは絶対やるから、リリは誰かお願ひ……！」

舞・ういら・ほのかはミッションを諦めた。

りん「のぞみと祈里を探さないと……3枚必要だし……！」

祈里「あっ、りんちゃん！」

祈里が、港へ向かつて走るりんを見つけた。

りん「ん？ああ、祈里！」

祈里「はい、チケット！」

祈里はチケットをりんに託す。

りん「あと一枚だ・・・！」

祈里「近くにのぞみちゃんがいたから、早く行つてあげて」

ハンター放出まで 2分

りん「ホントに？」

祈里「うん。あつ・・・・・ 急いだ方がいいよ！もう2分切つてる！」

りん「マジで！？ボヤボヤしてらんないよ・・・！」

のぞみを探し、再び走るりん。

こまち「誰か行つてないのかしら？」

なぎや「ヤバいよ・・・！」のまま4体増えたら、絶対的に不利だ
よ・・・！」

チケットを渡してしまい、ミッションに参加出来ない2人。焦りを
露^{あらわ}にする。

りん「ハンターいないかな・・・？」こんな時に出くわしたら最悪だ
よ・・・！」

緊急用逃走靴を履いているりん。ハンターに追われても、これを発動させれば、延べ1分間だけハンター以上の瞬発力を発揮出来る。

りん「こんな時に使いたくない・・・！飽^あくまでも、切り札として
残しどきたい・・・！」

脚力に自信があるのか、今のところ1秒も使用していない。

ハンター放出まで 1分30秒

りん「くそ・・・何処にいるんだよ、のぞみは・・・！」

ひかり「りんさんが捕まつたら、粗聞違いなくハンターが放出され
ちゃう・・・！」

電話を掛けたひかりも不安を隠せない。

ラブ「あと一分15秒じゃん・・・まだ泣き声治まつてないよ・・・
・へ・じうすんの・・・？」

港付近に身を潜めているラブも恐怖に駆られている。

のぞみ「りんちゃん・・・何処なの・・・？」

今にも泣きそうな声で、りんを探しているのぞみ。

りん「あつーのぞみー！」

のぞみ「ふえ？」

りんがのぞみを発見。

りん「何処いたのー・ずつと探してたんだよー？」

のぞみ「私だって、りんちゃんの事探してたんだよー」

りん「それは兎も角……のぞみ、早くチケットをー。」

のぞみ「あつ・・・・・そつだ、そつだ・・・・・はーー。」

ハンター放出まで 1分

のぞみはりんにチケットを託す。

のぞみ「あと1分切ってるよ? 意がないとー。」

りん「のぞみは来ちゃダメ! 行つても止められるからー。」

のぞみ「どうじごう事?」

りん「説明は後でー! とりあえず、行つて来るからー。」

持ち前のフットワークで港を田舎すりん。間に合つのか。

牢獄

つぼみ「まだ泣き声が聞こえます

咲「早くしないと、ハンター出でちゃひつね

かれん「誰か行くんじゃないかしりん。」

せつな「行かなきゃダメでしょ?」

いつき「8体は絶対きついよ」

美希「逃げ切れる確率がかなり下がるしね・・・」

りん「あそこか、港つて?」

りんは漸く^{よしづや}港へと続く一本道に差し掛かった。

男「いらっしゃー何なんだ君は!?!?」

りん「わっ!」

道を塞ぐ2人組の男。

男「ここから先は関係者以外立ち入り禁止だぞ!」

ハンター放出まで 30秒

りん「これーこれで通して下さい!」

りんは男に通行証を見せる。

男「それは・・・通行証・・・いいだらう、通つていい

男達は道を開けてくれた。

りん「有難う御座います・・・」

ハンター放出まで 20秒

りん「すみません・・・！」のチケット・・・使って下さい・・・！』

母親「そのチケット・・・遊覧船の・・・」

りん「はい・・・！これで家族皆で乗つて下さい・・・！」

ハンター放出まで 10秒

父親「いいんですか？」

りん「いいんです・・・！びつびつ・・・！」

母親「すみません、有難う御座います・・・ほら、これで遊覧船乗
うづ

子供「乗れるの！？」

子供「わ～い！」

子供「お姉ちゃん、有難う！」

子供「有難う！」

りん「いやいや・・・いって

ミッションクリア

りん「危なつ・・・あと2秒くらいたじやん・・・ギョギ
リ・・・」

3組全ての家族の子供が泣き止み、ハンター放出は免れた。

ペコッペコッペコッペコッペ

舞「メール来た・・・//シジョンの結果・・・」

えりか「『夢原のぞみ・夏木りん・山吹祈里の活躍により』
ラブ「『6人家族の子供達が泣き止み、7体全てのハンター放出は
免れた』・・・やつた！」

つひり「すいこ・・・」

ほのか「頼れる後輩達ね・・・」

くぬみ「つんはせると黙つてたけび、まわかのぞみと祈里がね〜・・・

・」

エリアで逃走者を捜索するハンターは、引き続き4体のまま。

全てのハンターボックスが封印され、復活目前だった怪物達も、
神達が眠る海の中へ封印された・・・

海^{わた}

うらら「折角ハンター放出の危機も去つた訳だし・・・落し物を探してあげよう」「

再び落し物の検索に乗り出すアイドル。

しかし、その近くに黒い影・・・

うちら「何処かな～？」の辺に落ちてる氣がするんだけ・・・うわ
っ、ハンター！」

見つかつた・・・

一目散に逃げるつらう。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

「わあ～！」「ひひひ～！」

残り時間 82分51秒
春日野うらら確保
残り11人

うひか「捕まつたー・・・悔しいー・・・!」

ひかりーあつ・・・ー! つらが捕まつた・・・! 「

のぞみ 嘘……！？ついに捕まつたの……！？

ほのか「これで、芸能人2人が揃つて捕まつた訳ね・・・」

舞「あれ？あの『』形の物つて・・・」
ゆみなり

舞が何かを見つけた。

舞「あつ・・・・・！シユノーケルじゃない・・・？」

見つけたのは、とある観光客が落としたシユノーケル。これを該当する者に届ければ、逃走に役立つアイテムがもらえる。

舞「誰かしら、落としたのって・・・」

彼女はシユノーケルの持ち主を探す事に。

祈里「あつ！あれって・・・」

祈里も何かを見つけた様だ。

祈里「サングラス・・・・これって、さつきのメールにあった落し物？」

サングラスを発見。

祈里「美希ちゃんもせつなちゃんも捕まっちゃったし、ラブちゃんは自首したいって言ってたし・・・私が頑張らないと・・・！絶対出来るって・・・私、信じてる・・・！」

舞「探している様な仕草をしている人がいればいいけど・・・」

シユノーケルを届けるべく、エリアを彷徨う舞。その時・・・

？「おい、お嬢ちゃん！」

不意に声を掛けられ、吃驚する舞。声の主とは……

舞「あ……あなた確か……ドーナツ売りのカオルちゃんでした
つけ……？」

クローバータウンストリートのドーナツ売り・カオルちゃんこと橋
薰だ。

薰「おお……いやそいつじゃなくて、そのシユノーケル俺が探し
てた物なんだよ」

舞「あつ、そうだったんですね。じゃあ、どひだ」

舞は薰にシユノーケルを渡す。

薰「有難ね。えっと……」

舞「私、美翔舞です」

薰「舞ちゃん、お礼として……」れあげちやひー」

薰が渡してくれた物とは……

舞「虫除けスプレー？」

薰「舞ちゃんのその純白な肌、蚊に刺されたら台無しだからね……
グハッ！それじゃ、頑張つて！」

舞「有難う御座います……あれ？」の紙切れ……」

道具の説明が書かれた紙切れだ。

彼女が受け取った虫除けスプレーらしき物は、ハンター除けスプレー。これをハンターに向けて噴き付けると、そのハンターは一定時間追つて来なくなる。但し、量に限りがある為、慎重に使わなければならない。

舞「すごくいい物じゃない、これ……！」

かなりの自信が湧いてきた様だ。

祈里「何処にいるのかな～？サングラスを落とした人……」

祈里もサングラスの持ち主を探していた。その時……

?「それ、私のサングラスじゃん！」

突然の大声に吃驚する祈里。声の主とは……

祈里「えつ？ミ・・・ミコキさん！？」

人気ダンスユニット・トリニティのリーダーのミコキだ。

ミコキ「祈里ちゃん！？何でこんな所にいるの！？」

祈里「私は、ハンターって言う人達から逃げてる最中で……」

ミコキ「それって、若しかして逃走中の事？」

祈里「それに似たゲームですよ。カメラも付いてないですから。で

も、ミコキさん」何でここに？」

ミコキ「久しぶりのオフだから、大輔と2人でここに。…それは
そうと、早くサングラス返して」

祈里「あっ…。…そうでしたね、すみません。どうぞ」

祈里はミコキにサングラスを渡す。

ミコキ「有難う。じゃあ、お礼にこれあげるね」

ミコキが渡してくれた物とは…。

祈里「何ですか、これ?」このタイマーに結構似ていますね」

ミコキ「きっと何かの役に立つと思つよ。じゃあ、頑張つてね!」

祈里「有難う御座います。あれ?何、この紙…?」

彼女が受け取ったタイマーらしき物は、GPSモニター。これを使
うと、初期のハンター4体の居場所を知る事が出来る。但し、追加
されたハンターの居場所は認知出来ない。

祈里「この4つの黒い点がハンターって事なんだ…。…これなら
逃げ切れそう…。…!」

心強い味方を付けた様だ。

その頃、ダイビングに使われるタンクの充填所では・・・

従業員「おい！60本積んで来た筈なのに、何で55本しか無いんだよ！？」

スタッフ「そ、そんな筈は無いですよ！」

従業員「だつてほら！」

並べられた空タンクは、確かに55本しか無い・・・

スタッフ「ええつー？な・・・何で・・・？」

従業員「何でつて・・・お前が全部積まなかつたからだろ！一気に充填したかつたのに・・・コンプレッサーが止まつたら、なかなか再起動出来ないのお前だつて知つてるだろ！」

スタッフ「す・・・すみません！」

ビーチに置かれた空タンクを全て回収してなかつたスタッフを叱咤する従業員・・・

そして、ビーチに置き去りとなつた5本の空タンクが、逃走者の運命を左右する・・・

ひかり「ハンターいそゞで怖い・・・」

ピコッピコッ ピリッピリッ

ひかり「あつ・・・メールかな・・・?」

ラブ「うわー・・・來たよ、ミッション2・・・」

なぎさ「『ビーチにスタッフが回収しなかつた5本の空タンクがある』・・・」

のぞみ「『残り60分までに、全ての空タンクを充填所に運ばなければ、コンプレッサーが停止してしま』・・・」

舞「『ゲーム時間が30分間延長されてしまつ』・・・ええ!?30分も!?』

りん「『全員で協力し、空タンクを全て運びたまえ!』・・・30分延長つて・・・シャレになんないよ・・・!』

MISSION? ゲーム時間延長を阻止せよ!-

ビーチに置き去りとなつた5本の空タンク。残り60分になると、これを充填する為のコンプレッサーが停止してしまい、ゲーム時間が30分間延長。勿論、その分の賞金も減らされてしまう。それを防ぐ為には、5本の空タンク全てを充填所まで運ばなければならぬ。

こまち「30分延長はきついわ・・・!-とりあえず、ビーチ行かな
いと・・・!」

りん「30分も時間延ばされたら、絶対最後まで行き付けないよ・・・!」

くるみ「5人行けばいい話でしょ？だったら、6人は別に行かなく
つたつていい訳だし・・・」

ラブ「ビーチから充填所までって、かなり距離あるじゃん・・・！
絶対ヤダ・・・！」

動けばハンターに見つかる危険が高まる。

ゲーム時間延長まで、およそ14分。

全ての空タンクを運ぶ事は出来るのか！？

//ショーンー終アー！（後書き）

ここまで7人の逃走者（つぼみ・咲・かれん・せつな・いつき・美希・うらら）が確保された

残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・ラブ・ひかり・えりか・くるみ・こまち・なぎさ・舞・ほのかの11人

逃走者に襲い掛かるゲーム時間延長の危機！

この危機を脱せられるのか！？

ゲーム時間延長阻止へ！（前書き）

猛暑の中課せられた壮絶なミッション！

逃走者達は、この難関を乗り越えられるのか…？

ゲーム時間延長阻止へ！

残り60分までに、ビーチに置き去りとなつている空タンク5本全てを充填所に届けなければ、ゲーム時間が30分間延長され、逃走者にとつて圧倒的不利な状況となつてしまつ。

えりか「残り60分で36万円なのが、失敗したら30分延長で残り90分になつて、お金は・・・半分の18万円！？ええ！？誰か早くタンク運んでよ～・・・」

くるみ「酷過ぎる話ね」

フルルルルルル

くるみ「えつ、何？ラブから・・・何？」

ラブ「くるみへ//シションビツするの？」

くるみ「やる訳無いじゃない・・・誰かやるわよ」

ラブ「そうだよね。行かない方がいいよね」

くるみ「当たり前でしょ。行つたら絶対ハンターに捕まるし・・・」

ラブ「言てる・・・じゃあね」

2人は電話を切つた。

ラブ「タンクなんて重い物運んでたら、捕まるに決まつてるもんね」

えりか・くるみ・ラブの3人は、早々に諦めて人任せに。

動けばハンターに見つかる危険が高まる。ミッショնに参加するかしないかは逃走者の自由だ。

ほのか「ビーチ近いわ……！行きましょう……！」

偶然ビーチの近くにいたほのか。ミッショնに挑む様だ。

なぎさ「力仕事なら、あたしに任せときな……！」

祈里「30分延長はかなりのマイナスだよ……！行かなきや……！」

ひかり「誰かがやらなきや、皆が揃する……！」

りん「何処だ、タンクが置いてある所？」

「まち「急がないと……！」

のぞみ「このミッションは、絶対に成功させとかないと……！」

6人もゲーム時間延長を阻止する為、空タンクを求めてビーチへと向かう。

ほのか「あれかしら、空タンクって？」

一足早くほのかがビーチに到着し、空タンクを発見。

ほのか「これね。これを充填所まで運べばいいのね？」

彼女は空タンクを一本持つ。ところが・・・

ほのか「えつ！？」一寸待つて、何これ…すこい重い…タンクってこんなに重いの…？」

空タンクの重さはおよそ14kg 持つたまま移動するのは、かなりのリスクを伴つ。

ほのか「重い…これでハンターに追われたら、絶対に逃げられないわ…！」

なぎさ「あつ、ほのか」

なぎさもベーチ付近にやって来た。

ほのか「なぎさ…このタンクすごい重いの…高を括つてたら痛い目に遭つわ…！」

なぎさ「そんなに重いの？」

ほのか「あそこにあるから…持つてみれば分かるわ…！」

言われるがままに、なぎさは空タンクの許へ。

なぎさ「タンクとはいえ、空なんでしょう？ほのかったら大袈裟なんだよ」

そう言つてタンクを持ち上げる。しかし・・・

なぎさと「うわっ！嘘！？ホントに重いーーこれを持つてけつて重いの
！？ありえないーー！」

これで、タンクを運んでいるのはほのかとなぎさとの2人。

ビーチに置かれている空タンクはあと3本。

重さに耐え切れず、タンクを置き水分補給をしながら充填所へ向かうほのか。

ほのか「ペットボトルの水・・・このタンク運びだけで結構消費しそうね・・・」

彼女が持つペットボトルには、あと200ml程度しか残っていない。

ほのか「猛暑の中でこのミッションは、体力の消耗が激し過ぎるわ・・・」

かなり重労働の様だ。

しかし、向かう先に2体のハンター・・・

ほのか「このミッションだけはやつとかないと・・・こんなところでも、もたついてる暇は・・・えつ・・・？キヤーー！」

見つかった・・・

タンクを手放し、一目散に逃げるほのか。しかし、逃げる先にもう

1体・・・挟まれた・・・

ほのか「何でこんな時に・・・止めてーーー。」

逃げ続けるほのか。しかし、ハンターとの距離が縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

ほのか「いやー！」 ポンッ

残り時間71分2秒 雪城ほのか確保 残り10人

ほのか「タンク運んでる時に2体で・・・はあ・・・きつい・・・」

体力を消耗し過ぎ、力尽きた・・・

りん「あつた、これだ」

りんが空タンクの許もとに到着。すぐさまタンクを持ち上げる。

りん「重つ！これ力無かつたら、1人じゃ無理だよ・・・！」

祈里「あつ、りんちゃん」

りん「祈里・・・このタンク結構重い・・・祈里は多分1人じゃ持てないと思う・・・！」

祈里「ホントに？」

そう言われ、祈里は空タンクの許もとへ。そしてタンクを持ち上げる。

祈里「ホントだ……すごい重い……！」一人で持ち運べなくは無いけど……辛い……！」

のぞみ「あれ？ 何であんな所にタンクが？」

のぞみが、向かう先に空タンクを発見。ほのかが運んでいた物だ。のぞみは近付くや否や持ち上げる。

のぞみ「な……何これ……お……重いよ……！」

これでタンクを運んでいるのは、なぎさ・のぞみ・りん・祈里の4人。残る空タンクはあと一本。

のぞみ「ハンター来たら、ハンター冷却剤使うしか無いね……」

志穂から受け取ったハンター冷却剤。これを投げ付ければ、ハンターを冷却させる事が出来る。但し、使えるのは1回のみ。また、その効力は5分間のみだ。

のぞみ「でも使っちゃつたら、もう使えなくなっちゃう……どうしよう……？」

祈里「あつ……！ 背後から来てる……！」

ミユキから受け取ったGPSモニターで、ハンターの位置を確認しながらタンクを運ぶ祈里。背後から近づいてくるハンターをモニターで確認し、別のルートを辿る。

ひかり「あつ……りんさん」

りん「ひかり？」

ひかりがタンクを運ぶりんを見つけた。

りん「ひかり、このタンク相当力が無かつたら絶対運べないよ。一寸持つてみな」

ひかりは渡されたタンクを持ち上げる。300ほどしか浮かばなかつた。

ひかり「重い！これ無理ですよ」

りん「無理でしょ？あっちに祈里がいたから、手伝つてあげて」

ひかり「分かりました」

そしてひかりは、祈里を発見。

ひかり「祈里さん。一緒に運びましょう」

祈里「運ぶ？」

2人は協力して充填^{じゅうてん}所を目指す。

こまち「あつた！これね」

漸^よぐビーチに辿り着いたこまち。最後の空タンクを持ち上げる。

こまち「重い・・・これは相当な重労働ね・・・」

これで、5本の空タンク全てが逃走者の手に渡った。無事に届け、ゲーム時間延長を阻止出来るのか。

なぎさ「もう少しだ、充填所」

充填所近くまでタンクを運んできたなぎさ。

その近くに黒い影・・・

なぎさ「すじい汗搔^かいてるな・・・こんなに搔^かいた事無いよ、ホントに・・・つてわー！」

見つかった・・・

なぎさ「何でこいつなるのー！？」

タンクを手放し、一目散に逃げるなぎさ。しかし、その差は徐々に詰められていく。最早、逃走不可能・・・

なぎさ「ひやー！」　ポンッ

残り時間 66分49秒　美墨なぎさ確保　残り9人

なぎさ「折角^{せっかく}ここまで運んだのに、ありえない・・・！」

くるみ「『美墨なぎさ確保』・・・だから、目立とうとすれば絶対捕まるんだつて・・・！そんな事も分からぬの・・・？ホントバ力よね、なぎさつて・・・！」

舞「なぎさん捕まつた・・・！」

田の前で確保を見た舞。

舞「あそこにタンクあるわね・・・」

なぎさが手放したタンクに近付く。しかし、その近くにはなぎさを追つたハンターが・・・

舞「不味い・・・！ハンター来た・・・！」

見つかった・・・

しかし、舞は逃げる様子が無い。

舞「あっち行つてハンター！」

シュー！

舞は薰からもらったハンター除けスプレーを使い、ハンターを退けた。

舞「ホント効果あるわね、このスプレー・・・！つて余韻に浸つてる場合じゃなかつた・・・早くタンク運ばないと・・・！」

舞は近くにあるタンクを持ち上げる。

舞「重い・・・！でもすぐそこだし・・・」

そして舞は充填所に到着。

舞「すみません。」れ、ビーチにあつた空タンクなんですか？」

従業員「持つて来てくれたなんですか？」

舞「はい。どうや？」

舞は空タンクを従業員に渡す。

従業員「有難う御座います。ほらーお前も謝れ！」

スタッフ「自分の不注意で・・・苦労掛けさせてしまい、本当に申し訳ござりません！」

舞「いいんですよ、そんな・・・」

牢獄

かれん「『美翔 舞の活躍により、空タンクが1本返還された』・・・」

咲「す、ひー舞ー。」

いつき「喜んでばかりもいられないね」

美希「でも、まだ4本残つてる訳だから・・・」

いつき「喜んでばかりもいられないね」

のぞみ「いじかな?」

充填所付近にやつて来たのぞみ。

舞「あつ、のぞみさん」

のぞみ「舞じやん・・・・」

舞「タンク運んでるの?」

のぞみ「うん・・・・」

舞「一緒に運びましょ。すぐ近くだから」

のぞみ「ホントに・・・? 有難う・・・・」

2人は協力して充填所にタンクを運ぶ。

舞「すみません。もう一本タンク持つて来ました」

のぞみ「どうぞ・・・・」

かなりバテた様子で、のぞみは空タンクを従業員に渡す。

従業員「有難う御座います!」

スタッフ「すみません。何度も何度も・・・・」

舞「いいんですよ」

のぞみ「疲れた」・・・水飲もつ・・・」

のぞみはペットボトルの水をラップ飲みする。

のぞみ「ふはあーーー働いた後の水は格別だね・・・よーし、このまま逃げ切るぞーーーけつてーーー！」

牢獄

かれん「またミッションのメールよ・・・!『夢原のぞみの活躍により、2本目の空タンクが返還された』・・・!」

つぼみ「すごいです、のぞみさん！」

せつな「あののぞみが、1人でタンクを・・・!?

ういらり「意外ですね

くるみ「のぞみつたら・・・体力無いくせに何 citttidoのよ・・・後で倒れても知らないからね」

ミッション成功者の陰口ばかり叩く、動きたくないぐるみ。

誰かの助けに行く気は全く無さないつだ。

ゲーム時間延長まで 5分

2本の空タンクが届けられ、残る空タンクはあと3本。

運んでいるのは、りん・ひかりと祈里・こまち。間に合わなければ、ゲーム時間が30分間延長され、舞とのぞみの苦労が無駄に終わってしまう。

果たして、間に合ったのか！？

ゲーム時間延長阻止へ！（後書き）

次回、ミッション2が終了！

その結果はいかに！

//シニアノン終マー（前書き）

漸く実家から帰って来て、生活も落ち着きました。

今日から更新の滞りも減ります。（多分・・・）

大学生活と両立して頑張って参ります！

//シショソノ終ア!

「まあ、早く運ばないと……時間が無いわ……」

充填所から1番遠い所にいる「まち。休み休み空タンクを運ぶ。

りん「こんな所でハンターに出来くわしたら、絶対クリア出来ないよ。
・・！」

ハンターを警戒し、充填所を田指すりん。もう少しで田的地上に辿り着く。

しかし、背後からハンター……

そして、見つかった……

りん「もう一寸だ……ハンター来るな……って言つた傍から!
？ヤバい、最悪だ！」

背後から迫つて来るハンターに気付き、タンクを手放して一田散に逃げるりん。

りん「ヤバい、このままじゃ捕まる……」うなつたら……

次の瞬間、りんはハンター以上の速さで逃げているではないか。

健太から受け取つた緊急用逃走靴の威力を発動させたのだ。

りんはそのままハンターを撒いてしまった。

りん「ホントに速いよ、この靴……あつという間に視界から消えたよ……」

ハンターから逃げる為に9秒間使用された。緊急用逃走靴の効果はあと5~1秒。

りんの後ろから空タンクを運んでいた、ひかりと祈里。

祈里「あつ」

ひかり「どうしました?」

祈里「前方にハンターがいる……！」

ひかり「ええ?」

GPSモニターで、2人が向かう先にいるハンターを確認した祈里。

祈里「こっちから行こう。こっちならハンターいないし」

ひかり「わ……分かりました」

別のルートを回る事に。

りん「ヤバい……タンク置き去りにしてきちゃった……早く戻らないと……」

ハンターに追われ、手放した空タンクと距離が開いてしまつたりん。すぐさま取りに戻る。

りん「時間無いな～・・・歩いてられない・・・！」

一方、リスクを冒したくない女の人は・・・

ラブ「誰か早くミッショングリリアして・・・そして、早く時間経つて。50万円になつて・・・！」

また、事あるごとに口出しある女の人も・・・

くるみ「何で3本目の通知が来ないの・・・?早くしてよ・・・!30分も延長されたら、堪つたもんぢやないわ・・・!」

そして、金に貪欲な女の人も・・・

えりか「半分に減るのだけは勘弁してほしい・・・早く延長止めてほしいな〜・・・！」

その場から殆ど動かず、焦燥感だけを増していく・・・

ゲーム時間延長まで 3分

ひまわり「あつたーこじね、充填所

ハンターに追われてタイムロスをしたりんと、別ルートを通つて遠回りをしているひかりと祈里を差し置いて、充填所に辿り着いたこまち。

しかし、その近くに黒い影・・・

こまち「すみません・・・空になつたタンクをお持ちしました・・・
お受け取り下さい・・・」

こまちは空タンクを従業員に渡す。

しかし、それと同時にハンターに見つかった・・・

従業員「有難う御座います!」

スタッフ「すみません。自分の不注意で・・・」

こまち「そんな・・・大丈夫ですよ・・・えつ・・・?」

こまちは迫り来るハンターに気付いたが、逃げ場無くその場に立ち往生。最早、逃走不可能・・・

こまち「・・・ ポンッ

残り時間62分41秒 秋元こまち確保 残り8人

こまち「嘘・・・ハンターいたの・・・? じょうがない」と言えぱし ょうがないけど・・・やつぱり悔しいわ・・・」

美希「ええ～ーー！」まちさん・・・」

なぎや「うわ～・・・あんなにいろいろ頑張ってたのに・・・」

のぞみ「『秋元こまちの活躍により、3本目の空タンクが返還された』・・・て事は、こまちさん・・・タンクを運んで捕まつたの・・・
・ー?ええ～・・・?」

舞「いれで、3年生は全滅・・・ビリじよつ・・・?」

ひかり「一寸走りながら行きましょ。歩いてたら絶対間に合いませんよ?」

祈里「そうだね・・・じゃあ、息を合わせて行け!」

ひかり「はい・・・!」

2人は2人3脚をする様に、息の合った足取りでタンクを運ぶ。

りん「くわ～・・・!ハンターに追われたせいで、疲労が溜まつたのかな・・・?さつきより重く感じる・・・!」

重い足取りでタンクを運ぶりん。しかし、諦めればゲーム時間が30分間延長され、他の逃走者に大きな迷惑を掛ける事になる。そうならない為にも、歯を食い縛つて彼女は充填所を目指す。

りん「何が何でも・・・」のミッションは絶対クリアさせとかない

と・・・・・

ゲーム時間延長まで 2分

牢獄

咲「残り2分切ったよ」

いつき「これ成功するかな?まだ2本残ってるし・・・」

ひいら「やつてくれる筈ですよ、咲さん」

つぼみ「えりかは信用出来ませんけど・・・お金の事しか考えてないみたいでしたから・・・」

せつな「ラブも信用出来ないわ。すぐにでも血頭したいって何回も言つてたし・・・」

かれん「ぐるみも、ミッションは無い物だと思つてゐみたいだし・・・」

ほのか「でも30分延長は相当な痛手よ?こんな猛暑じや、120分は疎か150分なんて持たないわ」

ななみ「それはやつただけど・・・」

美希「あたし達は、生き残つてゐる人達の成り行き見てるだけしか出来ませんから・・・」

その頃、ひかりと祈里は充填所近くまでやつて來た。

祈里「近くにハンターもいなさそう・・・ひかりちゃん、今なら大丈夫。行こう・・・！」

ひかり「はい・・・！」

そして2人は充填所に到着。

ひかり「すみません・・・空タンクを・・・お持ちしました・・・」

祈里「どうも・・・」

2人は空タンクを従業員に渡す。

従業員「有難う御座います！おいお前！こんな非力そうな2人にタンク運びをさせてどうすんだ！誠意を持つて謝れ！」

スタッフ「すみません・・・！ホントにすみません・・・こんな重労働を押し付ける様な形になつてしまつて・・・！」

ひかり「そんな・・・別に苦になつてはいないですから・・・」

祈里「そうですよ・・・私達は大丈夫です・・・」

ゲーム時間延長まで 1分30秒

舞「またミッションのメール……!『九条ひかりと山吹祈里の活躍により』……」

のぞみ「『4本目の空タンクが返還された』……あと一本だ……！誰かやつてるかな……？」

りん「結局、ミッション成功はあたしの手に懸かってるって事か……」

残る1本の空タンクを運んでいるりん。果たして、間に合つのか。

ミッションをやり遂げ、充填所を離れるひかりと祈里。

その近くに2体のハンター……

祈里「あれ？」

GPSモニターでそのハンターの動きを察知した祈里。

ひかり「どうしました、祈里さん？」

祈里「ひかりちゃん、じつに行いつ……ハンターが2体近くにいる……」

ひかり「ええ……！？分かりました……」

2人はすぐさまその場を離れる。

しかし、見つかった……

ひかり「来た！」

祈里「うわっ！」

別方向に逃げる2人。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピ――――――――――――

ひかり「こっち来た！」

ひかりだ・・・

ひかり「わあーっ！速いー！」

一目散に逃げ続けるひかり。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

ひかり「ああーっ！」 ポンッ

残り時間61分3秒 九条ひかり確保 残り7人

ひかり「速過ぎる、ハンター・・・ああー・・・折角ここまで残つてたのに・・・はあ、悔しいー・・・」

ゲーム時間延長まで 1分

のぞみ「あっ！ひかりが確保された！」

舞「うわー・・・とうとう1年生も全滅・・・」

りん「マジで時間無い……あと52秒……急げ……」

充填所へと急ぐりん。小走りで田地との距離を詰めていく。

くるみ「あと45秒……」

ラブ「ヤダな、残り90分から再スタートになるの」

えりか「ホントに延長だけは止めて。あたしのお金が飛んでしまう

う

りん「よし……もつ田の前だ……ハンターいないかな……？」

ゲーム時間延長まで 30秒

舞「あと30秒切ったわ……」

のぞみ「この苦労が無駄に終わつたら、もう逃げ切れないよ、誰も

祈里「もうすぐ20秒……」

りん「よし、いないな……急げ……」

ゲーム時間延長まで 20秒

りん「すみません……すみません……」

りん、漸く充填所に到着。

りん「これ・・・最後の空タンクです・・・」

ゲーム時間延長まで 10秒

りん「どうぞ・・・」

りんは空タンクを従業員に渡す。

従業員「有難う御座います！」

ミッションクリア

従業員「おい！お前は一般の中学生の女の子に、しかも6人にこんな重労働を押し付けたんだぞ！無責任な奴め・・・お前は今日付けてクビだ！」

スタッフ「そ・・・そな・・・」

りん「そんちつぽけな事だけでクビにするなんて・・・ハートの小さい従業員さんだね・・・そのスタッフさんがいなくなつたら、誰がここを担当するの？」

従業員「・・・まあいい、今日の事は大目に見てやる。だが、もう次は無いと思え。いいな？」

スタッフ「は・・・はい！」

りん「まつ・・・ミッションは何とかクリア出来たし、この2人のいざいざも治まつたし、一件落着かな・・・？」

ピコッピコッ ピリッピリッ

のぞみ「メール来た。ミッション結果だ」

祈里「『夏木りんの活躍により、最後の空タンクが返還された』・
・やつた・・・！クリアしたんだ・・・！」

舞「『全てのタンクが返還され、ゲーム時間延長は免れた』！良か
つた～」

ラブ「59分45・・・44・・・43・・・時間延びてない！や
つた～！これで幸せゲット出来そう」

えりか「36万2600・・・2700・・・2800・・・お金
減つてない！嬉しい～！」

停止寸前だったコンプレッサーも運転を止める事無く、無事にタン
クの充填じゅうてんを行う事が出来た・・・

従業員「さつきはさきつい事言つて悪かったな・・・」

スタッフ「いいですよ。もう気にしてませんから

ギクシャクしていた2人の関係も、何とか取り繕えた様だ・・・

りん「それにしても、さつきのミッションの間にかなり減つたな～。

やつと折り返し地点に来たつて言つのに、残り7人だよ？半分以下
じゃん」

舞「これ以上人数減つたら、これから先かなり不利になるわね・・・」

現在エリアには4体のハンター。彼等は視界に捉えた逃走者を見失うまで追跡する。待ち伏せなどはしない。

くるみ「思つたら、運動神経抜群じゃない人ばかり残つてるわね。のぞみとか舞とかラブとか祈里とか・・・そういうもののかしら、逃走中つて」

逃走中というゲームは、運動神経がいいばかりでは勝利を手にする事は出来ない。それを活かせる運も必要なのだ。

祈里「ふはあ・・・」

ペットボトルの水を飲んでいる祈里。

祈里「あつ・・・もう殆ど残つてない・・・どうしよう・・・？」

彼女の水は底を突きそうだ。

しかし、それは彼女に限つた事ではない・・・

のぞみ「うわ〜、水飲み過ぎちゃつた〜・・・あんまり残つてないじゃ〜ん・・・」

舞「500mじゃ少な過ぎる・・・まだ喉が潤つてない感じ・・・」

りん「これじゃあ、途中で絶対熱中症になるよ・・・」

3人のペットボトルの水も、最早100mlも残っていなかつた。

・・・と、その時・・・

ピリッピリッピリッピリッ

えりか「嘘? またミッション? もう止めてよ~」

舞「えつ・・・? 何これ・・・?」

くるみ「『これより、ゲームを一時中断し』・・・

のぞみ「『暫しの休憩時間とする』・・・えつ・・・?」

祈里「『全員コテージに集合せよ!』・・・コテージ・・・何処だ
る? ・・・えつと・・・あつ、ここだ・・・」

ラブ「休憩時間つてどう事? そんな事、実際の逃走中では無かつた筈なのに・・・」

りん「あたし達が中学生つて事もあるから、体力的に心配してくれてるんだろうね・・・分かんないけど」

多くの疑問を抱きながらも、生き残つてゐる7人の逃走者は、エリア内にあるコテージへと向かう。

そのページで待ち受けているものとは！？

〃ショーン終了！（後書き）

残る逃走者はりん・のぞみ・祈里・ラブ・えりか・くるみ・舞の7人
彼女達に暫しの解放感を与える休憩時間。

そこで田の当たりにするお饅頭とは何なのか！？

それは次回明らかとなるだろ？！

休憩時間（前書き）

今日成績表を取りに行つたら、前期の授業単位が全部取れてた～！

ワ～イ～＼(^○^)／

この調子で後期も頑張っていきたいと思こます！

無論、この小説もどんどん進めてこきます！

休憩時間

りん「何するんだろ?」「コテージで?」

舞「ゲームが始まってから、1時間くらい経ってるわね」

祈里「多分昼食・・・かな?」

のぞみ「休憩は兎も角、水を補給してほしいよ~」

思い思いの言葉を口にする逃走者達。

最初にコテージに辿り着いたのは、港付近から殆ど動いていなかつたラブだ。

ラブ「ああ・・・」^{はだか}、コテージ。・・・あれ? あの人つて・・・

「

コテージのドアの前に立ち開^{はだか}る1人の男・・・

ラブ「あつーあの時のー!」

今朝、逃走者達をこのエリアへと連れてきた、ハンターを彷彿^{はうぶつ}させるS.Pの様な男だ。

男「お待ちしていました、桃園ラブ様・・・生存している者が全員集まるまで、暫くお待ち下さい・・・」

ラブ「えつ? 中入れないの? 一寸待つてよ・・・暑くてしょうがな

^{ちよつと}

いんだけど・・・」

男「では、あちらのヤードのトコでも・・・田舎になつてありますので、多少は快適かと・・・」

そう言われ、ラブは近くのヤードへ。そして、そこにある椅子に腰掛ける。

ラブ「はあ・・・涼しい・・・皆早く来ないかな〜?」

そう言つてゐる間に、今度はえりかがやつて來た。

えりか「暑〜つ・・・やつと着いたよ・・・あれ? あの人つて・・・今朝あたし達の迎えに來てた・・・」

男「お待ちしてました、来海えりか様・・・全員がこちらに集まるまで、あちらのヤードでお寛ぎ下さい・・・既に桃園ラブ様がこちらに来ております・・・」

えりか「ああ、そう・・・もう先着がいたんだ・・・」

えりかはそのままヤードへと向かつ。そこには、椅子に腰掛けリラックスしているラブの姿・・・

えりか「ラブ!」

ラブ「えりか。來たんだ」

えりか「まあね。あつ、全然疲れた感じ無いね」

ラブ「分かる？港の近くから全然動いてなかつたからだ。でも、そんな事言つてるえりかだつて、全然疲れてなさそうじゃん」

えりか「そりやね、ミッショն全部任せてるから」

ラブ「やつぱりそうだよね。こんな暑い中ミッションやるなんて、完全な自殺行為だもんね」

ラブ＆えりか「アハハハハハハハ！」

？「へえ～・・・あんた達もそういう考え方なのね～」

2人はギクッとし、恐る恐る声のした方を向いた。そこには・・・

ラブ「へ・・・へぬみ・・・！」

えりか「び・・・吃驚させないでよ・・・！もし今のがりんとかだつたら・・・」

くるみ「『間違いなくボコボコにされた』・・・かしら～」

えりかは首を何回も縦に振る。

くるみ「でもいいんじゃない？動くも動かないも、その人次第な訳だし・・・まつ、私は今までミッショնに参加してた人達は、皆偽善者だと思つてるからね。あなた達の言い分は否定しないわ」

ラブ「えき・・・偽善者つて・・・酷過ぎる悪い口・・・」

くるみ「だつてそうじやない？りんは口悪いし、のぞみや祈里や舞

は極度の運動音痴だし……のぞみに関しては、ホームラン級のバ力でしょ？そんな人が善人紛いな事したつて報いがある訳でもないし……況して逃げ切れる訳じゃあるまいし……私はミッション全部スルーして逃げ切るつもりだから……」

？「誰が口が悪いですって？」

？「極度の運動音痴でホームラン級のバカで悪かつたね～」

そのあまりにも殺氣を感じる言葉に、くるみを含む3人は冷や汗を搔いてガタガタ震えていた。その声の主は……

りん「貢献者を嘲笑あざわらうってそんなに楽しいかー！？（怒）

のぞみ「私は偽善者なんかじゃないもーん！（怒）

くるみ「……」「メンなさい、」「メンなさい……」

えりか「ゲツ！りん……」

ラブ「のぞみまで……」

自分達をバカにしたくるみを追い掛け回すのぞみとりん。そこへ…

・
舞「な……何が起……るの、ここでは……？」

祈里「少なくとも、仲間割れ……かな……？」

状況を呑み込めずにやつて來た舞と祈里。

男「それでは皆さん・・・」

突然聞こえた男の声。7人は男の方を向いた。無論のぞみ・りん・くるみの3人は、追いかけっこを止めた。

男「全員集まりましたので、コテージの中へ」案内致します・・・
どうぞこちらへ・・・」

そう言われ、7人は男の後を続く。そして、コテージのドアの前で
男は一旦足を止めた。

男「それでは今から休憩時間と致します・・・休憩は1時間・・・
中にタイマーがありますので、たまに時間を気にしながら休憩をお願
いします・・・休憩時間超過すると、強制的にゲームが再開します。
・・その時にコテージに残っていた人は強制失格となりますのでご
注意ください・・・」

りん「強制失格って言葉を聞くと、これもゲームの内なかつて思
つちゃうよ・・・」

祈里「ホントだね・・・」

男「それでは・・・心行くまでの休息を・・・」

言い終わると、男はコテージのドアを開ける。それと同時に、中に
掲げられているデジタルタイマーが60分から1秒ずつカウントダ
ウンを始めた。

えりか「さて・・・ここでどうじゅうって言うのかな?」

くるみ「えりかつたら、ホントバカね。よく見なさいよ」

えりか「ふえ？」

くるみが指差す先には、様々な料理が並べられている長いテーブル。
のぞみ「わあ～！ 美味しそう～！」

祈里「やっぱり昼食だつたんだ」

舞「でもこれ・・・一寸豪華過ぎない？ 見た事無い様な料理がいつ
ぱいよ？」

？「そりや そうさ」

？「ここまで頑張った」ほうび「褒美さ」

突然聞こえた2人の男の声。7人は声のした方を向く。そこに立つ
ていたのは・・・

祈里「ウ・・・ウエスター！？・・・じゃなかつた・・・瞬さん・・・！」

ラブ「サウラー！？・・・じゃなかつた・・・瞬さん・・・！」

嘗てラブと祈里を苦しめた、ウエスターとサウラー改め西 隼人と
南 瞬だったのだ。

ラブ「な・・・何で2人がここに！？」

瞬「実は・・・僕等はただここに海水浴に来ただけだつたんだけど・・・君達が会つたあのハンターに似た男が突然現れて・・・」

隼人「『この領域はお前達のいる所では無い。今すぐ出て行け。出て行きたくなければコテージで働け』と命令された・・・」

瞬「勿論最初は断るつもりだつたが・・・あの男は僕達の過去を知つてゐるらしくて、『断ればその事実を世間にばら撒く』と脅されて・・・」

隼人「結局ここで働く羽目になつてしまつたんだ・・・」

舞「酷い・・・！」

りん「あの人は・・・結局いい人なのか、それとも悪い人なのか・・・」

くるみ「このゲームが終わつたら・・・全てが分かるかもしけないけど・・・」

のぞみ「もう〜〜皆そんな硬い顔しないでさ〜今は休憩する為にいっぱい食べとこりよ〜」

りん「のぞみつたら・・・ホントに緊張感無いよね」

のぞみ「だつて〜〜その為にこのコテージに来たんでしょ？」

えりか「それはそうだけど・・・」

祈里「若しかして・・・」

ラブ「どうしたの、ブッキー？」

祈里「実際の逃走中についた、『謎の存在』って言つたのと何か関係があるんじゃないのかな？」

彼女の口から出た言葉、「謎の存在」・・・

それは、実際に放映されている逃走中のエンディングで映し出されているシーンの事だ。

舞「でも、現段階ではその素性は全く分かつて無いんでしょう？」

えりか「いろいろと何かを彷彿^{ぼうふ}させるシーンは所々見掛けるけど・・・」

隼人「目に見えない存在・・・か」

瞬「誰も知り得ない事実・・・と言つべきか

りん「兎に角、このゲームが終われば恐らく・・・」

くるみ「『謎の存在』の目的も見えてくるかもね・・・」

祈里「その為に、私達は逃げ切らなきやいけない・・・」

ラブ「よしー。そつと決まれば、たくさん食べてパワーを付けるぞ

！」

えりか「時間内に食べられるだけ食べるぞー！」

のぞみ「豪華な料理、全部食べ尽くすぞー！ けつてーい！」

舞「3人のせいで、折角せっかくのシリアスな展開が台無しね……」

りん「ホントだよ……」

くるみ「のぞみなんか、食べる事だけしか考えてないし……」

祈里「まあ……元気がいいって事で……」

それから7人の逃走者は、用意されていたA-5ランクの牛肉のステーキ・最高級の魚を使用した鮓すしなど、初見の豪華料理に舌鼓を打つた。

ラブ「牢獄の人も来て食べればいいのにね」

その牢獄では……

かれん「屈辱ね……」

仕切りが無く、中が生ゴミの様にぐちゃぐちゃになつてている弁当を食べさせられていた。それもかなりの少量だ。

お嬢様育ちのかれんは、かなりの精神的ダメージを受けている。

咲「何だよこれ……見た目以上に不味いんだけど……」

「ひらり「しかも、こんな少ないんじゃお腹いつぱいになりませんよ
」・・・」

ながさ「いくら敗者だからって、この扱いは無いよ・・・」

11人の負け犬達は、涙声でネチネチ愚痴を漏らし続ける。

こまち「生き残ってる人達・・・一体何食べてるのかしら・・・?」

せつな「少なくとも・・・私達よりはいい物でしょうね・・・」

いい物過ぎる物だ・・・

ひかり「これじゃあ、物乞いに見られちゃいます・・・」

美希「間違い無くバカにされるわね・・・あたし達・・・」

つぼみ「私なんて、端からバカにされてる人間ですから・・・お似
合いでしょ・・・?」

ほのか「つぼみさん、そんなネガティブにならなくても・・・

いつき「といふか・・・自虐的になってるし・・・」

それから50分後・・・

休憩時間終了まで残り5分を切っていた。

生存者7人全員は既に最高級ビュッフェを満喫した様だ。

のぞみ「じゃつ、美味しい物いっぱい食べれたし、疲れも吹き飛ん
だし」

ラブ「この先も頑張るぞー！」

全員「おおー！」

7人はコテージを後にしようとすると。その時・・・

隼人「待て！」

突然隼人が止める。

祈里「な・・・何で止めるんですか？もう時間無いんですよ？」

隼人「お前達・・・ペットボトルの水、結構少なくなってるんじゃ
ないのか？」

そう言われ、全員が「あつ」と口を揃える。

瞬「そうだと思ったんだよ・・・だから・・・はい」

瞬は1つの段ボール箱を渡した。

えりか「何これ？」

瞬「いいから開けてみな」

言われるがままに、その箱を開ける逃走者達。そこには・・・

舞「スポーツドリンク？」

りん「これをあたし達に？」

瞬「そうだ」

隼人「身体の水に近い飲料水だからな。屹度役に立つ筈セーきつと」

のぞみ「有難う御座います！」

7人は500mlのスポーツドリンク飲料を手に取る。

ラブ「じゃあ、改めて・・・絶対逃げ切るぞー！」

全員「おおー！」

7人はコテージを後にした。

そして、自らが決めた地点からゲーム再開の時を待つ。

ゲーム残り時間55分・・・

生き残る者は現れるのか！？

休憩時間（後書き）

最高の休憩時間を過ごした逃走者達

しかし次回、史上最悪のミッションが7人を襲う！

エリアへ向かつて走行する高速船。そこには無数のハンター

この高速船の目的は！？

ゲーム再開！（前書き）

残り55分から再スタートとなる逃走中！

残る7人の逃走者の運命はいかに！？

そして、エリアに近づく高速船が巻き起こす事件とは！？

ゲーム再開！

エリアに散らばる逃走者達。

そして、残り時間55分・・・ゲーム再開

逃走者確保の為に、再び起動し始める4体のハンター。

ラブ「今のところ、39万2千円か・・・あと20分ぐらいで50万円だね・・・早く時間経って・・・！」

目標金額50万円のラブ。先程と同じ、港付近に身を潜めている。

りん「今は午後2時くらいかな？今まで以上に暑いんだけど・・・！」

額に大粒の汗を浮かべているりん。

りん「とまあえず、このスポーツドリンクは大事にしないと・・・！」

くるみ「あれハンターじゃない？」

物陰からハンターを見つけたくるみ。

くるみ「やつぱり怖過ぎる・・・全然動けない・・・！」

ヤードで見せた強気な態度とは一変、子猫の様に怯えている。

祈里「ハンターの位置には気を付けとかないと……気を抜いてたら危ないよ……！」

GPSモニターを見て、ハンターの位置を確認しながら移動する祈里。

えりか「動かない方がいいな～」

ゲーム開始から、殆ど場所を移動していないえりか。

えりか「ハンターの前には、あたし達はあまりにも無力だし……」

ハンターから逃げ切る事は容易ではない。

舞「ハンター4体に対して、残つてるのが7人……残り時間は53分……いくらなんでも減るペースが速過ぎるわ……！」

実際の逃走中でもあり得なかつた事態が起こつている事に不満を漏らす舞。

舞「これじゃあ、言わば全滅パターンじゃない……！」

のぞみ「牢獄の人を助けるミッションとか来ないかな～？」

ミッションに期待を寄せているのぞみ。その様なミッションに参加する意思がある様だ。

この港には、数多くの海神わたつみが海を守り、人々を海へ呼び寄せるとい

う言い伝えがある・・・

その為、毎年観光客は延べ100万人以上訪れるほどであり、漁業も大繁盛なのだ・・・

しかし・・・今年は勝手が違う・・・

今年の観光客は何故か半減し、漁も伸び悩んでいた・・・

それもその筈・・・

この港の海に棲むと言われているわたつみ海神達の身に、信じられない事が起こっていたのだ・・・

祈里「何か客足が治まった感じだけど・・・もうすぐ夕方になりそうだから、皆帰ってるのかな?」

りん「ビーチの方、さつき来た時より観光客が少なくなってる気がするんだけど・・・気のせい?」

舞「帰るにしては不自然ね・・・何て言つんだ?」

のぞみ「逃げる様に帰つてる感じがする。慌てふためいてると言つか・・・」

えりか「何かに怯えてる感じに見えなくもない」

くるみ「何があつたのかしら?」

ラブ「やつらまでの楽しげな声が、全然聞こえてこないんだけど」

牢獄

咲「観光客が歸つてくよ」

いつき「帰つてくと言つ割には不自然な動きだよね?」

美希「何かから逃げてる感じ・・・」

」まち「一体どいつしたのかしら?」

なぎさ「あたし・・・嫌な予感しかしないんだけど・・・」

観光客の身に何が起つてているのか、逃走者全員はまだ知らない・・・

ビーチでは、観光客の驚愕の声が轟いていた・・・

男「おい!何だよあれ!」

女「ば・・・化け物!」

海辺に現れた無数の怪物・・・否、その怪物こそこの海に棲むと言
われている海神その物だつたのだ・・・

男「まさか・・・」の海にいると信じられてきた・・・海の神・・・
!?

男「海の神!? 何で・・・!?

女「いや〜!」

女「助けてー!」

観光客に無作為に襲い掛かる海神達・・・

しかし、人々を呼び寄せる噂されている海神達が、観光客を襲う
筈が無い。一体何故・・・

その答えは、すぐに分かつた・・・

海神「ザケンナー!」

海神「ウザイナ〜!」

海神「コワイナ〜!」

海神「ホッシャーナ〜!」

海神「ナーケワメーケ〜!」

海神「ソーレワター セー!」

海神「う～み～は～広い～な～！」

最初のミッションで封印された筈の怪物達が、逃走者への復讐の為に海神達に憑依したのだ・・・

そして、彼等の存在は別の物を引き寄せていた・・・

水平線の彼方からうすらと影を現した3艘の高速船・・・

そこには無数のハンターが乗っていた・・・

更に、高速船の登場で、逃走者のタイマーが狂い出したのだ・・・

のぞみ「やつぱり帰ってるんじゃないよ・・・！何かから逃げてる・・・！」

祈里「あの悲鳴・・・！確実に他人事じゃない・・・！」

えりか「ダイビングしてたと思つ人達まで、ウエットスーツ着たまま一緒に逃げてるし・・・！」

舞「でも何で？何で皆逃げてるの？何が起つたの？」

ラブ「もうヤバいんじゃない・・・？」

くるみ「怖い、怖い、怖い、怖い、怖い・・・！」

りん「何だ、何だ？あつ、ミツションド・・・・・!ミツションド・・・・

4

舞「『エリア内の海に棲んでいる海神達が、
客を襲い始めた』・・・ええ！？」

ラブ「『海神に引き寄せられる様に、水平線の彼方から3艘の高速船が現れた』・・・高速船?」

くるみ「『船にはそれぞれハンターが200体ずつ』・・・200体!?『合計600体が乗っている』!?何よそれ!?」

えりか「600体つて・・・シャレになんないよ!』更に、3艘の内1艘には妨害電波発生装置が作動しており』・・・』

のぞみ「『タイマーが狂い出した』！？わつ！ホントだ！残り45分で秒数が行つたり来たりしてん！ええ！？どうすんの！？」

祈里「『急ぎたまえ！』……そんな事言われたつて……！20
0体が来られたら絶対逃げられないじゃん！」

MISSION? ハンターフェリーを追い返し、新エリアへ移動せよ!

怪物達に憑依され、観光客を次々に襲う海神達。彼等に引き寄せられる様に、3艘の高速船が姿を現した。それぞれの船にはハンターが200体ずつ、合計600体乗っている。更に、1艘の船に妨害電波発生装置が組み込まれており、タイマーが45分と44分59秒の一進一退を続けている。このままで、残り45分で全滅か自首を待つしかなくなってしまう。ハンターフェリーの到着を阻止するには、エリア内3か所に設置されているレバーを3人同時に下ろし、灯台を点灯させて船を引き返さなくてはならない。但し、引き返す事が出来るのは2艘まで。妨害電波発生装置を組み込んだハンターフェリーを引き返せなければ、エリアに到達するまでタイマーは狂い続ける。

更に、200体のハンターが上陸すれば、逃げ切るのは粗不可能となる。その為、港に用意された緊急用のボートに乗り、新エリアへと移動するしかない。但し、ボートは3艘しか用意されておらず、乗り遅れればボートは港を離れてしまい、エリアを埋め尽くすハンターの餌食となる。

りん「きつ過ぎだよ・・・！船引き返せだの、エリア移動しきだの・・・一度に2つの仕事を中学生の女子に押し付けないでよ・・・！」

のぞみ「一寸待つてよ・・・！高速船、いつ頃エリアに来るの・・・？」

タイマーが狂っている為、3艘のハンターフェリーがいつ港に到達するか分からない。

舞「こんな危機的状況、生まれて初めてよ・・・！怖過ぎる・・・！」

祈里「全滅を待つしかないって・・・そんなの嫌だ・・・早く船

止めないと……」「

エリアには4体のハンター。ミッションに動けば遭遇する危険も高まる。

えりか「あれか、緊急用のボートって……今から乗つても大丈夫かな？」

早めにボートに乗る事も可能ではある。しかし、ボートはすぐには出港しない。

ラブ「もう一寸だけ粘つて、50万円まで釣り上がつたらすぐに自首しよう……！200体なんて絶対無理……！」

くるみ「誰かやつて……早く高速船引き返してよ……！」

自分の事しか頭に無いくるみ。ハンターフェリーを引き返す気は全く無さそうだ。

ハンターフェリー到達まで、推定およそ19分。

2艘のハンターフェリーを引き返し、無事新エリアへ移動出来るのか！？

ゲーム再開！（後書き）

10月10日の逃走中

過去最長のゲーム時間及び過去最高の賞金らしいです！

必ず見ましょー！

ハンターフェリー入港拒否へー（前書き）

kさん・千歳 涼介さん・しょうたりうわん、いつも感想を書いて
くださいまして有難う御座います

そして、BOSUさん・ターザンさん・ハリケーンさん・リストくん
さん・ワーグナーさんも感想有難う御座います

徐々にエリアに近付く、600体といつ前代未聞の大量ハンターを
乗せた高速船。

逃走者達は一体どうなつてしまつのかー!?

ハンターフェリー入港拒否へ！

逃走者は、3ヶ所中2ヶ所のレバーを3人同時に下ろし、灯台を点灯させて船を引き返さなければならない。そして、ハンターフェリーから放たれるハンターから逃れる為、港に停泊している緊急用のボートに乗り、新エリアへと移動しなければならない。

りん「何処だ、レバーって？」

地図を見ながら、レバーの位置を探すりん。

りん「3人必要なんでしょ？電話して呼び寄せるか

りんは電話を掛ける。

プルルルルル

のぞみ「ん？電話？りんちゃんからだ・・・！もしもし？」

りん「のぞみ？今何処にいるの？」

のぞみ「今ね、売店がいっぱい並んでる道にいるんだけど・・・りんちゃんは？」

りん「あたし今、ビーチ沿いの道にいるんだよ。それでき、民宿の方にレバーがあるでしょ？」

のぞみ「ホントだ。ちゃんと地図に書いてある」

りん「そこのレバー下ろそう。向かう道中で誰かと会つたら、その人誘つて。あたしも誰か誘つてみるから」

のぞみ「OK」

2人は電話を切つた。

りん「よし・・・あと一人・・・やつぱり祈里しかいないのかな？」

祈里「ハンターがレバーのある所に集中してる・・・これじゃ近付けない・・・！」

GPSモニターを使って、ハンターの位置とレバーのある位置を照らし合わせる祈里。思う様に動けない。

ラブ「一寸何これ・・・!? 賞金が全然上がらないじゃん・・・！」

タイマーが残り45分と44分59秒の表示を繰り返している為、当然賞金も45万円と45万100円の表示を繰り返している。ラブの目標金額である50万円に届かせるには、妨害電波発生装置が組み込まれているハンターフェリーを追い返さなくてはならない。

ラブ「誰かさ〜・・・早く高速船引き返してよ〜・・・！」

欲求不満に陥つ^{ひき}ついていても、ミッションに参加する気は無い様だ。

民宿付近のレバーを目標^{めざ}すのぞみ。彼女が向かう先には、ハンターにビビりまくり、ずっと隠れつ放しのぐるみの姿が・・・

のぞみ「あつ…へぬみ…」

くるみ「えつ？ のぞみ？ 何で」 ひたち来るのよー？ しかも、 寄つじよ
つてあんたが！」

のぞみ「そんな言い方無いでしょ！？ 近くの民宿に、 高速船を引き
返す為のレバーがあるんだよ。 それで、 りんちゃんもひたち来るか
ら、 私達3人でレバー下ろそうよ」

りんとの口約通り、 くるみをミッショントに誘う。 しかし…。

くるみ「嫌よ、 ミッショントなんて！ あんた達2人だけ行って、 2人
とも捕まればいいじゃない！」

のぞみ「な… 何でそつこいつ事言つの… ！？ やれば少しば
りに事を進められるのこ… ！」

絶望がのぞみを襲う…。

くるみ「運動音痴でホームラン級のバカで偽善者ぶったあんたが言
つたところだ、 説得力に欠けるし… 第一、 このゲームは生き残
る事に意味があるの！ なのに、 ミッショントに参加してハンターの餌
食にされたら堪つたもんじゃないわ！」

くるみの言つ通りだ… この逃走中というゲームは、 捕まつてしまえばそこで終わりだ。 しかし、 今はそんな正論を盾にして口論を
している場合ではない。

のぞみ「酷じよ… ！」

くるな「ええ？」

のぞみ「ハラシワノは自分の為だけにやつてゐんじゃな」のに・・・
そんな風に思つてたなんて・・・・やつてこよ・べるみとなんか2
度と口聞いてあげないんだからー」

目に涙を浮かべ、のぞみはニッショーンへと足早に向かつ。そんな彼女を見て、くるみは途方に暮れる事も無く・・・

くるみ「勝手にすれば！？あんたなんか、さつさと捕まればいいのよ！バー力！ホント生き残つての低能ばっかり！」

暴言とも取れる言葉を吐き捨てる。

その荒々しい声を近くで聞いていたえりか。

えりか「今のはみとくるみの声だよね? 何で2人して、喧嘩みた
いに罵声浴びせ合ってるの?」

突然の事に動搖を隠せない様だ。

しかし、その近くに黒い影・・・

えりか「どうしよう? レバー結構近いんだよな」
うかな「…? ん・・・? ヤバッ!」
「

見つかつた
・
・
・

۱۰

えりか「ヤバい！ 来てるよーー！」

一目散に逃げるえりか。何度も曲がり角を利用し、ハンターの視界から外れようとする。

逃げ続ける彼女の近くに、舞の姿・・・

舞「えつ？ あれって・・・えりかさん？ ハンターに追われてるみた
い・・・！」

反射的にその場を離れる。

尚も逃げ続けるえりか。

ピ――――――――――

しかし、ハンターはえりかを見失った様だ。

えりか「あれ？ 追つて来ないよ？ 撒いたのかな？ ハア・・・ 良かつ
た！ ・・・ あつ、あれって・・・」

逃げた先にあつたのは、民宿近くにあるレバー。既にのぞみが到着
している様だ。

えりか「のぞみー！」

のぞみ「ん？ えりかだ」

合流する2人。

えりか「これで2人が・・・あと1人・・・」

のぞみ「もうすぐじんちゃんが来ると思つから、ソリで待つよ」

えりか「うん・・・あれ?のぞみ、何で涙田になつてゐの?それに、さつき聞こえた怒声つて・・・」

のぞみ「へつ?」

えりかに指摘され、田に浮かんでいた涙を拭う。

のぞみ「な・・・何でも無いよー何でも無いーー」

えりか「ふ~ん・・・」

誰かに感付かれては困ると思い、ケロッとした顔で誤魔化すのぞみ。
それも今となつては手遅れだが・・・

りん「お~いーのぞみー!」

のぞみ「あつ!じんちゃんーやつと來たよー」

えりか「あたしは、そんなに待つてないけどね~」

りん「あつ・・・えりかも来ててくれたんだ。都合いいね」

えりか「へへへへへ・・・あたしだって、やる時はやるんだよ

りん「じゃあ、やつれとーね」

のぞみ・りん・えりか「せーの・・・」

3人はレバーを下ろす。

すると、エリア内に聳え立つ灯台が黄色の光を点灯させた。

それにより、ハンター・フェリー1艘が方向転換。沖の方へ進んで行つた。

えりか「そうだ! タイマーは? タイマーはどうなつてゐるの? 」

3人はタイマーを確認する。時間の歪みは・・・

りん「ダメだ! 全然進んでない! 」

直つていなかつた・・・

えりか「ええー! ? これじゃないのー! ? 」

のぞみ「兎に角、あと一つしか下ろせないよー! ? 」

えりか「どうすんの! ? もう高速船が見えてきたよー! ? 豆粒くらいの大きさだけど・・・」

りん「見つけるしかないよ、レバーを。兎に角、この3人で固まつて行こう。ハンターに見つかりやすいけど、それでもしないと400体が来ちゃうし・・・! 」

えりか「OK! 」

のぞみ「懲りついー。」

ハンターフォリー到達まで 推定10分

ピコッピコッピコッピコッピコッ

舞「何?」

祈里「『夢原のぞみ・来海えりか・夏木りんにより、ハンターフォリー1艘を追い返す事に成功』・・・。」

ラブ「『下ろせるレバーはあと一つ』・・・あれ?時間の事に全く触れてない・・・って事は・・・?」

ラブはタイマーを確認する。

ラブ「狂ったまま・・・じつじつ・・・?」これじゃあ、いつまで経っても50万円に行き付かない・・・。」

くるみ「えりか・・・あれだけミッションやらないうつて言つとこで・・・裏切ったわね?」

今度はえりかに敵対心を抱くくるみ。

くるみ「まつ、どうせ3人ともすぐに捕まるんだから。自業自得よ。」

「・・・」

未だにミッション参加者を1つずつ嫌っている様だ。

りん「そういえばさ・・・のぞみ」

のぞみ「ん? 何?」

走りながら、りんはのぞみにある事を尋ねる。

りん「やつせ、あんたとくるみの怒りに任せた様な声が聞こえてたんだけ? あれって何なの?」

のぞみ「ええつー? も・・・ 気のせいじゃない?」

えりか「あたしも同じ事聞いたんだよ、やつせ。その時のぞみ、目に涙を浮かべてたし・・・」

りん「マジで? やつぱり何があったんじやん、くるみ?」

のぞみ「だーかーらー・・・ ホントに何でも無いんだってばー」

りん「ホントかなー?」

えりか「明らかに嘘吐いてるよね?」

のぞみ「嘘じやないもん・・・ そんな事より、早くレバー行こいつよ

りん「はいはい・・・」

しかし、3人が向かう先にハンター・・・

えりか「あつ! 2人とも止まつて!」

りん「えつ? 何?」

周囲を警戒するえりか。そして・・・

ピ――――――――――

えりか「やつぱりだ・・・逃げよつー」

のぞみ「何、何、何、何?」

えりか「ハンター來た!」

りん「マジかよ!?」

見つかった・・・

一目散に逃げる3人。ハンターに追われ、3人が引き裂かれていく。
ハンターが狙いを定めたのは・・・

ピ――――――――――

のぞみ「来た!」

のぞみだ・・・

のぞみ「うひやーーハンター來ないでー!」

一目散に逃げるのぞみ。その声を聞いたくるみは・・・

くるみ「ほり見なさい・・・ハンターに追われてるじゃない・・・
ミッション参加者は捕まる運命なのよ・・・!」

遠い田で侮辱する・・・

りん「のぞみが標的にされた・・・！」

緊急用逃走靴を8秒使い、ハンターから逃れたりん。靴の効果はあと43秒。

えりか「吃驚した・・・！ハンターいたよ・・・！」

えりかも間一髪撒いた様だ。

のぞみ「もつ・・・もつヤバい・・・追い付かれる・・・」

逃げ続けるのぞみ。しかし、30m以上あつた距離も10m足らずまで縮められ絶体絶命。その彼女が逃げる先に・・・

ラブ「もつこのまま直前しつかねうかな・・・？」

ラブの姿・・・

ラブ「何この足音・・・？ん・・・？」

音のした方を見ると、そこにはハンターに追われているのぞみの姿が・・・

ラブ「ええ？ハンターに追われてるじゃん・・・！ヤバい・・・！ここから離れないと・・・！」

すぐさま場所を移動する。

その時、ハンターの標的が突然ラブに変わった・・・

ラブ「ええ～！？何であたしなの～！？」

「一目散に逃げるラブ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・」

ラブ「うわあ～っ！」　ポンッ

残り時間45分（故障中）　桃園ラブ確保　残り6人

ラブ「ううわ～・・・確実にのぞみが捕まると思って・・・油断してた・・・はああ・・・自首しどくんだった～・・・」

抜け駆けしようとした罰だ・・・

ピリッピリッ　ピリッピリッ

舞「今度は何？確保情報・・・！」

くるみ「のぞみでしょ？言われなくつたつて分かつてるわよ・・・つてええーーー！」

牢獄

かれん「『桃園ラブ確保』！」

かれん以外「ええーーー！？」

せつな「」まで生き残つとして……嘘でしょ～？」

美希「これで、あたし達の世界で残ってるのブッキーだけよ？」

祈里「ラブちゃん捕まつた・・・!」

自分以外の3人が確保され、言葉を失う祈里。

のぞみ「もうダメ……動けない……疲れた……」

長い事ハンターに追われ、かなりの体力を削ってしまったのぞみ。ビーチに倒れ込む・・・

ペットボトルを取り出し、飲料水をラップ飲みする。しかし、体力回復には繋がっていない様だ。

い・・・
のぞみ「もうダメだ・・・りんちゃん・・・えりか・・・後はお願

りん「不味いな・・・！誰か呼ばないと・・・！」

えりか「レバー何処だろう?」

2人は、のぞみが体力が無くなつたと悟つたのか、彼女を切り捨て

て別の逃走者を探す。

現在、2艘のハンターフェリーが逃走者のいるエリアへ向かっている。その内一方には、タイマーを狂わせている妨害電波発生装置が組み込まれている。

ハンターフェリー到達まで、推定およそ7分。

このままでは400体のハンターが上陸し、逃げ場は完全に無くなってしまう。

残る6人は、もう1艘のハンターフェリーを追い返してタイマーを正常に戻し、新エリアへと移動出来るのか！？

ハンターフェリー入港拒否へ！（後書き）

次回、遂にハンターが上陸！

タイマーは正常に戻るのか！？そして、大量ハンターに囲まれてしまつ哀れな逃走者は現れてしまつのか！？

ハンター上陸！（前書き）

エリアに迫る2艘のハンターフェリー！

逃走者達の運命はいかに！？

ハンター上陸！

舞「そうだ！このスプレーがあるんだから、ハンターに怯える必要なんか無いじゃない」

ハンター除けスプレーを持つていてる事に気付いた舞。果敢にレバーを探しに行く。

一方、同じ様な道具を持っているのぞみは・・・

のぞみ「こんな所で倒れてる場合じゃないよ・・・ボートに乗らないと・・・」

重い足取りで港へ向かう。

祈里「こひからも行けるかな？」

GPSモニターを頼りに、ハンターの田を^{かく}搔い潜つてレバーを田指す祈里。

りん「ハンターいるな・・・」

向かう先にハンターを見たりん。思つ様に進めない。

りん「こひからは無理だな・・・回り道しようつ・・・」

くるみ「もう無理でしょ？高速船、すぐそこまで来てるし・・・」

ミッションに一切参加せず、ここまでずっと隠れ続けていたくるみ。

くるみ「ボートに乗つて、さつと新エリアに行きましょ！」
！」

1人新エリアへと逃げる・・・

しかし、その近くに黒い影・・・

くるみ「誰かやつてくれる筈よ・・・ボートに乗つちゃえれば安全な訳だ・・・嘘・・・!? ハンターいる・・・！」

ハンターを見つけ、すぐさま元の場所へ戻る。しかし、ハンターには気付かれていない様だ。

くるみ「何でよ、もう・・・！ 港に近付けないじゃない・・・！」

ハンターフェリー到達まで 推定5分

えりか「あつた、あつた・・・！」

漸くレバーを見つけたえりか。

えりか「早く誰か来ないかな〜？ もう来ちゃうよ、ハンターがいっぱい・・・！」

焦りを感じ始めている。

その近くにハンター・・・

えりか「時間が分かんないっていうのが嫌だよね〜・・・いつ着く

のか分かんな……ゲツ！ハンターだ！」

見つかった……

ピ――――――――――――――

一目散に逃げるえりか。建物の角を利用し、上手く撒いた様だ。

えりか「うわ～……どうしよう……？ レバーからかなり離れちゃったよ……」

りん「あれだ！」

えりかが去ったレバーにりんが到着。

舞「あれね……！ あつ、りんさん！」

りん「舞じゃん！ 来てくれたんだ」

舞「ええ！ あと一人……」

もう1人の逃走者を待つ2人。

しかし、えりかを追つたハンターが接近……

りん「あつ……！ ハンターだ……！ 舞、逃げよう……！」

舞「大丈夫よ……！」

りん「何が？」

舞「私にはこれがあるから・・・！」

そう言って、舞はハンター除けスプレーを取り出す。

りん「何それ？」

舞「いいから見てて」

その時、ハンターが2人の確保へ向かう。

舞「せーの・・・」

シュー！

舞はハンター除けスプレーを噴出させた。すると、ハンターは方向転換して去つて行つた。

りん「ええ・・・？スプレーでハンター帰っちゃうんだ・・・」

意外過ぎる展開に、りんも開いた口が塞がらない・・・

祈里「いた、いた！」

そこへ祈里が合流。

りん「3人目来たね」

舞「これで3人揃つたわね」

祈里「このレバーだね。早く下ろそう」

舞・りん・祈里「せーの・・・」

3人はレバーを下ろす。

すると、エリア内に聳え立つ灯台が緑色の光を点灯させた。

それにより、ハンターフェリー1艘が方向転換。沖の方へ進んで行つた。

舞「タイマーはどうなったのかしら?」

3人はタイマーを確認する。時間の歪みは・・・

祈里「あつー戻ってる!ちゃんとカウントダウンしてるよー!」

直つていた・・・

りん「ヨシシャー・・・あとはボートに行くだけだね」

ピリッピリッピリッピリッ

のぞみ「メールだ・・・!」山吹祈里・夏木りん・美翔 舞により、ハンターフェリー1艘を追い返す事に成功。これにより、タイマーが元に戻った』・・・!嘘!?

のぞみはタイマーを確認する。

のぞみ「ホントだ!戻ってる!3人とも有難う!」

えりか「『ハンターフェリーの到着は残り41分と判明』・・・残り41分!? あと3分ぐらいしか無いじゃん! 急いで、港に!」

妨害電波発生装置が組み込まれたハンターフェリーが引き返した為、タイマーが正常に戻った。逃走者は残り41分までに、港に停泊している緊急用ボートに乗つて新エリアへ移動しなければならない。

ハンターフェリー到達まで 3分

港付近までやつて来たのぞみ。

のぞみ「あのボートだ・・・! あれに乗れば、新エリアに行けるんだね?」

そして彼女は、港へと繋^{つな}がる一本道に差し掛かる。

先程までは、2人の男が通せんぼをしていたのだが、この騒動で2人とも逃げる様にいなくなってしまっている。つまり、港に進入するのに通行証が必要無いのだ。

のぞみ「りんちゃん、あの時港に来ても入れないって言つてたのに、ちゃんと入れるじゃん・・・」

港に来たのは初めてである為、りんの言葉に疑問を抱く。

しかし、近くにいたハンターに見つかった・・・

のぞみ「あそこだ・・・つてうわー!」

一畠散に逃げるのぞみ。

のぞみ「ホントは最後まで使いたくなかったけど・・・えいっ！」

のぞみは、志穂からもらったハンター冷却剤を投げ付ける。

すると、追つて来たハンターは凍り付けとなり、動かなくなってしまった。

のぞみ「うひゃ～・・・ホントに動かなくなっちゃったよ・・・そんな事言つてる場合じゃなかつた・・・ボート乗らないと・・・」

のぞみは、凍り付けになつたハンターを尻田にて、近くに停泊しているボートに乗り込む。

ハンターフェリー到達まで 2分

のぞみ「これで安全だね・・・」

そう言つた瞬間、のぞみを乗せた船が港を離れていく。

のぞみ「うわっ！もう動いたやつたの？皆大丈夫かな～？」

夢原のぞみ ミッションクリア

続々と港へ移動する逃走者達。

りん「200体なんて、どう考えても無理・・・一隻つ避難する・・・！」

舞「スプレーがあれば、恐れる物なんて無い訳だから・・・」

えりか「開き直つて、行くしかないよ・・・」

くるみ「ハンターの死角を狙つて、近付いた方がいいわね・・・」

祈里「こんな所で、ハンターと出くわしたくない・・・」

ハンターフェリー到達まで 1分30秒

港に現れた1人の女・・・

りん「あのボートだね?」

りんだ・・・彼女はボートに乗り込む。

りん「ヨツシャ・・・! あつ、もう1人来た」

祈里「あつた・・・!」

りん「祈里! こっち、こっち!」

祈里「あつ! りんちゃん! 良かつた! ・・・!」

祈里はボートに乗り込む。

りん「これ200体が埋め尽くしたら、大変な事になるね

祈里「絶対逃げ切れないもんね。脱出する為のボートも無くなっちやうから・・・」

? 「そのボート待つてーー！」

ボートに出発を待つ様に叫ぶ1人の逃走者。

えりか「あたしを乗せてーー！」

えりかだ・・・彼女もボートに乗り込む。

ハンターフェリー到達まで 1分

えりか「はあー・・・疲れた・・・」

すると、3人を乗せた2艘目のボートも港を離れる。

えりか「わわわわわー！」

突然の揺れに、えりかはバランスを崩す。

りん「えりか！乗つたなら乗つたでちやんと座りなよー！」

祈里「転覆したらどうすんのー？」

えりか「アハハハハ・・・ゴメン、ゴメン・・・」

夏木りん・山吹祈里・来海えりか ミッショングクリア

これで移動出来ていないのは、舞とくるみの2人。間に合つのか。

ハンターフェリー到達まで 30秒

くるみ「時間無い・・・」

舞「道迷つひやつた・・・」

ハンターフェリー到達まで 20秒

くるみ「あつた！まだ1艘ある！うわっ！あと15秒！」

舞「港どっち？」

ハンターフェリー到達まで 10秒

くるみ「待つて！まだ出港しないで！乗らせて！」

くるみはボートに乗り込む。

舞「何処？」

そして、くるみを乗せた3艘目のボートが港を離れる。

くるみ「もうダメ・・・苦しい・・・」

美々野くるみ ミツシヨンクリア

舞「えつ？あのボート最後？嘘・・・？私取り残された・・・？」

？

舞1人を残し、全てのボートが新エリアへと向かって行った・・・

そして、ハンターフェリーが港に到達。200体のハンターが一斉にエリアへと放たれる。

舞「あれ200体のハンター……！？あんなに多くちゃ、スプレーじゃ全然効果が無いじゃない……！」

すぐさま港の近くから離れよじとする。

しかし、ハンターに見つかった……

舞「来た～！」

一目散に逃げる舞。しかし、相手が200体では勝ち目が無い。最早、逃走不可能……

舞「いや～っ！」 ポンッ

残り時間41分0秒（停止中） 美翔 舞確保 残り5人

舞「捕まつた……捕まつた上にボートに乗れなかつた……酷過ぎる……」

残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・えりか・くるみの5人

怪物に寄生された海神わたつみによつて支配された、人が立ち去つた旧エリア……

そして、そこに上陸した200体のハンター……その数は合計2

04 体・・・

すると・・・ 海神わたみ達は更に、ハンターにまで憑依し始めた・・・凍り付けとなつた1体を除いて・・・

旧Hリアに君臨した203体の海神わたみハンター・・・しかも、怪物に憑依されて・・・

その時、メールが・・・

牢獄

かれん「メールが来たわ」

なぎさ「メール?」

つぼみ「何なんでしょうか?」

ラブ「タイマー止まつてゐるのに?..」

かれん「通達!」

ひかり「こんな時に通達する事なんて・・・

せつな「無い筈^{はず}よね？」

ほのか「兎に角、読んでみて」

かれん「『』これよりゲームを一時中断し……」

いつき「中断？」

かれん「『敗者復活ゲームを行つ』ですってー」

この報告に、牢獄の者達は大喜び。

旧エリアに取り残された牢獄の13人に復活のチャンス。

彼女達は、これよりプリキュアに変身し、わたつみ海神達に憑依した怪物203体を倒していく。そして、倒した数が多い上位5人がゲームに復活出来る。

咲「でも、変身する為の道具は全部没収される筈^{はず}だよ？」

その通り・・・プリキュアに変身する為の道具は、事前に回収されてしまっている為、彼女達は変身出来ない。

うらら「じゃあ、どうするんですか？」

全く辯^{べん}棟^{とう}が合わない話に困惑する敗者達。

その時、彼女達の前に1人の女が・・・

いつき「あ・・・あれは・・・」

つぼみ「キュアムーンライト・・・！」

現れたのは、月影ゆりが変身するプリキュア・キュアムーンライト
だった・・・

舞「な・・・何である人が・・・！？」

他の者も、彼女の登場に動搖を隠せない。

ムーンライト「最初に言つておくわ・・・私は他ならぬ部外者だから、この事には手を出さない・・・でも、少しばかりの手助けはしてあげるわ・・・」

そう言つと、ムーンライトは右手の上に13の光る玉を出現させる。その玉は、牢獄の13人を一気に包み込む。

そして光が弾け飛ぶと、13人はプリキュアに変身していたのだ。

ブラック「え・・・ええー！？」

ベリー「道具を使つてもいらないのに・・・！」

レモネード「変身しちゃいました～！」

ブルーム「す～～～といふか、怖いといふか・・・！」

サンシャイン「道具を回収した意味つて・・・！」

ムーンライト「さあ、行きなさい・・・復活する為に・・・そし

て、この港を怪物達の脅威から救う為に・・・！」

そう言い残すと、ムーンライトはその場から去つて行つた。

プロッサム「ムーンライト・・・有難う御座います・・・」

アクア「あの人感謝するのもいいけど・・・」

ホワイト「今はあの怪物達を何とかしないと・・・」

パッシュョン「ムーンライトとかいう人の言つ通り・・・」

ルミナス「このヒリアを救わないと・・・」

ミント「行きましょう・・・」

イーグレット「この海を守る為に・・・」

ピーチ「そして、お姫さんや従業員の人達の笑顔を守る為に・・・」

「！」

そして、牢獄が開放され13人は一気に脱獄。203体の怪物達に歯向かつて行く。

復活するのは誰だ！？

ハンター上陸！（後書き）

遂に始まつた敗者復活ゲーム！

復活する5人は一体誰なのか！？

ここで、この小説を読んでくださっている皆さんにアンケートを取
ります！

誰を復活させてほしいか、第1希望～第5希望までの5人を投票し
てください。

当然ですが、投票は1人1回までです（必ず遵守してください）

出来るだけアンケートの結果を反映させるつもりです。

締め切りは逃走中の放送終了（10日の21時52分頃）までとし
ます。

宜しくお願いします！

敗者復活ゲーム（前書き）

久々の更新です

多くの方々からアンケートの回答を受けました！

アンケートに参加してくれた皆さん、本当に有難う御座います！

復活出来る5人は果たして！？

敗者復活ゲーム

脱獄するや否や、13人のプリキュア達は目の前にいる怪物達に立ち向かっていく。

「プロッサム」「プロッサム・スクリューパーンチ！」

最初に確保された花咲つぼみ改めキュアプロッサム。ここにこの花の力を込めた拳をエネルギーとして放ち、怪物達を薙ぎ倒していく。

ブルーム「やあっ！たあっ！はああっ！」

2番目に確保された日向咲改めキュアブルーム。精霊の力を集めたパンチを繰り出し、怪物達を次々と倒す。

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

3番目に確保された水無月かれん改めキュアアクア。光の弓矢が、怪物達の身体を貫く。

パッショーン「吹き荒れよ！幸せの嵐！プリキュア・ハピネス・ハリケーン！」

4番目に確保された東せつな改めキュアパッショーン。激しい旋風で大量消滅を試みる。

サンシャイン「サンシャイン・フレッシュショ...」

5番目に確保された明堂院いつき改めキュアサンシャイン。光の雨を降らせ、怪物達を追い込んでいく。

ベリー「響け！希望のリズム！プリキュア・エスパワールシャワー・フレッシュショ...」

6番目に確保された蒼乃美希改めキュアベリー。スペード型のエネルギー光波で怪物達を浄化していく。

レモネード「プリキュア・プリズム・チエーン！」

7番目に確保された春日野うらら改めキュアレモネード。光の鎖を駆使し、怪物達を粉砕する。

ホワイト「ふんっ！はあっ！たあー...」

8番目に確保された雪城ほのか改めキュアホワイト。合氣道系統の技で、怪物達を慄かせる。

ブラック「でりやあー・とりやつー・やあー！」

9番目に確保された美墨なぎさ改めキュアブラック。そのパワフル

そこで、怪物達を圧倒していく。

ミント「プリキュア・ラメラルド・ソーサー！」

10番目に確保された秋元こまち改めキュアミント。円盤状のオーラで、怪物達を次々と切り刻む。

ルミナス「光の意思よ！私に勇気を！希望と力を！ルミナス・ハイエル・アンクショーン！」

11番目に確保された九条ひかり改めシャイニールミナス。動きを封じ込め、有利に事を進める。

ピーチ「届け！愛のメロディー！プリキュア・ラブサンシャイン・フレッシュ！」

12番目に確保された桃園ラブ改めキュアピーチ。ハート型の光弾によって、次々と怪物達を浄化する。

イーグレット「はいやーーーたあーーーやあーーー！」

最後に確保された美翔 舞改めキュアイーグレット。自慢のキックで多くの怪物達を振り払っていく。

怪物に憑依された海神ハンターも残り半分にまで減った時、のぞみ

わたみ

によって凍られたハンターの氷が、太陽の熱により全て融けた・・・
・そしてハンターは、再び逃走者の搜索へ・・・

そして、そのハンターは13人の敗者が集まっている場所へ・・・

ベリー「・・・・・！」

突如加速を始めたハンターに気付いたベリー。

ベリー「ハンターが来てる・・・！」

イーグレット「あつ・・・・・！ハンター・・・・！」

ミント「えつ・・・・・？何で・・・・？」

ブラック「不味い・・・・！完全にあたし達を確保しようとしてる・・・
・！」

他のプリキュア達も、ハンターの存在に気付いていく。

氷の封印から解かれたハンターは、逃走者を見つければすぐに確保へと動く。プリキュアに変身しても、その恐怖から逃れる事は出来ない。勿論、ハンターに捕まれば敗者復活ゲームから強制離脱となる。

ピーチ「ハンターに捕まらない様に倒さなきゃいけないって事・・・

！？」

サンシャイン「さつ過ぎる……あまりにも苛酷過ぎる……」

アクア「逃げながら相手を倒すなんて……」んな相容れない事……
・理不尽過ぎるわ……！」

ホワイト「どれだけ辛い思いをさせれば気が済むのかしら、この逃走中は……！」

ゲームから強制離脱されたくれば、ハンターから逃げなければならぬ。しかしそれは、復活の可能性を低くする事にも繋がってしまう。

しかし、彼女達は今プリキュアという人並み外れた力を持っている。追われても、驚異的な跳躍力でハンターの追跡を易々と免れる事が出来る。

ブルーム「くそつ……！」でも多く倒して、1秒でも早く終わらせないと……！」

レモネード「絶対復活してやる……！」

ルミナス「あと少し……！でもハンターが叫び声に反応して、こつちに来やすくなってる……！」

パッショーン「ハンター怖いけど……何もしないで終わりたくないわ……！」

ブロッサム「捕まりたくない……！そして、復活したい……！」

一心不乱に海神ハンターの怪物を倒していく13人の敗者達。

そして、敗者復活ゲームが終了。203体の怪物達は全て浄化された。

それと同時に、13人の変身が解ける。

ピリッピリッピリッピリッ

いつき「メール来た・・・！」

うひらり「『敗者復活ゲーム終了。復活出来た上位5人は・・・』

果たして・・・誰なのか・・・？

そして、復活した5人は港に停泊しているボートに乗る為、揃つて港へと向かう。

その顔触れは・・・

なぎさ「まさかあたしが1位通過なんて、自分でも信じられないよ

圧倒的な強さで、見事1位に輝いた美墨なぎさ・・・

つぼみ「私が復活出来るなんて・・・ホント嬉しいです！」

意外にもなぎさと僅かの差で2位となつた花咲つぼみ・・・

「まち」「こ」で復活出来たんだから、逃げ切れそうな気持ちになつてきたわ」

己の必殺技が功を奏し、3位に食い込んだ秋元「まち・・・

舞「いまいちさんと同数で勝ち抜けるのも、ある意味すごい事ですよ？」

「まちと同率3位で復活を果たした美翔 舞・・・

最後の1人は・・・

かれん「復活出来るのって、やっぱり気持ちがいいわね」「

運も味方に付け、新エリアへの最後の切符を手にした水無月かれん・

5人は港に到着するや否や、ボートに乗船。そのままボートは港を離れ、新エリアへ。

舞「逃げ切つて！」

かれん「72万円！」

なぎさ「頂くぜ！」

つぼみ「獲ります！」

こまち「絶つ対に！」

新たな逃走劇の舞台となる新エリアは、数々の商店や海を一望出来る民宿付きダイビングハウスが立ち並ぶとある島。アイランド広さは東京ドーム約1・5個分。

ゲーム再々開前、新エリアを下見する10人の逃走者達。

えりか「うわ～・・・す」い人が復活してきた。つぼみ復活出来たんだ」

つぼみ「何処行つても海が見える・・・夕日が綺麗・・・」

かなりの時間移動していた為、夕日が今にも沈もうとしている。

りん「舞が復活したよ・・・あのスプレーす」かつたな」・・・

舞「まだこのスプレー使い切つてないから、多分大丈夫だと思つけど・・・」

祈里「3年生が3人復活したけど・・・1年生がどっちも復活出来てないのが、一寸腑に落ちないな」・・・」

なぎさ「潮風が気持ちいいね」

かれん「少し涼しくなってきたわ

こまち「始まつた時とはまるで違つわね

3人の顔からは、少しばかり余裕の表情が見られる。

のぞみ「もうすぐ暗くなりそう・・・暗くなると、ハンター見えにくくなつちやうよー・・・」

くるみ「まさか夜まで続くの、このゲーム・・・もひ止めよー・・・」

暗闇に包まれそうになる新エリアに、一抹の不安と恐怖を抱くのぞみとくるみ。

愈々新エリアでの逃走劇が幕を開ける！

敗者復活ゲーム（後書き）

残る逃走者は10人（りん・のぞみ・祈里・えりか・くるみ・なぎ
さ・つぼみ・こまち・舞・かれん）となつた

次回、ゲーム再々開！

逃走者達を更に追い詰める、驚異的な事件が！？

アンケートを集計してて気付いた事が1点

1年生の2人がまさかの〇票・・・（汗）

そして、逃走中の〇△を見てて思つた事

『謎の存在』の伏線を書いた意味無し・・・（泣）

ゲーム再々開！（前書き）

残り41分からゲームがまた再開される！

復活組も含め、逃走者は残り10人！

更に過酷なものとなる逃走劇の中、生き残れる者は現れるのか！？

ゲーム再々開！

エリアに散らばる10人の逃走者達。

そして、残り時間41分・・・ゲーム再々開

高速船に乗つて来たのは、旧エリアから引き継がれた4体のハンターハンタ。

船着場に到着するや否や下船し、逃走者の確保へと向かつ。

祈里「今、船着場から4体が降りてきた・・・！」

G P Sモニターで、ハンターの出現を確認した祈里。

舞「このスプレーモ、復活した命も大事にしたいわね・・・！」
なぎさ「やつぱりこいつやつて逃げてると、ゲームに参加してるんだ
な～つて思つよね～」

かれん「ここの復活出来たって事は、私に運が向いてきた証拠だし・
・・この運を持って逃げ切りたいわ・・・！」

こまち「絶対逃げ切つて、72万円獲る・・・！」

つぼみ「どうしようつ・・・もうあと5分ぐらいで50万円・・・
自首・・・しちゃおうかな・・・？」

エリア内2ヶ所の船着場で、チケットを渡し乗船すれば自首が成立。

その時点までの賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

りん「そうこえ、あたしミッションでチケット渡しちゃったから、
自首出来ないんだよね~」

自首をする事が出来ないのは、りん・のぞみ・祈里・なぎさ・こま
ちの5人。

つぼみ「いやっ・・・！そんな事で怯む私じゃないです・・・！復
活したんだから、絶対逃げ切らう・・・！」

自首といつ悪魔の囁きに乗らないと決めたつぼみ。逃げ切りを誓う。

一方でこの女は・・・

えりか「結構いい額になつてきてるじゃん。これ、自首もありかも
ね~」

賞金欲しさに、自首しようか悩むえりか。

のぞみ「あっ・・・」

のぞみが前方に誰かを発見。

くるみ「このエリア、狭過ぎるから隠れる場所無いわね~」

くるみだ・・・

先程、ミッション参加に関して彼女に暴言を吐かれたのぞみ。嫌悪
感を露にする。

のぞみ「何だよ、くるみつたら……一人の苦労を知りもしないで偽善者呼ばわりして……ふんつー。」

くるみの許から逃げる様に、その場を離れる。

りん「うわー……段々暗くなってきたよ……マジで怖くなってきた……！」

暗闇に包まれていくエリアに恐怖を覚えるりん。

その近くに2体のハンター……

りん「ハンターだ……！」ひりひり来てる……！

その場から離れるりん。

しかし、気付かれた……

更に別のハンターにも見つかり、挟まれるりん……

りん「へぐつー！」

緊急用逃走靴を発動させて挟み撃ちをかわし、一旦散に逃げるりん。

りん「舞逃げろー。」

りんが逃げる先に舞の姿……

舞「ええ！？」

りんに釣られ、一田散に逃げる舞。

りんは驚異的な瞬発力で、ハンターの追跡をかわした。

緊急用逃走靴を12秒使い、靴の効果はあと31秒。

りん「狭過ぎる・・・！」んなすぐにハンターと出くわすなんて・・・！」

舞「危ない・・・！」

舞も、どうやらハンターを撒いた様だ。

その頃、別の場所で「まちとかれんが合流。

「まち」「かれん」

かれん「「まち・・・」のエリア狭くないかしら？」

こまち「狭いわよね・・・こんな簡単に2人が集まっちゃうんだから・・・」

そこへ、のぞみもやって来た。

のぞみ「あれ？」まちさんにかれんさん

かれん「のぞみ？」

のぞみ「あんまり大勢で固まつてると危ないですよ~。」

こまち「それは分かつてゐるんだけど、どうしても集まつちやうのよ
「みのり」

のぞみ「ええ？」

かれん「エリアは狭いし、人数は10人だし……」

こまち「もうすぐ暗くなるしね……」

のぞみ「なるほど……」

こまち「それに、暗くなつたらハンターが見えにくくなるしね。ハンターつて黒ずくめだから、黒に黒つて事で……」

かれん「それもそうよね……」

のぞみ「やつぱり」は、バラバラになるのが賢明ですよ

3人は別行動に。

つぼみ「何処かに隠れた方がいいのかな？」

地図を頼りに、エリアを小走りで彷徨うつぼみ。その姿を見たのが・
・

くるみ「あれつぼみ？走つてゐる姿初めて見た……あの姿、全つ然似合わない……！」

つぼみに関しては、その姿をも侮辱する様だ。

なぎや「暗つ……！全然街灯無いじゃん、この道。危な過ぎるでしょ？」

灯りが全く無い小道に来てしまったなぎや。

その近くに黒い影……

なぎや「これでハンターに来られたら最悪だよ……ん？ヤバい……！あれハンターだ……！」

遠くにハンターを見つけ、一田散に逃げるなぎや。ハンターは気付いていない様だ。

なぎや「怖つ……！暗闇の中だと、ハンターの怖さが倍増している……！ありえない……！」

祈里「こればれるかな？」

タイマーだけでなくGPSモニターも光っている為、他の逃走者よりも若干ハンターに見つかりやすい祈里。

祈里「でもこれは、逃げ切る為には必要だし……それ以前に、ミコちゃんからもじつた物だし……壊す訳にはいかない……！」

ぐるみ「そろそろ誰か捕まるんじやない？」

周囲を警戒するぐるみ。

ぐるみ「もつ少しでゲームが動きそうなんだけど……」「

えりか「どうしようつ？ あともう5分ぐらい待つて、お金釣り上げようかな？」

賞金は間もなく50万円に届くとしている。

えりか「船着場の近くで待つとして、船が来たらすぐには首じよう

逃げ切りよりも、田の前の賞金を選んだえりか。

しかし、彼女の近くにハンターが接近……

えりか「もう無理だよ、こんな狭い中で4体相手とか……絶対追われたら終わるじゃ……って来たよー！」

見つかった……

ピ――――――――

えりか「嫌だーー！ うわああーー！ あーー！」

絶叫に近い悲鳴を上げながら、田畠に逃げるえりか。

りん「うるさい……！ あの声ってえりか？ 多分追われてるな……でも、だからってあんな悲鳴上げなくても……」

えりか「ヤダアーー！ 来ないでーー！」

逃げ続けるえりか。しかし、ハンターとの距離が縮まっていく。最早、逃走不可能……

えりか「ひやあ～！」 ポンッ

残り時間 36分27秒 来海えりか確保 残り9人

えりか「うわあ～！捕まつたー！最悪だー！」

抜け駆けしようとした報いだ・・・

りん「えりか、だからひるをこつて・・・！夜だよっ少しは静かにしろっての・・・！」

ピリッピリッピリッ

なぎさ「何？」

のぞみ「確保情報だ・・・！」

舞「ええ・・・！？」来海えりか確保・・・！えりかさん捕まつたの・・・！」

つぼみ「ええ・・・！？」えりか「・・・」

くるみ「あのうるさい声・・・えりかのだったの？」

暗闇に包まれた、新エリアとなつている島・・・
アイラン

月の光に照らされた水面がとても幻想的だ・・・
みなも

ダイビングハウス付きの民宿では、ダイビングのログ付けで大賑わい・・・

スタッフ「こんな魚いましたね～」

男「あ～いたいた」

女「私、写真も撮ったんですよ～。 Alonsoで見ましょうよ～。」

中にはナイトダイビングを楽しむ者も・・・

男「いや～、夜のダイビングも捨てたもんじゃないな～」

女「夜光虫がとっても綺麗だった」

しかし、夜だからこそ楽しめるこの島に、9色のハンター・ボックスアイランズが出現・・・

逃走者達に危機が迫る・・・

祈里「怖い・・・怖くなってきた・・・！」

ピリッピリッピリッピリッ

祈里「えつ？何？」

メールだ・・・

「まち「あつ・・・ミッショソ4・・・」

なぎさ「『Hリア内に9つのハンターボックスを設置した』・・・」

舞「『残り25分になると、それぞれのボックスの扉が開きハンターが放出される』・・・」

つぼみ「あと10分ぐらいで、9体出てくるって事? 厳し過ぎる・・・」

のぞみ「『阻止するには、ダイビングハウスでケミカルライトをもらい』・・・」

くるみ「『それを発光させて同じ色のボックスに嵌め込み、ロックしなければならない』・・・ケミカルライト?」

かれん「『但し、ケミカルライトは1人1本まで。急ぎたまえ!』・・・1人1本ってどういう事?」

りん「『一寸待つて・・・ボックスの数と残り人数・・・同じじゃん・・・!』

MISSION? ハンター放出を阻止せよ!」

エリア内に設置された9つのハンターボックス。残り25分になるとハンターが放出。その数は最大13体に増えてしまう。阻止するには、ダイビングハウスでケミカルライトをもって発光させ、同じ色のボックスに嵌め込み、扉をロックしなければならない。但し、ケミカルライトは1人1本しか手に入れる事が出来ない為、1人でもゲームから離脱したり、色が重複してしまったりすると、全ての

ボックスをロック出来なくなつてしまつ。

りん「厳し過ぎる・・・! 25分まで誰も捕まれないって事じやん・・・!」

祈里「捕まつたら、皆に迷惑掛けやつよ・・・!」

くるみ「ええ~?」の//シショノ、半強制的じやない・・・! 何で?」

つぼみ「9体も出できたら、その瞬間ゲームオーバーって言つても過言じやないよ・・・!」

かれん「先^まずはダイビングハウスに行かなきやいけないのね」

ハンター放出を阻止する為に動き出す逃走者達。

しかし、エリアには4体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。

ハンター放出まで、およそ9分。

全てのハンターボックスをロック出来るのか!?

ゲーム再々開！（後書き）

ミッションに動き出す逃走者達！

恐怖が渦巻く暗闇の中、彼女達はどう動くのか！？

ハンター増殖の危機！（前書き）

残つた9人の逃走者に課せられたミッション！

絶対に捕まれないフレッシャーが彼女達を窮地に追いやる！

一体どうなつてしまふのか！？

ハンター増殖の危機！

残り25分までに、ダイビングハウスで手に入るケミカルライトを使ってハンター ボックスをロック出来なければ、最大9体のハンターが放出されてしまう。

なぎさ「これやらなかつたら、他の人達にも迷惑掛けるし……況^まして、自分の首を絞める事になり兼ねないよね」

りん「やらない人なんていないでしょ？やらなかつたら、その人自分の立場が分かつてないって事だよ？」

こまち「ケミカルライト……光らせないとロック出来ないのよね？」

舞「どのみちハンターに見つかるのは覚悟しないと……」

くるみ「嫌だな……2、3人捕まつてから動いた方がいいわね……」

殆^{ほとん}どの者がミッショⁿに行く中、動かないのはやはりくるみ1人。

エリアには4体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。

更に、1人でも確保されればハンター放出が確定してしま^う。

のぞみ「1人1本つて言つのが厳しいよね……？」

周囲を警戒し、ダイビングハウスを目指すのぞみ。

つぼみ「怖い……ハンターが全然見えない……」

暗闇の恐怖に^{おのの}慄き、足取りの重いつぼみ。

その時、ハンターが1人の逃走者を見つけ確保へと向かう。見つかつたのは……

のぞみ「こっちでいいのかな……？」

つぼみ「ハンターに来られたらヤダな……って言った傍からー！」

つぼみだ……

背後から迫るハンターから一目散に逃げるつぼみ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能……

つぼみ「嫌だ！いやあー！」　ポンッ

残り時間33分15秒　花咲つぼみ確保　残り8人

つぼみ「嘘……！何でこうなるの……？」

再び牢獄へ……

咲「あつ！」花咲つぼみ確保『だつて

いつき「ええ～！？」

美希「復活したのに！？」

つぼみ「意味無いじゃないですかー！」

ほのか「一体何の為の復活だつたのよーー！」

かれん「つぼみが捕まつた・・・これ、1体は確実に出て来るつて事？」

つぼみの確保により、1体のハンター放出が確定となつた。

くるみ「何やつてんのよ、つぼみ～・・・！」

祈里「あそこだ・・・！」

偶然ダイビングハウスの近くにいた祈里。ケミカルライトを手に入れる為に、店の中に入ろうとする。しかし・・・

祈里「あれ・・・あれ・・・！？扉が開かない！しかも、中からシャッターが下ろされてる！？どういう事！？」

女「すみません。ここで何をされてるんですか？」

店の脇から現れた1人の女・・・

祈里「あ・・・あなたは？」

女「私は、こここのダイビングハウスのスタッフですが・・・」
に何か御用ですか？」

祈里「あの・・・ケミカルライト欲しいんですけど・・・」
スタッフ「申し訳ありませんが、もう営業時間外ですので・・・そ
の件に関しては一寸・・・」

祈里「ええ！？営業時間外って・・・入れないって事ですか！？」

スタッフ「すみません・・・」

祈里「いや・・・今すぐにいるんですよー！ケミカルライトが無いと、
大変な事になるんですよー！」

スタッフ「どうしてもと言うのなら、この裏手にある倉庫に行つて
ください。その中の段ボールの中にある筈です・・・」

祈里「倉庫・・・うわっ、まだずっと向こうだ・・・！」

既に閉店時間を過ぎており、ダイビングハウスに入る事は出来ない。
ケミカルライトを手に入れるには、裏手にある倉庫へ行き、中にある
段ボールから持ち出さなければならない。

祈里「またこれだよ、メールに書かれていない事をやらせんなシシ
ヨン・・・！しかも、出てくるハンターはこのモニターに映らない
し・・・絶対的に不利じゃん・・・！」

祈里の腕に付けられているGPSモニターに映されるのは、初期の4体のハンターのみ。Jのミッションで放出されるハンターは映されない。

そこへ、りんが到着。

りん「あれ？ 祈里・・・ケミカルライトは？ 持ってるんじゃないの？」

祈里「ダイビングハウス、もう閉まってるから入れないの」

りん「はあー？ ジャあ、どうすんのー？」

祈里「裏手にある倉庫にある段ボールの中から持つて来いつて・・・スタッフの人が言つてた」

りん「マジかよ・・・」

渋々倉庫へ向かう2人。

その近くに黒い影・・・

祈里「あつ・・・・・ハンター来てる・・・・・」つぐちゃん、一旦隠れよつ・・・・・「

りん「嘘・・・」

逸早くハンターに気付き、建物の陰に隠れる。上手くやり過ごした様だ。

かれん「1体増えるだけでも、かなりの痛手よね・・・」

何も知らずにダイビングハウスを目指すかれん。彼女が向かう先に
・
・?
「？」

くぬみ「かれん・・・。//シラシラに向かおうとしているのかしきり・
・

かれん「あら・・・?あれって・・・くぬみ?」

かれんはくぬみに駆け寄る。

かれん「くぬみ・・・//シラシラに向かおうとしているのかしきり・
・?

くぬみ「うへん・・・あんまつやつたら相当疲れれるわよ。//シラシラは
・
・」

かれん「でも、これやうなかつたら相当疲れれるわよ。・
・?

くぬみ「もう既に疲れたらから、関係無」とわ・
・

くぬみ役を買って出るくぬみ・
・

かれん「これ以上の放出は絶対避けないと・・・。」

くぬみ「分かってるけど・・・怖過ぎて・・・。」

かれん「そんなの話一緒に・・・。」

ミッションに行くがどうかで悩む2人の近くにハンター・・・

くるみ「確かに増えるのはきついわね・・・」

かれん「そうよ・・・早くダイビングハウスに・・・あつーハンター来た!」

くるみ「嘘でしょー?」

見つかった・・・

一目散に逃げる2人。一手に分かれ、更に逃げる。建物の影を利用して、上手く撒いた様だ。

くるみ「どうしよう・・・全然近付けない・・・!」

思う様に動けない・・・

なぎさ「あつた、あつた・・・!」

ハンター放出まで 5分

ダイビングハウスに到着したなぎさ。しかし、目指すべき場所はここでは無い。

なぎさ「あれ?扉が開かないんだけど。何で?」

スタッフ「すみません。こちらで何をされてるんですか?」

なぎさ「ケミカルライトが欲しくて来たんですけど・・・」

スタッフ「生憎あいにんですが、もう既に閉店してるので・・・」

なぎさ「ええ！？ケミカルライトもられないの！？ありえない！」

その声に反応した近くのハンターが、なぎさの確保へと動く。

スタッフ「裏手の倉庫にならいくらかありますけど・・・」

なぎさ「倉庫・・・分かりました。・・・てわーっ！」

見つかった・・・

一曰散に逃げるなぎさ。何回も曲がり角を利用し、ハンターの視界から消えようとする。

なぎさ「うわうつ！」

しかし、とうとう曲がり切れずに転倒。最早、逃走不可能・・・

なぎさ「うわ～・・・！」 ポンツ

残り時間29分28秒 美墨なぎさ確保 残り7人

なぎさ「不運過ぎるよ～・・・ケミカルライトは手に入らないわ、ハンターには捕まるわ・・・もつ最悪～・・・！」

彼女もまた、牢獄に逆戻り・・・

牢獄

咲「なぎさんも捕まつた！」

ひかり「ええ～！？嘘でしょ～！？」

ほのか「何してんのよ、なぎさん私とひかりさんの希望だったの
に～！」

こまち「もう2体放出確定・・・きつ過ぎる・・・！」

舞「もうヤダ・・・どんどん捕まつてる・・・！」

のぞみ「ここの狭さで6体相手にするの・・・？絶対誰も逃げ切れな
いじやん・・・」

その頃、りんと祈里は倉庫に到着。

りん「この中つて事でしょ？」

祈里「うん」

ハンター放出まで 4分

2人は倉庫の扉を開ける。

りん「何だこれ！？すぐ黴臭い！」
かび

祈里「段ボール箱……」れかな?」

2人は協力して、1つの段ボール箱を外に出す。

祈里「結構重さがある……!」

りん「同じ色のが何本も入ってるんだろうね」

中を開けてみると、何十本もの9色のケミカルライトが無造作に入れられていた。

祈里「どれやる?」

りん「あたしは、ここから1番遠い所にある白をやるよ」

祈里「じゃあ、私はその次に遠い黄色をやる」

りん「あつ、そうだ。目的のボックスに行きがてら、皆にケミカルライトを配つてやつてもらおう」

祈里「そうだね。もう3分半ぐらいだし……」

りん「よしつ…急いで…」

祈里「うん!」

近くを通り掛かった逃走者にケミカルライトを配り、その色のボックスを封印してもらう作戦の2人。これが功を奏するのか。

のぞみ「ハンターいないね・・・」

何も知らずにダイビングハウスに近付くのぞみ。

のぞみ「あれ？ 電気が消えてる・・・何で？」

電気が消されてしまっており、閉店の臭いを漂わせてくるダイビングハウス。

のぞみ「まさか閉まつてんの？」

そこへ、りんと祈里が通り掛かる。

ハンター放出まで 3分

祈里「のぞみちゃん！」

のぞみ「えっ？りんちゃん？祈里？」

りん「のぞみ。これ・・・白と黄色以外の一本取つて」

のぞみ「これ・・・ケミカルライト？何処にあつたの？」

りん「そんな事どうでもいいから、早く選んで！」

のぞみ「わ・・・分かったよ・・・「へん・・・」の近くにある毒やねうつと」

青のケミカルライトを受け取る。

祈里「じゃあ、お願ひね」

のぞみ「OK」

2人はそのまま、足早にのぞみの許もとを去る。

のぞみ「青・・・青のボックス・・・あつ、これだ・・・・これを先ず光らせるんだよね?」

のぞみはケミカルライトを折って、中の液体を振り混ぜる。すると青色に発光した。

のぞみ「それで、これをここに嵌めるんだね?」

ボックスの横にある装置に、発光したケミカルライトを挿入する。

のぞみ「OK・・・! ロックした・・・!」

青ハンター ボックス ロック

この間にりんと祈里は、こまちに紫、舞に橙だいだいのケミカルライトを手渡した。

ハンター放出まで 2分30秒

かれん「早くしないと、ハンターが・・・・・これ以上増えるのだけは『メン』よ・・・!」

なかなか目的地に辿り着けないかれん。その近くにハンター・・・

かれん「10体とかになつたら、もう逃げ切りは無理ね・・・何とか止めないと・・・って嘘でしょ！？」

見つかった・・・

かれん「いやつ…来ないでー！」

一目散に逃げるかれん。果たして、逃げ切れるのか…？

ハンター増殖の危機！（後書き）

次回、ミッションが終了！

逃走者を追い詰めるハンターは、何体増えてしまうのか！？

ハシミノ4終アーチ（前書き）

多くの方々から感想をいただいて、本当に嬉しいです

これを励みに、最後まで挫折せずに頑張って参ります！

2体のハンター放出が確定した今、逃走者達はどう動くのか！？

//ミッション4終了！

ハンターに見つかったかれん。

かれん「ハンター来てる・・・！」

一目散に逃げるかれん。何度も曲がり角を利用して、ハンターとの距離を広げる。

ハンターはかれんを見失った様だ・・・

かれん「ハア・・・ハア・・・助かった・・・」

かれんが逃げた先に、緑のハンターボックス。

かれん「これね・・・でも、ケミカルライト持つてないわ・・・」

途方に暮れる彼女の許^{もと}に、遠くにあるボックスを目指しているりんと祈里が姿を現す。

かれん「あら・・・？りんに祈里・・・？」

祈里「あつ、かれんさん」

かれん「りん・・・その段ボールは一体何？」

りん「これですか？ケミカルライトが入ってるんですよ。これを通して掛けた人達に配るとしてるんです」

かれん「丁度良かつたわ。」に緑のハンターボックスがあるのよ

りん「あつ、ホントだ」

ハンター放出まで 2分

祈里「それじゃあ、かれんさん・・・」から緑のケミカルライト取つて下さい。私達は白と黄色のをやるんで」

かれん「白と黄色・・・」から結構距離あるわね・・・」

かれんは、地図を見返してそう呟く。

りん「あの、かれんさん？」

かれん「あつ・・・ゴメンなさい・・・じゃあ、緑はやつとくわね。後は任せるわ」

緑のケミカルライトを受け取るや否や、2年生の2人は一目散にボックスへ向かう。

かれん「早くロックしましょう・・・」

かれんはケミカルライトを折つて、中の液体を振り混ぜる。すると緑色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミカルライトを挿入する。

かれん「これでOKね」

緑ハンター ボックス ロック

同じ頃、こまちが紫のハンター ボックスに到着。

「まち「あつた……！」

こまちはケミカルライトを折つて、中の液体を振り混ぜる。すると紫色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミカルライトを挿入する。

紫ハンター ボックス ロック

こまち「今、何体ロック出来たのかしら？」

ハンター放出まで 1分30秒

舞「もう少しね……！」

その近くにハンター……

舞「ここ曲がったらすぐね……あつ、ハンター来た……！」

見つかった……

舞「食らいなさい！」

シュー！

ハンター 除けスプレーだ……

舞「スプレーまだ残つてるわね……あと5回は持つと思つけど……」

・あつ、あつた・・・！」

橙のハンター ボックスに到着。

舞「これを光らせて・・・」

舞はケミカルライトを折つて、中の液体を振り混ぜる。すると橙色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミカルライトを挿入する。

橙ハンター ボックス ロック

舞「あと1分10秒・・・！時間無い・・・！他の皆頑張つて・・・！」

のぞみ「皆・・・ロック出来るのかな？このままじゃ、圧倒的に不利になっちゃうよ！」

このままでは、5体のハンターが放出され、合計9体となる。

ハンター放出まで 1分

その時、りんと祈里が黄色のハンター ボックスを発見。

りん「祈里早く！」

祈里「分かつてる！」

祈里はケミカルライトを折つて、中の液体を振り混ぜる。すると黄色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミ

カルライトを挿入する。

黄ハンターボックス ロック

祈里「よしつ・・・！」

そこへ近付く1人の女・・・

くるみ「りんが抱えてるあれば何？」

くるみだ・・・

祈里「あつーくるみちゃんー」「つち来てー！」

くるみ「な・・・何？」

りん「くるみーもう時間無いから、近くの黄緑のボックスロックしてー」「こから黄緑のケミカルライトを・・・！」

くるみ「ええ？」

りん「躊躇つてる暇無いよーあと40秒切つてるんだからー！」

くるみ「わ・・・分かつたわよ」

くるみは、りんが地面に置いた段ボールの中から黄緑のケミカルライトを手に取る。

祈里「じゃあ、2人ともお願ひねー！」

りん「OK!」

くるみ「何とかやってみるわ!」

ハンター放出まで 30秒

のぞみ「あと30秒だ・・・。」

こまち「増えるのは2体で勘弁して・・・。」

舞「もう増えないで、ハンター・・・。」

かれん「これ以上増えたら、一巻の終わりね・・・。」

既にボックスをロックした者も不安を隠せない。

ハンター放出まで 20秒

りん「これだ!」

りんはケミカルライトを折つて、中の液体を振り混ぜる。すると白
色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミ
カルライトを挿入する。

りん「ロック!」

白ハンターボックス ロック

りん「くるみ行ってくれてるかな?」

くるみ「早くしないと……放出される……！」

くるみ、間に合ひつか！？

ハンター放出まで 10秒

くるみ「うわあ～……無理……間に合わない……逃げなきや……！」

間に合わないと踏み、ボックスから離れていく。

そして、赤・桃・黄緑のボックスからハンターが放出。その数は7体となつた。

ピツツピツツ ピリツピリツ

「まち「来た……！メール……ミッション4結果……！」

舞「『ミッション失敗。3体のハンターが放出され、その数は合計7体となつた』……」

りん「うわ～……くるみ間に合わなかつたんだ……！」

くるみ「私最悪……！頼まれておきながら、ハンター止められなかつた……」

かれん「この狭さで7体……？逃げ切れないわよ、ビツ考えても……」

のぞみ「ビツすんの、ホントに……？7体なんて絶対多過ぎるでしょ

！？」

祈里「3体も増えられたら……確実に全滅になっちゃうよ……！」

残る逃走者7人に対し、ハンターは同数の7体。

舞「逃げ辛くなつて……どうしよう？」

ハンターが増え、怯える舞^{おび}

かれん「これでまだミッションが来るというなら、もうクリア出来ないと考えた方が賢明ね……」

逃げ切りの可能性が低くなり、戦意喪失となつているかれん。

牢獄

美希「あつ……来た」

牢獄の者達の前に現れた、復活組の2人。

彼女達は一斉に、2人に罵声を浴びせる。

ラブ「全つ然意味無いじゃん！」

いつき「しかも復活ゲーム1位2位の2人がだよー？」

「ひらり「いや向でも酷過ぎます！」

ほのか「自分達の立場分かつてゐるの…？」

言われたい放題の2人は、そのまま入獄する。

つぼみ「皆さん！一言だけ言わせて下さ…」「メンなさい…」

なぎさ「不甲斐無を過ぎました…」

2人は9人に頭を下げる。

ひかり「不甲斐無い以前の問題ですよ…」

咲「2人とも、言わば秒殺じやん！」

せつな「1位2位で復活した人としてあるまじき事よ…？」

これでもかと言わんばかりに続く罵声に、2人は土下座をする。

つぼみ「すみませんでした！」

なぎさ「申し訳ありません！」

えりか「もついいじやん、皆…・罵声浴びせ過ぎだよ。2人も謝り過ぎ。過ぎた事いちいち引き摺つても仕方無いじやん」

えりかの言葉に、牢獄の中は水を打つた様に静まり返った。

えりか「復活の人はまだ3人いるんだから、3人の応援をしなきゃ

いつき「・・・それもそうだね」

咲「まだ舞が残ってたね、そいつ言えば」

ひかり「まちさんとかれんさんも残っています」

美希「まあ・・・復活した人じゃなくても、誰かは残ってほしいわ
ね」

ラブ「でもハンター7体だから、相当きついよ」

ほのか「のぞみさんや祈里さんが、過労で倒れないか心配だわ

せつな「無事に終わってくれればいいけど・・・」

ひかり「信じるしか・・・無いですよね・・・？」

のぞみ「こんな怖い事初めてだよ・・・プリキュアやつてる時の方が全然楽」

恐怖に駆られるのぞみ。その近くからハンターが接近・・・

のぞみ「7体は厳しいな・・・隠れてた方が・・・ってうわあー

！」

見つかった・・・

۱۰

一目散に逃げるのぞみ。彼女が逃げる先にくるみの姿……
くるみ「もう動かないでいましょう……絶対に動いたら……え
つ……？のぞみ？しかもハンター連れてるしー！」

ハンター・・・挟まれた・・・のぞみと一緒にくるみも逃げる。しかし、2人が逃げる先にも別の

—

のそみーうわー！」、ちからも来たー！」

くるみ - 最悪 !

のそみぐるみ

ハンターの横を強行突破する作戦に出た2人。

迫り来る2体のハンター・・・その横の隙間を縫う様にすり抜ける。ところが、1人はすり抜けた瞬間に足を滑らせ転倒。そのままハンターの標的となつたのは・・・

くるみ「転けた」・・・「

くるみだ・・・最早、逃走不可能・・・

くぬむ「・・・」ポンツ

残り時間 21分46秒
美々野くるみ確保
残り6人

くるな「もひへ・・・何で選りに選つて2体で来るのよ・・・」

天罰が下つた・・・

その間に、のぞみは上手く逃げ延びた様だ。

「のぞみ「さつき『ジantan』」って音が聞こえたけど・・・何だつたの？」

ପାଶୁଶର୍ଷରେ ପାଶୁଶର୍ଷରେ

祈里「確保情報」・・・！」

かれん「あつ・・・！『美々野くるみ確保、残り6人』・・・！と
うとうくるみが捕まつた・・・！」

りん「自分で増やしたハンターに捕まつたのかな~?」

そうでは無い。・・・

復活ゲームで淨化された怪物達 · · ·

しかし、怪物達は浄化される寸前、プリキュアに対する憎しみをこの新エリアにばら撒いていた・・・

そして、その憎しみが形となつてその姿を現した・・・

それは・・・ いつき以外の逃走者全員に憎しみを持つ深海の闇・ボトム・・・

無論、このボトムは怪物達の集まりの様な所謂クローンの存在で本物ではない・・・

しかし、プリキュアに対する憎しみがそのまま受け継がれていた。：

ボトム「ガアアー！」

彼は唸り声を放ちながらその憎しみに身を任せ、エリアで暴れ始め
た・・・

止のまではエリアは水没してしまう・・・

この騒動を止める事が出来るのは、他の何者でもない逃走者のみ・・

「まち「無闇に動けないわ・・・」

ペラシペラシ

「まち「えつ・・・?また」シショーン・・・?」

のぞみ「ミシシヨン5・・・!』エリア内に深海の闇・ボトムのク

ローンが現れた』・・・ええ！？倒した箸のボトムが！？何でクローンなんかで！？』

かれん「『彼は君達に対する恨みに身を任せ、エリアで暴れ始めた』・・・嘘でしょ！？こんな事つてあるの！？』

舞「『残り10分になると、彼の力によりエリアの3分の2が水没してしまう』・・・何それ！？』

りん「『阻止するには、牢獄前に置かれた変身アイテムを使ってプリキュアに変身し、ボトムのクローンを浄化しなければならない』・・・マジで！？滅茶苦茶不利になるじゃん、水没したら！』

祈里「『急ぎたまえ！』・・・島が無くなっちゃうの！？それは絶対ダメだよ！』

MISSION? エリア縮小を阻止せよ！

エリアに現れたのは、かつての逃走者達の宿敵・ボトムのクローン。彼はエリア中を暴れ回つており、残り10分になると彼の手によつてエリアの3分の2が壊滅・水没してしまう。阻止するには、牢獄の前に置かれたプリキュアに変身する為のアイテムを手に入れて変身し、ボトムのクローンを浄化しなければならない。但し、プリキュアに変身してもハンターに追われる身である事は変わらない。

こまち「島は壊滅させられちやう上に、エリアが狭くなっちゃう・・・！それは絶対に阻止しないと！』

のぞみ「絶対にこの島は守つてみせる！またボトムの思惑通りになんかさせないんだから！』

りん「6人しかいなけど……6人でやらなきゃ、島の人達が危ないよ！」

かれん「戦う前に誰も捕まらないで……！1人でも減つたら、それだけ不利になる！」

祈里「こんな景観のいい島は絶対に壊させない！皆でなら出来るつて……私、信じてる！」

舞「行きたいけど……咲とじやないと、私は変身出来ない筈……どうすれば……！」

一抹の不安を抱く舞も含め、残る逃走者全員がミッションに挑む様だ。

しかし、エリアには7体のハンター。動けば見つかる危険が更に高まる。

エリア縮小まで、およそ9分。

ボトムのクローンを浄化する事は出来るのか…？

〃シショノ4終了！（後書き）

エリアとなつてゐるアイラン^ド島に訪れた最大の危機！

逃走者達は、この島を救えるのか！？

そして、変身する為のパートナーがいない舞に奇跡が！？

ボトム撃退&エリア縮小阻止へ！（前書き）

残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・こまち・舞・かれんの6人

ゲーム終盤に訪れた最大の恐怖！

彼女達は乗り越えられるのか！？

ボトム撃退&エリア縮小阻止へ！

残り10分までにボトムのクローンを浄化しなければ、彼の手によりエリアの3分の2が水没してしまう。

「まち「先ずは牢獄に行って、アイテムを取らないと……！」

逃走者達は、変身アイテムを手に入れる為に、牢獄へ向かわなければならぬ。

しかし、エリアには7体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。更にプリキュアに変身しても、ハンターの標的とならなくなる事はない。

のやま「二四・・・・・」アリスがうなづいて、アリスの体の二四

ハンターを叩きし、思ひ様に近付けないのぞみ。

りん「あれ」これ考えずに、開き直つて行くつ キやないよ・・・・!」

かれん「誰かが捕まつたら、クリアは粗不可能ね・・・」
ほほ

「どうしたらいいんだろ? 行っても変身出来ないんじゃ……」

祈里^{モリ}に追加されたハンターには、一段と注意を払つといふ。・・・・・」

逃走者達が牢獄へ向かう中、ボトムのクローンは島のビーチを荒らし、建物を壊し、地鳴りも起こしている。
アイランズ

祈里「すごい音……。」

「まち「もたついてられないわ……。」

島中アイラブンダに響き渡る音が、逃走者達の心を搔き乱す……。

いつき「あつ……誰か来た」

ラブ「誰?」

ひかり「りんさんじゃないですか?」

ひかり「ホントだ。りんさんだ」

りん「着いた!」

最初に牢獄に到着したのは、夏木りん……彼女は牢獄前の箱に入っていた、自分のキュアモを取り出す。

りん「よしつ……これで……プリキュア・メタモルフォーゼ!」

りんはキュアルージュに変身。

ルージュ「コッシャ……! 行こう!」

彼女はボトムのいる場所へと走つて行く。しかし、向かう先にハンター……。

ルージュ「ハンターには気を付けないと……追われる身だって

事は変わらない訳だし・・・ん・・・?ヤバい、来た!」

見つかった・・・

ルージュ「こんな所で捕まつてたまるか!」

一目散に逃げるルージュ。持ち前のフットワークで、ハンターの追跡をかわした。

ルージュ「エエるよ、やつぱりハンターには・・・あつ、あれかな?」

視界に巨人の様な影を見たルージュ。すぐさま駆け寄つて行く。

ルージュ「やつぱりボトムだ!・・・つて、えつ?あれ・・・ホントにボトム?前見たのと全然違つじやん」

彼女が見たボトムのクローン。以前見たときの様な面影はそこには無く、身体は海の底に沈んでいたと思われるヘドロや廃棄物などで形成されており、頭部も鮫さめというより海鼠なまこに近い、見掛けも気味が悪いおぞましいものだった。

ルージュ「怖つ・・・・・・つてそんな事言つてる場合じゃないよ・・・!早くこいつを倒さないと!やあーー!」

1人立ち向かうルージュ。しかし身体がヘドロで出来ている為、ボトムには殆ど打撃は通用していない。

ルージュ「これ1人じゃ無理だ・・・早く誰か応援来て・・・!」

ほのか「今度は2人来たわ」

牢獄の近くに現れた、舞と祈里。

咲「舞だ！」

美希「ブツキーも！」

舞はクリスタル・コミューンを、祈里はリンクルンを箱から取り出した。

祈里「急ごう！ チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

祈里はキュアパインに変身。

パイン「舞ちゃん！ 先に行ってるから！ 後からお願ひね！」

舞「え・・・ええ」

舞を置いて、パインは加勢しに向かう。

舞「どうしたらいいの？ 咲は捕まってるし・・・このままじゃ変身出来ない・・・！」

そつ・・・舞は咲と一緒にでなければプリキュアに変身出来ない。つまり、変身アイテムを取つても意味が無いのだ。

・・・と、その時・・・

牢獄の者達の視界に現れた1人の男・・・

ながれと「な・・・何、あの人・・・!？」

くるみ「この島の^{アイランド}人・・・では無むせうね・・・」

つばみ「じゃあ・・・誰なんですか・・・?」

せつな「待つて・・・あれつてまさか・・・」

その男は、上半身裸で手にはバルティッシュの様な武器を持つている。そして彼は、舞の前で足を止めた。

舞「あ・・・あなたは・・・どなたですか・・・?」

男「私は、この海に棲む神々を司る、ポセイドン・・・君達は、先程私の仲間達を助けてくれたそうだな・・・」

敗者復活ゲームでの出来事だ・・・

舞「あつ・・・ええ、まあ一応・・・」

せつな「やっぱり・・・あの人・・・海の神様のポセイドンだったのね・・・」

ポセイドン「いくら憑依されていたとはいえ、君達や観光客を襲撃した事は申し訳なかつた・・・」

舞「いや・・・いいんですよ、そんな・・・」

ポセイドン「それにもしても、君は何か困つている様だが・・・」

舞「あつ・・・実はそつなんです。あなたの仲間達をあんな田に遭わせた黒幕が、今この島アイランで暴れてるんです。そして私は、プリキュアアイランというのに変身して、それを浄化しなきゃいけないんです。でも、変身するにはパートナーが必要で、そのパートナーは牢獄にいるから変身出来ないんです・・・」

ポセイドン「プリキュアか・・・よからつ・・・私が恩返しに、単独でも変身出来る様にしてあげよつ・・・」

舞「ほ・・・本当ですか・・・!？」

エリア縮小まで 5分

ポセイドン「勿論だ・・・君の手に持つてはいる、その変身に使うアイテムを私の前に差し出してくれ・・・」

舞「は・・・はい・・・」

言われるがままに、舞はクリスタル・ココローンをポセイドンの前に差し出す。

そこへ、のぞみ・こまち・かれんの3人が牢獄にやって來た。

こまち「あら?・舞さん、何やつてるのかしぃ?・」

かれん「それに、その男の人は?」

えりか「ここの海を守つてゐる神様のポセイドンですよ」

「まち」「ポセイドン? 何で」「ここにいるの?」

咲「舞が単独でも変身出来る様にしてあげるって言つてるんですよ」「

のぞみ「嘘…? そんな事出来るの…?」

かれん「確かに、神様でなければ出来ないかもね…。」

その時、舞のクリスタル・パワーコーンが突然強い光を発し出した。

のぞみ「な…・何…?」

こまち「すゞい光…・・・」

かれん「2人とも…・・・感心してる場合じゃないわよ…・・・! 私達も早く変身しないと…・・・!」

こまち「そ…・・・そうね」

のぞみ「アイテム、アイテム…・・・」

暫くすると、光は治まつた。

エリア縮小まで 4分

ポセイドン「さあ、これで君は単独で変身出来る様になつた…・・・この海を守る為に、全力を頼りしてくれ…・・・!」

舞「はい…・・・! 有難う御座います!」

そして舞は、単独変身が可能となつたクリスタル・コミコーンを天に繕す・・・

舞「プリキュア・スピリチュアル・パワー！」

舞はキュアイーグレットに変身。

それに続き、のぞみ・こまち・かれんの3人も同時に変身する。

のぞみ・こまち・かれん「プリキュア・メタモルフォーゼー！」

のぞみはキュアドリームに、こまちはキュアミントに、かれんはキュアアクアに変身。

しかし、先程の強い光を見たハンターに見つかった・・・

アクア「あつ！ハンター来たわ！逃げましょ！」

ドリーム「タイミング悪過ぎー！」

一目散に逃げる4人。曲がり角を利用して、ハンターの視界から消えた様だ。

ミント「何とか撤いたみたいね・・・そんな事より、早く行かないで・・・！」

イーグレット「ポセイドンさんからもうつたこの力・・・絶対に無駄にしないわ・・・！」

その頃、ルージュとパインはボトムのクローンに悪戦苦闘していた。

パイン「私達の技が……殆ど効いてない……！」

ルージュ「本物以上に戦い辛いよ……！」
2人の必殺技を同時に食らつても、ボトムは全く痛痒つらがゆを感じていな
い。

エリア縮小まで 3分

パイン「どうしよう……あと3分で水没しちゃう……！」

ルージュ「おまけに、ハンターに何回も追い掛けられて……やつ
ぱり皆が来ないと……！」

ドリーム「ルージュ～！」

ルージュ「……」の声……！」

2人は声のした方に振り向く。

その視界には、ハンターの追跡から逃れてきたドリームとアクアの
姿……

ルージュ「ドリーム！」

パイン「アクア！」

ドリーム「お待たせ！」

ルージュ「遅いよ！パインと2人で、すぐ大変だつたんだからー！」

アクア「確かに、すごい傷ね・・・でももう大丈夫よ」

パイン「あれ？残りの2人は？」

イーグレット「はあーー！」

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

ボトムの背後から奇襲した2人。

イーグレット「パイン！ゴメンなさい、隨分ずいぶん待たせちゃって」

パイン「いいよ、大丈夫！」

ルージュ「これでやつと、役者が全員揃つたね」

ドリーム「さあーここからが本番だよー！」

エリア縮小まで 2分30秒

このままボトムのクローンを浄化出来なければ、エリアの3分の2が壊滅・水没し、逃げ切る事は粗ほの不可能となる。

果たして、逃走者もといプリキュア達の運命は！？

ボトム撃退&アム・ヒリア縮小阻止へー（後書き）

次回、遂にゲームが終了！

逃げ切れるのは誰だ！？

そして、ゲームの様子を見ていた謎の存在が思わず行動に！？

一体、何を考えているのだろうか！？

ゲーム終了！（前書き）

江戸編のDVD・・・未公開シーンの内容が充実していく面白い！

次回の王国編も楽しみです

6人のプリキュアvsボトムのクローン。戦いの行方は！？

そして、ゲームを傍観している謎の存在が遂に動き出す！

ゲーム終了！

集まつた6人の逃走者もといプリキュア達。ボトムのクローンを淨化しなければ、エリアが3分の1しか残らず、逃げ切る事は粗不可能となる。

しかし、彼女達は本物の10分の1にも満たない力のクローンに悪戦苦闘している。

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

同時に必殺技を繰り出すミントとアクア。しかし、ボトムのクローンの胴体は大部分がヘドロで出来ている。2人の攻撃で引き裂かれたり貫かれたりしても、すぐに復元してしまう。

アクア「・・・」

ミント「全然効いてない・・・」

ドリーム「こうなつたら・・・ルージュ！」

ルージュ「OK！」

ドリーム「プリキュア・シユーティング・スター！」

ルージュ「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

2人は顔の部分に向けて必殺技を繰り出す。しかし、ボトムのクローンの頭部は海鼠の様なもの。危険を察知し、頭部を硬くしてガードする。その防御力は絶大。ルージュの技をいつも簡単に跳ね返し、突進してきたドリームをも弾き飛ばす。

ドリーム「うわー！」

アクア「ドリーム！」

ミントとアクアが、弾き飛ばされたドリームを助ける。

ドリーム「あ・・・有難う御座います」

ルージュ「嘘でしょ・・・！？あたし達の必殺技が、何一つ効かないなんて・・・！」

エリア縮小まで 2分

ミント「このまま私達は、島が消えるのを黙つて見てるしか無いの。
・・？」

イーグレット「そんな事はさせないと！」

パイン「何としても止めないと！」

イーグレットは空中からの攻撃を試み、パインはパインフルートを構える。しかし・・・

ボトム「グアアー！」

プリキュア「キャー！」

ボトムの身体から無数のヘドロの爆弾が現れ、プリキュア達に襲い掛かる。彼女達は成す術も無く、その場に倒れる・・・

アクア「ぐつ・・・・・！いくらなんでも・・・・・けた桁が違けたい過ぎる・・・・・！」

イーグレット「クローンなのこ・・・・何でみんなに強いの・・・・？」

ルージュ「もう無理だよ・・・・間に合わない・・・・・

エリア縮小まで 1分30秒

パイン「あと90秒しかない・・・・・じつしたらいいの・・・・・？」

最早打つ手が無くなり、絶望に浸るしか無くなつたプリキュア達・・・

・・・・と、その時・・・・

ドリーム「あ・・・・あれ？」

ミント「・・・・・じつは、ドリーム・・・・？」

ドリーム「わざわざあんなに暴れてたボトムが・・・・止まつてゐる・・・・

ドリーム以外「えつ・・・・・？」

ふと見ると、ボトムのクローンはまるで石化したかの様に、動きが止まってしまったのだ。更に、彼の身体のヘドロが乾燥している様にも見える。一体どういった事なのか。

イーグレット「あつ・・・・・皆、あれ！」

イーグレット以外「ん？」

イーグレットが指差すその先には、先程イーグレットが単独で変身出来る様にしてくれたポセイドンの姿が…
ポセイドン「私達が守るこの海を汚す者は…・それ相応の罰を下すまで！」

牢獄

ピリッピリッピリッピリッ

咲「あれ？メール来たよ？」

えりか「まさか、誰か捕まつたんじゃ…・・・

ひいら「どうも違つみたいです・・・

咲「通達…・・・『ポセイドンが逃走者達への恩返しにボトムのクローンの動きを止めた為、ミッション残り時間が3分間延長された』だつて！」

ながわ「ポセイドンが！？」

くるみ「3分延長つて結構大きいわよ？」

つぼみ「といつ事は……あと4分ぐらいです

これで、エリア縮小がゲーム残り7分まで延長された。

ポセイドン「だが、私が出来るのはここまでだ……プリキュアの諸君！この者を何としてでも葬り去ってくれたまえ！」

ドコーム「ポセイドンさん、有難う御座います！」

イーグレット「まさか、またポセイドンさん助けられるなんて…

・

ルージュ「よしつ・・・・少し余裕が出来た・・・・危なかつた・

・

ミント「でも、どのみち時間が無いわ・・・・」

パイン「ハンターに気を付けながら、早く倒しましょう・・・・」

アクア「皆で一斉攻撃よ・・・・」

エリア縮小まで 3分

6人は打撃を繰り返して、ボトムのクローンの身体の乾燥したヘド

口を徐々に崩していく。彼が動き始める前に、出来るだけ身体を崩せば、それだけ有利となる。

ドリーム「どんどん崩れてる…」

イーグレット「」のまま全部崩しましょー!」

しかし・・・その近くに2体のハンター・・・

パイン「あつ・・・・・!」口離れよう!ハンター来た!」

ルージュ「マジかよ!?」

見つかった・・・

ハンターに追われ、6人はバラバラに・・・

更に、近くにいた別のハンターが、逃げるイーグレットの姿を見つけ、確保へと向かう。

イーグレット「こっちからも来た・・・!」

方向転換し、一目散に逃げるイーグレット。ハンターは彼女を見失つた様だ・・・

イーグレット「きつ過ぎる・・・!」

現在エリアには7体のハンター。発見されれば、プリキュアに変身してゐとは言えど、逃げ切るのは容易ではない。

パイン「どうしようつ……？ 戻れるかな……？」

ハンターに追われ、ボトムとの距離が離れてしまったパイン。

ミッシュョンに戻る為に動けば、ハンターに見つかる危険が更に高まる。

エリア縮小まで 2分

先にボトムの許に戻つて来たのはアクア。しかし、かなりの時間が経ってしまった為、封印が解かれ始めている……

アクア「不味い……」のままじや、ミッシュョンクリア出来ない……皆、早く戻つてきて……！」

続いて、ルージュとミントが戻つて来た。

アクア「早くしないと、また暴れ出すわ！」

ミント「分かってるわー！」

ルージュ「間に合つたしないな……」いつなつたら、必殺技で一気に崩しましょー！」

アクア「そうね……それしか無さやつね」

ドリーム「皆、戻つて来てる……」

ドリーム「皆、戻つて来てる……」

ルージュ「ドリーム！早く手伝つて！時間無いからー！」

ドリーム「ええ！？わ・・・分かつた！」

エリア縮小まで 1分30秒

ミント「プリキュア・ヒメラルド・ソーサー！」

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

ドリーム「プリキュア・シューティング・スター！」

ルージュ「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

4人の攻撃が、ボトムに直撃。その直後、ボトムの封印が解かれた。
・・再び暴れ出すクローン。しかし、封印されている間に身体のヘドロが6割ほど削られ、先程の様な動きは出来なくなつていた。

その時、イーグレットとパインが揃つて到着。

パイン「うわっ！すごい事になつてるー！」

ミント「何とか身体の殆どを削つたからね・・・！」

ドリーム「でもまだ勢いは有り余つてゐみたい」

イーグレット「こには私に任せてーはあーー！」

驚異的な跳躍力でボトムを翻弄するイーグレット。それと同時に、
脆くなつた身体を自慢のキックで攻撃。最早彼に、反撃をする力は

殆ど残つていな^{ほどん}い。

エリア縮小まで 1分

イーグレット「これで大分弱つてゐる筈^{だいぶ}…」

アクア「でも浄化しないといけない筈^{はず}よ?」

ルージュ「さつきのヘドロのせいで、地盤がかなり緩んだかもしけないからね…」

ドーム「もう時間無^いよ…どうもつて浄化するの?」

ミント「もうあと40秒よ?」

パイン「私が浄化します!」

名乗りを上げたパイン。

ルージュ「パインが?大丈夫?」

パイン「任せて!」

そう言い、パインはパインフルートを構える。

エリア縮小まで 30秒

パイン「癒せ!祈りのハーモニー!プリキュア・ヒーリングブレア・フレッシュ!」

パインフルートから繰り出されたダイヤ型の光弾が、ボトムのクローンを包み込む。

パイン「はあーー！」

ボトム「シユワ～シユワ～・・・！」

こうして、ボトムのクローンは無事に浄化された。

ミッショングリリア

クリアと同時に、6人の変身が解ける。

のぞみ「あれ・・・？ 戻っちゃった・・・」

かれん「もうプリキュアになってる必要も無くなつたからかしら・・・？」

舞「何はともあれ、ミッショングリリアですね・・・」

りん「かなり体力消耗したけど・・・逃げ切れるかな・・・？」

祈里「逃げ切らなきや・・・！ その為のゲームなんだから・・・」

しまり「そうね・・・皆で笑つて帰りましょー・・・」

ボトムがいなくなつた島アイランド・・・その片隅に佇むポセイドン・・・

ポセイドン「プリキュアの諸君・・・良く頑張ってくれた・・・」
れでこの海も、私の仲間も・・・襲われる事はもう無いだろう・・・
有難う・・・感謝する・・・」

そう言い残し、ポセイドンは彼が司る海神達と共に海へと消えてい
つた・・・

しかし・・・ゲームはまだ終わらない・・・

ゲーム終了まで 5分

舞「スプレー・・・あと2回ぐらいかな、使えるの・・・？」

ハンターが来た時に備え、ハンター除けスプレーを準備する、敗者
復活組の舞。

こまち「残り5分切ってる・・・今69万2千円・・・すごい金

額・・・！」

かれん「このゲーム・・・ホントに過酷ね・・・！」

周囲を警戒する、舞と同じ復活組の3年の2人。

祈里「映つてない3体が、何処から来るか注意しとかないと・・・
！」

GPSモニターも当てにならない状況の中で、果敢にミッションに
挑んできた祈里。

りん「7体は多過ぎるなー・・・挟み撃ちされたら最悪だよ・・・」

緊急用逃走靴と自前のフットワークで、これまで何度もハンターの追跡をかわしてきたりん。

のぞみ「！」まで残ってるんだもん……！逃げ切りたいよ……！」

運動が苦手ながらも、ここまで生き延びてきたのぞみ。

ゲーム終了まで 4分

逃げ切れば72万円。
捕まれば0円。・・・

その時、かれんがハンターに見つかった……

かれん「来てる、ハンター・・・！」

一目散に逃げるかれん。
しかし、逃げた先にも別のハンター・・・

かれん「嘘・・・!?」つちからも・・・!?

挟まれた
・
・
・

— — — — —

迫り来る2体のハンター・・・その横の隙間を縫う様にすり抜ける
かれん。だが、もう1体の追跡からは免れず。最早、逃走不可能・・・

かれん「いやー！」 ポンッ

残り時間3分37秒 水無月かれん確保 残り5人

かれん「ええ～？もう一寸ちよつとだつたのに・・・あと3分半・・・！」

牢獄に逆戻り・・・

りん「確保情報・・・かれんさん捕まつた・・・マジかよ・・・！」

こまち「かれんが確保された・・・！」

残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・こまち・舞の5人。対するハンターは7体・・・

ゲーム終了まで 3分

のぞみ「早く終わって～・・・！」

物陰に身を潜めるのぞみ。既に旧エリアでハンター冷却剤を使ってしまった為、無闇に動けない。

のぞみ「やつぱり、あの時使ったのは間違いだつたかな～・・・？」

そつごくのぞみの近くに、ハンターが接近・・・

のぞみ「ゲッ・・・！ハンター来た・・・！」

息を殺し、ハンターの動きを見つめる。幸い、ハンターはのぞみには気付いていない様だ。

のぞみ「怖過ぎだよ～・・・こんなビビりまくのゲームなんて、この世の中にあるもんなの〜・・・？」

それが逃走中だ・・・

舞「何処から来ても、スプレーを噴き付けさえすれば・・・！」

ハンター除けスプレーを持つている舞に、2体のハンターが接近・・・

舞「屹度きど大丈夫・・・！落ち着いて・・・来た、来た・・・！」

見つかった・・・

舞「向こう行つて、ハンター！」

シュー！

スプレーを噴き掛けた事で、ハンターはその場から退散。

しかし、別のハンターが背後から接近・・・

ゲーム終了まで 2分

舞「あつちは大丈夫そうね・・・移動し・・・ってこっちからもー

！？」

スプレーを噴き掛けた事を忘れ、一旦散に逃げる舞。

その姿をりんが見つけた・・・

りん「あれ舞？何で逃げてんの？スプレーあるんじゃないの？無くなつたの、まさか・・・！」

りんの心配を尻目に逃げ続ける舞。

舞「止めてー！来ないでー！」

更に、別のハンターに見つかれば絶体絶命。

舞「あれ？スプレー残ってる？何で気付かないで逃げてるの、私はー！？」

血口管理の甘い女・・・

舞「鬼に角、噴き掛けないとーそれつー！」

シュー！

追つて来た2体のハンターにスプレーを噴き付ける。間一髪、ハンターの追跡を免れた。

しかし、これによつてスプレーは底を突いた・・・

スー・・・

舞「もうガスしか出でない・・・もう使えないわね・・・これで追われたら、もう逃げられない・・・」

ゲーム終了まで 1分

祈里「あと1分だ・・・集中・・・」

りん「あともう少し・・・もう少しで制覇出来る・・・」

逃走者5人に對し、ハンターは7体。逃げ切れば72万円・・・捕まれば0円・・・

こまち「あと45秒・・・45秒の辛抱ね・・・」

のぞみ「ハンター来そうで・・・怖いよ〜・・・」

舞「ハンター来ないで・・・」

ゲーム終了まで 30秒

祈里「ハンターいた・・・」

近くにハンターを見つけた祈里。茂みに身を隠す。

祈里「通り過ぎて・・・！」

こまち「ここまで来たら捕まりたくないわ・・・」

ゲーム終了を今か今かと待つ逃走者達。

のぞみ「いるかな・・・？いないのかな・・・？」

りん「ヤバッ！來た！」

ハンターに見つかつたりん。一目散に逃げる。

りん「早く終われ・・・！」

こまち「あと・・・10秒・・・！9・・・8・・・！」

舞「7・・・6・・・」

のぞみ「5・・・4・・・」

祈里「3・・・2・・・」

りん「1・・・ヨツシャー！逃げたぞー！」

ゲーム終了

夏木りん・夢原のぞみ・山吹祈里・秋元こまち・美翔 舞 逃走成
功 72万円獲得

のぞみ「逃げた！？私逃げ切つた！？やつた！？逃げた！？」

祈里「すごい！逃げ切つた！嬉しい！」

こまち「ホントに！？ホントに終わり！？」

舞「終わつた～！逃げた～！」

りん「72万円ゲットだー！ヨツシャーー！」

その頃、逃走成功を果たして喜ぶ5人の顔を、モニター越しに見ていた謎の存在・・・

突然、画面をスライドさせる・・・

するとそこには、『DIMINISH HUNTERS』の文字・・・

それをタッチすると、ヒリアにいる7体のハンターの顔写真が映し出された・・・

そして謎の存在は、『HUNTER01 KR』と『HUNTER 06 TT』以外のハンターの顔写真をタッチ・・・

その後、エリアにいた5体のハンターが電子音と共に消滅した・・・

更に、謎の存在はもう一度画面をスライドさせる・・・

モニターには『BONUS GAME』の文字・・・謎の存在はそれをタッチした・・・

ピリッピリッピリッピリッ

「まち「あら?メールが・・・」

のぞみ「通達だ!『ゲーム終了!夏木りん・夢原のぞみ・山吹祈里・秋元こまち・美翔 舞逃走成功!賞金72万円獲得!』・・・えつ・・・?『しかし』・・・『ゲームはまだ終わらない』!?」

舞「ええつ!..どういう事!?」

祈里「『これより20分間のボーナスゲームを行う。逃げ切れば更に28万円プラスし』・・・」

こまち「『合計100万円獲得となる』・・・」

りん「『参加するかしないかは、携帯電話で申告せよ!』・・・まだゲームやるの!?」

逃走者に与えられたのは、更なるボーナス獲得の権利。同じエリアで行う20分間の延長戦を逃げ切れば賞金100万円を獲得出来る。勿論、捕まれば今まで獲得した賞金は全て没収となる。また、りんと祈里が持っているアイテムは、これより使用不可能となる。更に・・・

咲「『牢獄の者達にもチャンスを与えよ!』」

ほのか「何、チャンスって?」

いつき「またゲームに参加出来るの？」

咲「とりあえず読むね」

牢獄の者達も、このボーナスゲームに参加する。ボーナスゲームスタートと同時に全員がエリアに散らばり、ハンターの代わりに逃走者を確保してもらつ。ゲーム終了までに、参加者全員を確保出来れば、逃走者への賞金100万円を牢獄の者達で山分け出来る。

くるみ「という事は何？今度は私達が捕まえるつて事？」

咲「そう、そう、そう」

ラブ「それで全員を捕まえられれば・・・」

美希「賞金はあたし達の物つて事でしょ？」

ななぎさ「マジで！？」

せつな「嬉しく！」

この通達に大喜びする牢獄の者達と・・・

りん「何だよ、これ！ふざけるなよ！絶対逃げ切れないじゃん！」

のぞみ「聞いてないよ！そんな事！」

祈里「今まで味方だった人が、皆敵になっちゃうの！？」

「まち「そんなルール無しよー。」

舞「ハンターが13体いるのと変わらないじゃないー。」

怒り狂う逃走者達・・・

しかし、このメールにはまだ続きがある・・・

咲「一寸待つて！続きがあるよ」

ひかり「続きですか？」

ひかり「まだ伝える事があるんですか？」

かれん「もう無い筈でしょ？」

咲「まあ、読んでみますね」

このままでは、逃走者にとつて圧倒的に不利な状況である。その為、エリアには2体ハンターが残されている。このハンターは、牢獄の者達のみを追跡し確保する。ボーナスゲーム終了までに、牢獄の者達が全員確保されれば、その時点でゲームは強制終了。その時に残っていた逃走者のみ、賞金100万円を獲得出来る。

こまち「ハンターが2体残つてはいるけど・・・今回は私達の味方なのね？」

りん「それなら公平だね・・・」

舞「公平だけど・・・別に参加しなくていいのよね、これは？」

そつ・・・ボーナスゲームへの参加は自由。不参加を表明すれば、72万円を持って帰れる。

祈里「挑戦はしたいなー・・・」のままじゃ、逃げ切った感じがないもん・・・

のぞみ「ここで止めて72万円を持って帰るべきか・・・20分更に逃げて100万円を持って帰るべきか・・・」

賞金の欲望に悩む逃走者達・・・彼女達が出した答えは・・・

りん「もしもし、夏木りんですが・・・」の後のボーナスゲーム・・・
・参加させていただきます!」

舞「美翔 舞です・・・100万円もらいますので、宜しくお願ひします!」

祈里「山吹祈里です・・・ボーナスゲーム、参加させて下さー!」
「まち「秋元」まちです・・・参加します!」

のぞみ「夢原のぞみです・・・あの・・・やりま・・・す・・・

5人全員が、ボーナスゲームへの参加を決めた。

賞金100万円を賭けて、逃走者と牢獄の者達との最終決戦の火蓋が切つて落とされる!

ゲーム終了！（後書き）

まだまだ終わらない逃走中！

次回、恐怖と欲望が加速するボーナスゲームが始まる！

勝つのはどっちだ！？

やつらねば、11月23日にまた逃走中が放送されるそうです。

しかも、声優・平野綾が出演するとか・・・

最早、迷走してるとしか言い様が無い・・・

逃走中同盟リーダーのワーグナーさんを始めとする、私達の小説の逃走中の方が全然面白いと感じるのは私だけでしょうか・・・？

ボーナスゲームスタート！（前書き）

11月23日に、また逃走中が放送されます。

これで、もう今年6回目の放送ですよ・・・？

その内今一で放送なんて事になつたら、それこそ逃走しているとしか言えなくなりますよ・・・

キャスティングミスも回を重ねるごとに増えていくんですね・・・

まあ、身体が反応して結構見ちゃうんでしょ、うけだね。

緊迫のボーナスゲーム！

逃走者 vs 牢獄者・・・勝つのはどっちだ！？

ボーナスゲームスタート！

逃走者5人は、20分間逃げ切れば賞金100万円を獲得出来る。牢獄者13人は、ボーナスゲーム終了までに逃走者全員を確保出来れば賞金100万円を仲間達で山分け出来る。

エリアには2体のハンター。彼等は牢獄者13人のみを追跡し確保する。ゲーム終了前に牢獄者全員が確保されれば、その時点で生き残っていた逃走者全員が賞金100万円を獲得する。

このゲームは、100万円獲得か0円かのどちらかだけ。逃走者達は、もう自首出来ない。

そして、ボーナスゲームがスタート。

りん「絶対負けないぞ・・・！逃げ切つてやる・・・！」

スタートと同時に牢獄の扉が開放され、13人は一気に脱獄する。

咲「自由だー！このまま全員捕まえるぞー！」

えりか「全滅させて賞金獲るぞー！」

13人は歓喜の声を上げながら、牢獄の許を離れていく。

逃走者にとって、かなり不利な状況。逃げ切れる者は現れるのか。

引き続き物陰に身を潜めているのぞみ。

のぞみ「牢獄の人達、皆足速いもん・・・動いたら絶対捕まる・・・ハンターが数を減らしてくれないと動けないと・・・」

13人という大人数に怯えている様だ。

祈里「向こうの人達は携帯で連絡を取り合って、待ち伏せとか挟み撃ちとか目論んでる筈なんだよ・・・」

そう・・・13人も携帯の使用が可能。連係プレーで逃走者達を追い詰める。

こまち「最低でもハンターが半分くらいまで減らしてくれないと、私達に勝算は無いわね・・・」

舞「でも、牢獄の人達がハンターと違うのは・・・視界から外れても執拗に追い掛けて来れるってところなのよ・・・」

りん「殆ど普通の鬼^{ほとん}こと変わんないから嫌なんだよな・・・3人とか4人とかで来られたら終わりだな・・・」

他の者も、牢獄の者達の脅威に恐怖を駆かれている。

その牢獄者13人は、4チームに分かれて行動し、発見次第連絡を取りつて確実に逃走者を確保する作戦の様だ。

なぎさ「とりあえず、りんは絶対捕まえとかないと」

うらら「何かと厄介ですから、りんさんは」

美希「捕まえちゃえば、勝つたも同然だしね。そうなれば、あたし達は完璧」

りんの確保を狙つながれ・つらり・美希。

ほのか「ハンターには氣を付けて。5人を守りに追い掛けで来るから」

ラブ「大丈夫でしょ？ 2体しかいないんですから。この調子で幸せゲットだよ」

いつき「油断すると痛い目に遭つよへ・ちやんと氣を引き締めて」

ハンターの搜索を強い潜り、逃走者を探すほのか・ラブ・いつき。

かれん「物陰に隠れていそなのはね、皆」「

ひかり「のぞみさんとか絶対隠れでますよ

咲「足遅い人から捕まえてへ~」

つぼみ「その方が手つ取り早いですね。私も活躍したいですし・・・

」

足の遅い逃走者を標的とするかれん・ひかり・咲・つぼみ。

くるみ「1人を囮にして、一気に囮むつていつのはどう?」

せつな「連携が成立すれば、絶対上手くいく筈よ。その為にも・・・
精一杯、頑張るわ」

えりか「でもハンターには気を付けないと。あたし達を狙つてくる
から」

1人を餌にして追い込む作戦のくるみ・せつな・えりか。

彼女達を追い詰める唯一の存在。それがハンター・・・彼等は視界
に捉えた牢獄者のみを見失うまで追跡する。待ち伏せなどはしない。

茂みに身を隠している祈里。

祈里「こういう所狙つてそうだな・・・怖い・・・あつ、あれハン
ター・・・?」

遠くにハンターを見つけた。しかし、今の彼女にとつてハンターは
味方だ・・・

祈里「早く捕まえて、減らしてほしいな・・・」

そのハンターが向かう先に、ほのかのチーム・・・

ラブ「絶対建物の陰とかにいる筈だよ」

いつき「向こうも無闇に動く訳無いもんね」

ほのか「一度5人を油断させてつていうのも一つのすべ……來た
ー！」

ラブ・いつき「ハンターだ！」

見つかった……

一目散に逃げる3人。ハンターに追われ、お互いバラバラに……

ハンターが視界に捉えたのは……

ピ――――――――――――――――――

ラブ「何でこっち来るの～！？」

ラブだ……

逃げ続けるラブ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、
逃走不可能……

ラブ「ひや～！」　ポンッ

残り時間17分48秒　桃園ラブ確保　牢獄者残り12人

ラブ「ええ～！？何にもしないで終わっちゃった～！これもう……
他の皆信じて待つしかないの？嘘～……」

ピリッピリッ ピリッピリッ

りん「何だよ……まさか、誰か捕まつた……？」

せつな「ええ！？『桃園ラブ確保、牢獄者残り12人』！？何してんのよ、ラブ！」

くるみ「酷い！まだ3分も経つてないのに！？」

舞「やつと一人確保された……！」寸^{ちよつと}は楽になつたわ……」

のぞみ「1人じやダメなんだつてば……・・・6人ぐらい減つてもらわないと……」

ひかり「ハンターいます……！」

遠くにハンターを見たかれんのチーム。

つぼみ「こっち来てますね……！」

かれん「こっちは一旦離れましょつ……」

4人は別のルートを通り。

りんを探すなぎさのチーム。

うらら「なかなか見つかりませんね」

美希「そんな簡単に見つからないわよ。何せりんは、120分間逃

げ切つてるんだから」「

なぎさ「でもかなり体力は消耗してる筈だよ? 簡単に捕まえられる
つて」

その姿を見た・・・夏木りん・・・

りん「あの3人で固まって行動してるんだ・・・ヤバいな・・・!
見つかったら、間違いなく応援来られるな・・・」

思う様に動けない・・・

物陰に身を隠すこまち。

こまち「あそこ4人いるじゃない・・・! しかも、かれんが引率し
てる・・・!」

かれんのチームを見つけた。

息を殺して、その場から離れるのを待つ。

咲「あそこそりだよね?」

ひかり「絶対いるでしきう

こまちの隠れる場所に目を付けた2人。

こまち「こまち来る・・・!」

こまち、絶体絶命・・・

つぼみ「行ってみましょ~」

かれん「そうね・・・屹度^{きつと}いると・・・ハンター来たわ!~」

ひかり・咲・つぼみ「ええ~!~?」

こまちを見つける前にハンターを見つけた4人。一団散に逃げる。

こまち「良かつた・・・ハンター来てくれたわ・・・」

こまち、命拾い・・・

ハンターが視界に捉えたのは・・・

つぼみ「何でいつも私なの~!~?」

つぼみだ・・・

しかし、彼女が逃げる先にはくるみのチーム・・・

せつな「全然いないわね」

えりか「相手が相手だからね~」

つぼみ「皆さん逃げてください~ハンター來ました~」

くるみ「嘘~?~で言つか・・・あんたが連れて來てるじゃないの~!~?~」

3人も巻き添えに・・・

その時、ハンターの標的が逃げ遅れたえりかに変わった。

えりか「あたし〜!? 来るなー!」

ピ――――――――――

一目散に逃げるえりか。しかし、その距離は徐々に詰められていく。
最早、逃走不可能・・・

えりか「ぎゃああ〜!」 ポンッ

残り時間 15分29秒 来海えりか確保 牢獄者残り11人

えりか「何で仲間同士で巻き添えにしてるの、つぼみは〜!?」

のぞみ「あつ・・・! えりかも確保だつて・・・!」

祈里「2人確保された・・・」

いつき「何やつてんだよ、えりかは・・・!」

ほのか「もう2人も捕まつたの・・・!」

美希「あつ・・・! 2人とも一寸待つて・・・!」

何かを見つけた美希。

うらら「な・・・何ですか・・・?」

美希「あの紫っぽい物と青っぽい物……ひょっとして……舞じ
やない……？」

美希に見つかった……美翔 舞……

舞「気付かれてる、まさか……？美希さんの視線が気になる……
こっち見てるのかしら……？」

なぎや「あつ……！舞っぽいね。何か動いてるもん」

「……」周りにも、そんな色ありませんしね。多分舞さんでしょ？

美希「じゃあ、3人で確保しに行きます？」

なぎや「行」

「……」うらら「万が一取り逃がしても、他の皆さんとの所に逃がせばいい訳
ですから」

舞に近付く3人……

舞「こっち来てる……やっぱりばれてたのね……？逃げなき
やー！」

近付いてくる3人に見つかったと悟り、隠れ場所から抜け逃げ出す
舞。

「……」「あつ！逃げました！」

美希「待ちなさい、舞！」

なぎさ「大人しく捕まれーー！」

舞「そんな事言われて、素直に捕まる人がいる訳無いでしょー！？」

一目散に逃げる舞。しかし、なぎさ達の声を近くで聞いたくるみも、声のする方へ走り出す。

くるみ「誰か追い掛けられてるわね・・・！」

尚も逃げ続ける舞。しかし・・・

くるみ「いた！」

舞「キヤツー？」

逃げた先にいたくるみに気付き方向転換。

舞「このままじゃ絶対捕まる・・・！あつ・・・！ハンター・・・！」

逃げた先にいたのは、ハンター・・・

なぎさ「ヤバい！あそこにハンターいる！」

くるみ・美希「ええー？」

ハンターは振り返ると、なぎさ達の確保へと向かう。

なぎさ「こんなのありえない！」

くるみ「もつ少しで捕まえられそうだったのにーー！」

美希「あんなの無しよー！」

逃げ続ける3人。ハンターが視界に捉えたのは・・・

なぎさ「嘘だーー！」

なぎさだ・・・

逃げ続けるなぎさ。しかし、その差はどんどん縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

なぎさ「いやあーー！」 ポンッ

残り時間13分57秒 美墨なぎさ確保 牢獄者残り10人

なぎさ「ちくしょー、舞の奴・・・！ハンターを利用して・・・！」

ハンターにより、九死に一生を得た舞。

舞「何とか撒いたわ・・・これで少しは安心・・・」

しかし・・・背後からつぼみ・・・

舞「えつ・・・？嘘でしょーーー！」 ちからむーーー？」

つぼみ「往生際が悪いですよーー！」

舞「きつい・・・」

またしても追われる身となつた舞。一田散に逃げる。しかし、逃げた先にはひかりの姿・・・

舞「『れじや^{らじや}埠明^{ルルチ}かない・・・』何処かに隠れないと・・・つてこつちにも!?」

ひかり「絶対捕まえますよ!」

逃げ続ける舞。しかし、先程3人に追われかなりの体力を消耗してしまい、そのスピードは格段に落ちている。とうとうひかりに差を詰められる始末。最早、逃走不可能・・・

舞「もうダメ・・・」 ポンッ

残り時間13分33秒 美翔 舞確保 逃走者残り4人

舞「多過ぎる・・・しかも、執拗^{しつねう}に追い掛けられるし・・・逃げ切れる訳無いじゃ無い・・・」

息を切らし、その場に倒れる・・・

ひかり「舞さん捕まえました!」

つぼみ「ホントに!~す~」いです、ひかりさん!~

ひかり「いえいえ、つぼみさんのお陰です」

かれん「嘘? もうこれ以上減つてほしくないんだけど・・・」

せつな「あつ! 『九条ひかりの活躍により、美翔 舞確保』!」

くるみ「『逃走者残り4人』・・・よしつー」

咲「コツシャー! 1歩近付いた!」

牢獄者達は、ボーナスゲーム終了までに逃走者を全滅出来れば、賞金100万円を仲間達で山分け出来る。

祈里「舞ちゃんが捕まつた・・・」

りん「こつち側の確保情報は、精神的にきついな・・・」

逃走者達は、あと1-3分ほど逃げ切れば賞金100万円を獲得出来る。

こつき「あそこにはうだな・・・気配を感じる・・・」

またしても危機が迫る・・・秋元「まち・・・

こまち「今度はこつきさん・・・1人で来てる・・・」

「まちに近付くこつき。」

こまち、またも絶体絶命・・・のまま見つかってしまったのか!?

ボーナスゲームスタート！（後書き）

残る逃走者は4人。対する牢獄者は10人。

ゲーム終了まで、およそ13分。

逃走者は無事逃げ切りを果たし、100万円獲得なるか！？

それとも、牢獄の者達に100万円を持っていかれてしまつのか！？

数が減るまで（前書き）

逃走者4人 v/s 牢獄者10人

圧倒的不利な状況で、逃走者は逃げ切れるのか！？

数が減るまで

「まあに近付くこつも。

「まちは息を殺して体勢を低くする。

「まち「早く行つて・・・」

「まやつ過」せるのか。

「いつき「絶対誰かはいるよ・・・」

「まち「不味い・・・見つかる・・・」

そしていつきは、物陰の隙間から様子を窺う。

その直後、「まちは見られたと悟つて物陰から一気に抜け出す。

「いつき「あつー逃げた！」

「田散に逃げる」まち。それを追つこつも。

「いつき「逃げるなー！」

「まち「そんな事言われて逃げない人がいる訳無いでしょー？」

逃げ続いているまち。しかし、いつきとの差はどんどん縮まっていく。

「まち「このままじゃ捕まる……！」

「まちが逃げた先には、救いのハンター……」

「つき「わっ！ハンターいる！」

ハンターに見つかり、今度はいつきが逃げる。その間に、こまちは上手く逃げ延びた様だ。

こまち「またハンターに助けられたわ……」

ハンターに追われ、一目散に逃げるいつき。曲がり角を利用し、こちらも上手く撤いた様だ。

いつき「もう一寸ちよつだつたのにな……ハンター厄介がくわいだな……」

こまち「ハンターの近くにいた方が良さそうね。隠れているより……」

ハンターを盾にして逃げ切る作戦へと変更するこまち。

しかし……

？「いた！」

こまち「えつ？キヤー！」

1人の牢獄者に見つかった……こまちを見つけたのは……

咲「捕まえてやる！」

咲だ・・・

こまち「ハンター！ハンター来て～！」

そう叫びながら、再び一目散に逃げるこまち。しかし、彼女の逃げる先にハンターはいない・・・

更に、逃げた先にうららの姿・・・挟まれた・・・

咲「うららー！」

うらら「はーー！」

こまち「ええ～！？」

挟み撃ちにされ、逃げ場を失ってしまった。最早、逃走不可能・・・

こまち「逃げれない・・・」 ポンッ

残り時間11分46秒 秋元こまち確保 逃走者残り3人

こまち「2人とも狡いわよ、挟み撃ちなんて・・・」

咲「どんな形であれ捕まえればいいんですよ、私達は！」

うらら「そうです！私達の作戦勝ちって事ですよ！」

こまち「そんなん・・・」

ハンターに頼らうとした罰だ……

ピリッピリッ ピリッピリッ

のぞみ「またメール……お願い……鬼の方の確保情報で……！」

祈里「ええ……こまちさん確保……」

りん「『逃走者残り3人』……？マジで……？復活組の生き残りが全滅した……！」

ほのか「『秋元こまち確保、逃走者残り3人』！すごい有利になつたわ！」

くるみ「これ勝ち決定でしょ？これ勝つたでしょ？」

美希「獲物はあと3人……こつちは10人……ハンターにさえ気を付けてれば、絶対大丈夫……！」

残るはりん・のぞみ・祈里の3人。対する牢獄者は10人……のぞみ「ハンター何してるんだよ……早く牢獄の人達を捕まえてよ……」

ハンターに望みを託す女……

ひかり「物陰を調べていけば、絶対誰かは出でくる筈……」

己の直感を信じ、エリア内を探索するひかり。

その近くに黒い影・・・

ひかり「絶好の穴場を無くさせないと切りが無いし・・・つてハンターだ〜！」

見つかった・・・

ひかり「来ないで〜！」

一目散に逃げるひかり。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

ひかり「わあ〜！」 ポンッ

残り時間 10分28秒 九条ひかり確保 牢獄者残り9人

ひかり「うわあ・・・舞さんを捕まえて貢献したのに・・・皆さん、後は任せました・・・」

つぼみ「あつ・・・！ひかりさん確保・・・！」

かれん「『残り9人』・・・」(つともどんどん減ってるわね・・・)

物陰に身を潜ませている祈里。

ゲーム終了まで 10分

祈里「残り10分切った・・・！どうしよう・・・緊迫してきた・・・！」

りん「漸く折り返しだよ・・・もう耐えられないよ、この恐怖には・・・！」

のぞみ「牢獄の人達が6人まで減つたら動じつ・・・それまでは無理・・・」

栄光の逃げ切りまで、あと10分。緊迫する3人。

その3人を追う9人の牢獄者。逃走者に逃げ道は殆ど無い。

くるみ「りん何処？自慢の足を捨てて隠れてるのかしら？りんらしくないわね～」

突然、逃走者達の陰口を叩き出すくるみ。

くるみ「といふか・・・何でのぞみと祈里が残つてんのよ？偽善者のくせして・・・あんな人間が残つてるのが腑に落ちないわ・・・！」

偽善者は偽善者らしく報いを受けければいいのよ・・・」

のぞみに加えて、祈里までも偽善者呼ばわり・・・
せつな「3人とも何処いるの～？大人しく出でてくれば、罪は軽くなるわよ～」

逃走者を犯罪者に見立て、出て来る様に指図するせつな。しかし、そんな事をして素直に出てくる訳が無い。

せつな「隠れ場所を突き止めて、そこを封鎖して袋の鼠にすればいい筈だけど・・・ハンターのせいだ、何処のグループも全員がバラ

バラになっちゃってるから……！」はやっぺり電話して、呼び寄せるしかないわね」

せつなは人を呼び寄せる為に、電話を掛けた。

プルルルルル

くるみ「あっ……せつながら……もしもし？」

せつな「くるみ？もう一回念流しない？」

くるみ「いいけど、何処にいるの？」

せつな「私は……えっと……ガソリンスタンドの田の前だけど……」

くるみ「ガソリンスタンド……？」

その時、ハンターが逃走者の姿を捉えた……見つかったのは……

せつな「あっ！ゴメン！ハンター来たから切るわね！」

せつなだ……

くるみ「嘘でしょ？ハンター来たって……どんな空氣読まないのよ、ハンターは？」

一田散に逃げるせつな。

せつな「速い……ハンター速過ぎる……！」

しかし、その差は徐々に縮められていく。最早、逃走不可能・・・

せつな「いやあっ！」　ポンッ

残り時間8分59秒　東　せつな確保　牢獄者残り8人

せつな「悔つてた・・・ハンター2体しかいないからって油断してた・・・はあ・・・」

ピリッピリッ　ピリッピリッ

りん「うるさいな、着信音・・・これで牢獄の人気付かれちゃうよ・・・！」

のぞみ「東　せつな確保、牢獄者残り8人」・・・「

美希「せつなも捕まつた・・・こっちも結構ヤバいわね・・・！」

うらら「体力ある人がどんどん捕まつてる・・・！」

祈里「あっ・・・！かれんさんだ・・・！」

物陰の隙間からかれんを見つけた祈里。息を殺して、通り過ぎるのを待つ。

かれん「あの辺って、確かまだ見てなかつた筈よね？1回見ときました。いなかつたら、ここは諦める」

祈里が隠れる物陰に近付くかれん。

祈里、絶体絶命……

祈里「来た……びしきより……入つて来られたら捕まる……」

しかし、2人の近くにハンター……

かれん「いそな感じだけ……気配が感じられないわね……いないのかしら?」

祈里「ホントに来ないで……」

かれん「いそに……無いわね……つて来たーー!」

見つかつた……

祈里「ハンター来た……! 良かつた……」

祈里、九死に一生を得た……

かれん「いやーー!」

一目散に逃げるかれん。彼女が逃げる先に、花咲つぼみ……

かれん「つぼみ! ハンター来てるから逃げて!」

つぼみ「えつ? ええ? ええ~! ?」

かれんに釣られ、つぼみも逃げる。

その時、ハンターの標的が突然つぼみに変わった。

つぼみ「何で私なんですか～！？」

かれんに代わり、一目散に逃げるつぼみ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

つぼみ「キャーッ！」　ポンッ

残り時間8分0秒　花咲つぼみ確保　牢獄者残り7人

つぼみ「何でハンターは、いつも私を標的にするの～・・・？酷過ぎる～・・・！」

つぼみの確保を目の前で見ていた、夏木りん・・・

りん「つぼみ捕まつた・・・！」これで向こうは、あと7人・・・！
そろそろ外に出ても大丈夫かな・・・？いやつ、まだ・・・！あと
1人ぐらいの辛抱だ・・・！」

いつき「つぼみも捕まつた・・・不味いな～」

ほのか「こっちが全滅したら、もうそれでゲームは終わりでしょ？」

先程までの余裕の表情とは一変、続々と仲間達が確保されて不安を募らせて いるほのか。

ほのか「早いところ見つけて捕まえないと・・・！」ううう形で復活した意味が無いし」

うらり「この減り方、尋常じゃないよ。2体とはいえ厄介だよ……。
・ダメダメ……！弱気になつてたら捕まる……！」

のぞみ「追い込み掛けてきそうだな……」

残り時間がおよそ7分半となり、更に緊迫するのぞみ。

のぞみ「ここが勝負時だね……！」

咲「絶対近くにいる筈だよ……！探し物なんて、大抵すぐ傍にあ
るもんだからね」

近くを探す咲に、ハンターが接近……

咲「この辺の何処かにいるでしょ？結構気配を感じるんだけど……
えつ……？ハンターじゃん！」

見つけたのはハンター……

咲「ハンターは探してないってばー！」

そう叫び、一目散に逃げる咲。しかし……

咲「あいたつ！転けた……！」

勢い余つて転倒してしまった。最早、逃走不可能……

咲「嘘だ……」ポンッ

残り時間7分2秒　日向　咲確保　牢獄者残り6人

咲「最悪……何でこういう時に限つて転ぶの……？」

美希「嘘！？咲も捕まつた！『残り6人』……！」

りん「よしつ……これで大分楽になつた……！」

祈里「これなら行けそう……！」

のぞみ「動こう……これだけ減れば、動ける範囲が広がる……！」

移動を試みるのぞみ。漸く動き出す。

かれん「6人は辛過ぎる……！」

うらら「あれだけたくさんいたのに……もう6人……？」

ほのか「これ、こっちもピンチよ……！」

徐々に焦り出す牢獄者達。

りん「6人なら走つて勝負出来る……！」

りんも一か八か、物陰から抜け出す。

祈里「ここにいても埒明かない……動こう

祈里も勝負に出る。

のぞみ「でも残ってる人・・・皆足速いから、そこだけ気を付けないと」

周囲を警戒するのぞみ。

美希「いた！」

近くにいた美希に見つかった・・・

のぞみ「えつ・・・？いやー！来たー！」

追つてくる美希に気付き、一目散に逃げるのぞみ。何度も曲がり角を利用し、視界から消える。

美希「・・・！見失った・・・のぞみとはいえ、油断出来ないわね・・・！」

のぞみ「どうしよう・・・？隠れてた方が良かつたかな・・・？でもずっと隠れてたら、いざなは見つかるし・・・」

祈里「今追われたら、絶対捕まる・・・！あつ、いた・・・！」

遠くにほのかを見つけた祈里。思う様に動けない。

祈里「逃げ切れるかな・・・？逃げ切らなきやしそうがないよ・・・！」

自分に言い聞かせる様に呟く。

りん「きついな、ボーナスゲームって・・・もう心臓に悪過ぎる

よ・・・・・メチャメチャ速いよ、鼓動が・・・・・

恐怖に怯えているりん。

りん「負けたくないな～・・・」」まで来たら・・・・・

のぞみ「大丈夫だね・・・」

建物の陰から、通りの様子を窺つのぞみ。

その近くに、くるみの姿・・・

のぞみ「怖いよ～・・・普通の鬼！」で、こんなに怖い思いした
事無いよ・・・わっ！」

くるみ「見つけたわよ、のぞみ！」

見つかった・・・

くるみ「いい加減捕まりなさい、」の偽善者ー・

のぞみ「誰が偽善者だよー！」

そう叫び、一皿散に逃げるのぞみ。しかし・・・

のぞみ「うわあ～何こいー？」行き止まりじゃーんー・

くるみ「ラッキー」

逃げた先は行き止まり・・・最早、逃走不可能・・・

のぞみ「マジで～！？」
ポンッ

ポンツ

残り時間5分39秒　夢原のぞみ確保　逃走者残り2人

のぞみ「ええ～！？何でだよ～！？す～」いショツク～！

その叫び声に釣られてやつてきた美希。

くるみ「のぞみ捕まえた！」

美希「ホントに? 行き止まりじゃない、じゃ」

くるみ「やつと捕まつたわよ、のぞみが」「

りん「ええ！？『夢原のぞみ確保、逃走者残り2人』！？』

祈里「嘘！？のぞみちゃん捕まつた！」

残る逃走者は、りんと祈里の2人・・・

対する牢獄者は6人・・・

ゲーム終了まで、およそ5分15秒。

彼女達を待ち受け、衝撃の結末とは！？

数が減るまで（後書き）

次回、ボーナスゲームが終了！

勝者は逃走者か！？牢獄者か！？

衝撃の結末を見逃すな！

本当にゲーム終了！（前書き）

江戸編に続き、王国編も未公開シーンが充実していく面白い！

DVDは本当にいい意味で期待を裏切れますね

でも、沖縄編から謎の存在が出てきたから、もうDVDは発売されないのかな・・・？

残り5分の攻防・・・勝利の栄光を掴み取るのはどっちだ！？

本当にゲーム終了！

残る逃走者は、りんと祈里の2人だけ。

対する牢獄者は、ほのか・うらら・かれん・くるみ・美希・いつきの6人。

ゲーム終了まで 5分

くるみ「これ以上捕まつたら、りんを確保する事が出来なくなる…
・！早いところ、りんを探して捕まえないと…！」

いつき「りんさえ確保出来れば、もう大丈夫…！」

美希「ブッキーは、りんに比べたら大した事無いもの…！」

りんを捕まえる事に意固地になる牢獄者達。

りん「6人全員があたしを狙つてきそうだな…・・・ココが正念場だ・
・・！」

狙われた女…・・・

祈里「怖くなつてきた…・・・！」

祈里の近くに、ほのかの姿…・・・

祈里「ほのかさんだ…・・・近付いてる…・・・離れよう…・・・」

ほのか「いっつち側にいそうな気がする・・・時間無いわね・・・もうここからは走りながら探さないと、間に合わないわ・・・！」

かれん「残り4分38秒・・・このままじや2人に逃げ切られる・・・！」

追い込みを掛ける6人。残る2人に緊張が走る・・・

りん一 絶対逃げ切って100万円獲て、西新井駅にあしに何か買つてやりたいよ・・・！」

祈里「100万円獲つて・・・いつも頑張つてくれてるお父さんとお母さん、お二人がお亡くなられたのです。」

夢を膨らませる2人。しかし、牢獄の者達に捕まれば、それも夢で終わってしまう。

美希「全滅させないと、ボーナスゲームでの復活が無意味になるもの・・・やっぱり役目は果たさないと」

2人を探す美希。しかし、向かう先にハンター・・・

美希「何処かしら、りんは？りんを見つければ、全員を呼び寄せて確保つて事も出来るわ・・・つて嘘でしょーーー！」

見つかつた
・
・
・

美希「こんな時に限つて〜！」

一目散に逃げる美希。しかし、逃げた先に別のハンター・・・挟まれた・・・

美希「こっちからも来た・・・！」

逃げ場を失つてしまつた・・・最早、逃走不可能・・・

美希「うわーっ！」　ポンッ

残り時間4分3秒　蒼乃美希確保　牢獄者残り5人

美希「あと4分！？何でこんな時にハンターが追つて来るのよー！？」

ゲーム終了まで　4分

かれん「あつ！美希が捕まつた！」

いつき「『残り5人』つて・・・！」

くるみ「また足速い人が捕まつた・・・！」

ほのか「これどうするの？」

「うらり」「うらち完全にピンチでしょーーー！」

美希の確保に狼狽える牢獄者達。

りん「残り5人になつたとは言つても、エリアが狭いもん・・・気

抜けないよ・・・！」

祈里「一寸歩いただけで3人も4人も顔合わせちゃうぐらい狭いから、結構ハードル高いよ・・・！」

一瞬の気の緩みが命取りとなる。

残り5人となり、パニック気味になりながら逃走者を探す牢獄者達。しかし、エリアには2体のハンターが彼女達を狙う。不用意に動けば、確保される危険性も高くなる。

くるみ「早く見つけないと・・・こっちが5人になつたから、2人は絶対油断してる筈・・・！そこを狙つて、何人かで一斉に捕まえる・・・！」うでもしないと、確実に私達の負けが決まってしまう・・・！」

ほのか「ここまで減らしたのも作戦の一つと思い込ませておけば、向こうも動搖するに違いないわ・・・！」

うらり「いくら2人でも、暗闇に隠れる事は出来ない訳だし・・・姿さえ見つけられれば・・・いた！」

うらりが誰かを見つけ、確保へと動く。見つかったのは・・・

祈里「来たっ！」

祈里だ・・・

ゲーム終了まで 3分

一日散に逃げる祈里。それを追つひひひ。

「ひひひ「いい加減捕まつて下さー！」

祈里「絶対ヤダ！」ここまで残つてて、捕まりたくない！」

その声に反応し、ちかくにいたかれんも動き出す。

かれん「誰か追われてる・・・！」

逃げ続ける祈里。しかし、突然視界にかれんの姿・・・

祈里「わっ！」

かれん「絶対逃がさないわよ！」

方向転換し、尚も逃げ続ける。

祈里「は・・・速い・・・！かれんさん、意外に速い・・・！」

しかし、かれんとの差はどんどん縮まっていく。更に、逃げた先にはほのかの姿・・・

祈里「うわっ・・・ほのかさんまで・・・！」

ほのか「往生際が悪いわね、祈里さん！」

長い距離を走つた挙げ句3人に追われる羽目に・・・

そして、意外にも俊足なほのかの実力の前には手も足も出ず・・・

最早、逃走不可能・・・

祈里「もうダメ・・・」ポンツ

残り時間2分21秒 山吹祈里確保 逃走者残り1人

祈里「嘘～・・・あと2分と少し・・・？逃げ切り目前だつたのに～・・・」

くるみ「おっ！『雪城のほのかの活躍により、山吹祈里確保』！」

いつき「『逃走者残るは夏木りんのみ』！あと1人だ！」

りん「嘘でしょ！？祈里捕まつた！？ヤバい、残つてんのあたしだけだ・・・！どうしよう、マジで怖くなつてきた・・・！」

エリアにいる牢獄者は5人。標的は・・・りんただ1人・・・

ゲーム終了まで 2分

りん「あと120秒・・・！今までの人生の中で、1番長く感じられる120秒になりそうだな・・・！きつ過ぎる・・・！」

かれん「もうあとはりんを残すだけね！」

くるみ「1番厄介な人が残つたわね～」

いつき「絶対見つけて捕まえるー！」

ほのか「全員で一丸となつて捕まえましょー！」

「ひかり「もう勝ちは目前です！」

気合いを入れ、りんを捜索する5人。しかし、エリアには2体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。

りん「見つかっても、あたしの足でなら屹度逃げ切れる……！何回もハンターを撒いたんだもの……！」

周囲を警戒するりん。

逃げ切れば賞金100万円。捕まれば0円……100万円は牢獄者13人に持つていかれてしまう。

いつき「ハンターにさえ気を付けていれば、りんには確実に近付ける……！」

そのいつきの背後からハンター……

いつき「ん？ハンターだ！」

しかし、ハンターはいつきに気付いていない。

いつき「ハンターが一番厄介だよ……！」

思う様に動けない。

「ひかり「ひかりが捕まえられたんだもん。私にだつて出来る……！」

「うららが向かう先に、いつきが見たのとは別のハンター……

うらら「1年生だつて、捨て駒じゃないんだつて事を……ついたー！」

今度は見つかつた……

うらら「来ないで～！」

一目散に逃げるうらら。曲がり角を利用し、ハンターの視界から消えた様だ。

うらら「りんさん何処だろう？」

ゲーム終了まで 1分30秒

りん「何回か叫び声が聞こえるのに、全くメールが来ないんだけど……撒いてるつて事だよね？ハンター何やつてんだよ……！1人でも多く捕まえて、あたしを逃げ切らしてよ……！まだ90秒も残つてるんだよ……？」

かれん「あとはエリアの隅だけね。ここになら絶対いる……！」

己の直感を信じ、エリアの隅へと向かうかれん。

しかし、向かう先にハンター……

かれん「5人で一気に囲んで、逃げ道を無くす。こつすれば、俊足のりんも……って何でこんな時に！？」

見つかった・・・

一目散に逃げるかれん。直線勝負だ・・・

かれん「いやっ！止めて！」

しかし、直線勝負でかれんがハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

かれん「いやあ～っ！」 ポンッ

残り時間 1分16秒 水無月かれん確保 牢獄者残り4人

かれん「あと70秒って時に・・・？もう残りの4人に託すしか無いわね・・・」

うらら「えっ！？かれんさん捕まつた・・・！」

くるみ「また足速い人じゃない・・・！」

いつき「不味い・・・！本当に危機的状況になつてきた・・・！」

ほのか「もう時間無いわ・・・！」

りん「あと4人・・・残ってるの誰だ？怒涛の様にメールが来たから分かんなくなっちゃつたよ・・・！」

互いに焦りを隠せないりんと牢獄者4人。

ゲーム終了まで 1分

りん「あと一分・・・よしつ、あと60秒・・・」

いつき「絶対」^{はす}の筈なんだよ・・・」

いつきが向かう先にりんの姿・・・

いつき「いた！」

りん「ん?つわつ?」^{いつきかよ}」

いつきに気付^{いた}、一目散に逃げるりん。

彼女が逃げる先に、くるみの姿・・・

くるみ「あつー見つけたわよ、りん!」

りん「嘘だーくるみも残つてた!?」

方向転換し、更に逃げるりん。

しかし、彼女は更にほのかにまで見つかった・・・

ほのか「りんさんー賞金は私達がもうつわ!」

りん「そんな事絶対させないですよー。」

3人に追われるりん。自慢の足を活かし、全員との距離を広げる。

ほのか「何、あの異常なまでの俊足・・・!?」

くるみ「全然追い付けない・・・！」

いつき「先回りして、うらがこっちに引き付けるのを待つしかないな・・・！」

ゲーム終了まで 30秒

りん「よしき、諦めた……。」

足を止めるりん。しかし、背後からうらが接近。・・・

見一が二た・・・

りん
- ヤハい ! スタミナが切れそう ! 「

りん、このまま逃げ切れるのか。

ゲーム終了まで 20秒

一目散に逃げるりん。向かう先にハンター……。

うらら「ええ！？ハンター！？」

ハンターに見つかり、今度は「うららが逃げる。りんは助かった・・・

りん「良かった、ハンター来て……あと14秒だ……！」

その間、ひいらは運良くハンターから逃げ延びた。

「ひいら「監さん、りんさんを捕まえられたんでしょうか？」

ゲーム終了まで 10秒

りん「ヨツシャ……！もう大丈夫だ……！6……！5……！4……！3……！2……！1……！」

ゲーム終了

夏木りん 逃走成功 100万円獲得

りん「よーし！逃げ切ったぞー！100万円獲つたぞー！」

そして、暫くしてりんが牢獄に到着。

最後まで残っていたりん以外の4人は、確保された者達と一緒に牢獄の中に入れられていた。

のぞみ「りんちゃんおめでとうー！」

祈里「りんちゃんなら逃げれるって……私、信じてた！」

りん「でも、最後の1分は緊張しつ放しだったよ・・・！」

いつき「そりゃあ、こっちだつてお金欲しいもん」

くるみ「田の色変えて捕まえに行くに決まつてるでしょ？」

「まち「それにしても、りんさんは140分も逃げた事になるんでしょ？」

なぎや「す」い事だよ？中学生が140分つて・・・」

えりか「前人未到の大記録を樹立したつて事だね」

りん「大袈裟だよ、えりか

咲「にしてもさ、オープニングゲームでハンター出した人が完全逃走成功するなんて、本当にすごいと思うよ」

ひかり「運もりんさんに味方したんでしうね」

そして、逃走成功したりんは牢獄前の箱の南京錠を解き、中の72万円の札束と28万円の札束　　合計100万円　　を手に取つた。

りん「賞金100万円獲つたぞー！」

牢獄の者達「おめでとうー！」

その頃、その様子をモニター越しに見ていた謎の存在・・・

突然、画面が切り替わる・・・

そこには、今回の逃走中で姿を現さなかつた「Hunter02 NN」のデータが・・・

このハンターは長い間、逃走中から姿を消していた・・・それが今になつて何故・・・

すると、データを元にハンターが復元される様子が映し出される・・・

そして、「Hunter02 NN」の姿が明確になると、画面に「Restore Complete」の文字が・・・

更に画面が切り替わると、「変更を保存しますか?」の文字・・・

謎の存在は、何の躊躇も無く「Yes」を選択した・・・

本当にゲーム終了！（後書き）

本編はいかがでしたか？

あまりいい出来ではなかつたと思ひますが、楽しんでもらえたでしょうか？

次回からは、4回に分けてDVDにもある未公開シーンを書こうと
思つてます。

ぜひ期待下さい

そう言ひえば、来年のプリキュアの情報が出回つてゐみたいですよ？

タイトルが「スイートプリキュア」と言ひて、何でも音楽が関係し
てるんだとか・・・

「おじや魔女どれみ」みたいな事にならなければいいけど・・・

未公開シーン？ 下見中（前書き）

欲望渦巻く港町・・・戦いを前に何処を彷徨うさまよう・・・？

未公開シーン？ 下見中

1番目に鎖を引き抜いた舞

舞「オープニングからあんな事になつて・・・不吉な予感しかしないんだけど・・・はあ～、それにしても夏本番ね。すごい暑い・・・！早速水飲みたくなるほどよ、この茹^うだる様な暑さは」

舞は支給されたペットボトルの水を一口飲む。

舞「いっぱい人がいて楽しそう。私の知つてる人達も何人か来てるのかしら？一寸探してみたい気持ちもあるけど・・・いつゲームが始まると分からぬし・・・こんな楽しい所、恐怖に怯えながら来るもんじやないわね・・・」

2番目に鎖を引き抜いたうらり。

うらり「港の方にある堤防からエリアを見とくつても手だよね」

港から一望する作戦の様だ。しかし・・・

うらり「一寸行ってみよう

男「うらりー何だ君は！？」

うらり「ええつ！？」

港へと続く一本道を通せんぼする2人の男・・・

「わ・・・私はただ港へ行きたいだけなんですよ!」

男「ここから先は、訳があつて関係者以外は立ち入り禁止なんだ」

「な・・・何なんですか? その訳つて・・・」

男「鬼に角、ここから先は行けないから! ほらっ! あっち行つた!」

門前払いを受ける・・・

「港に入れないってどういう事? だって、自首の為の船つて港にあるんでしょ? 乗れないじゃん、港に入れなかつたら・・・はあ・・・作戦変更だね」

4番目に鎖を引き抜いたえりか。

えりか「あつ・・・舞だ」

下見の途中、舞と遭遇。

えりか「舞!」

舞「えりかさん?」

えりか「作戦立てたの?」

舞「一応ね」

えりか「どんな感じ?」

2人は地図を見せ合ひ。

舞「とりあえず最初は、漁協とかがある所にいようかなと思つてゐるのよ」

えりか「何で？」

舞「ハンターつて兎に角足が速いから、絶対直線勝負じゃ勝ち目がないでしょ？だから、この辺の入り組んだ道にいれば、ハンターに追い掛けられたとしても曲がり角を使って撒ける筈だから……」

えりか「でも、あたしが見た中ではそういう事を考へてると、逆に早く捕まる感じなんだよね」。ハンターが2体とかで来て挟み撃ちされるつて事もあるし……目の前の曲がり角の先から突然現れたら、もう逃げられないよ。それに、ハンターに気付かれないでハンターを見つけられる所じやないと、結構不利だと思うんだよ」

舞「でも、そんな都合のいい場所なんて殆ど無いわよ？」

えりか「まあ、基本死角から追い掛けられなければ大丈夫だよ。土地勘がある事も相当な武器になる筈だよ」

舞「それは分かるけど……作戦つて殆ど役に立たないって事が多々あるから、それが心配なのよね……」

えりか「そういうもんだよ、世の中……兎に角さ、絶対逃げ切らうね！」

舞「ええ！絶対逃げ切りましょー！」

2人は別れる。

6番田に鎖を引き抜いたなぎさ。

なぎさ「しかし暑いな～・・・この暑さの中1-20分だよ？実際でも無かつた事でしょ？これ逃げ切つたら、相当豪^{えら}い事になるよ」

汗を拭^{ぬぐ}いながら、なぎさはビーチへと向かう。

なぎさ「ビーチ結構広いな～。エリアの半分ぐらいがビーチじゃない？半分も無いか・・・うわあ～すごい！すごい人の数！絶対楽しいだろうな～。普通に海水浴でここに来たかったな～。何で選りに選^よつて逃走中なんだろう？」

ビーチではダイバー達も大勢いる。

なぎさ「あの人達、これからダイビングしに行くのかな？ほら、いつぱいタンクが置いてある。こんなに未使用のタンクがあるの？相当繁盛してるんだろうね、このビーチ。潮風が気持ちいいな～・・・つて観光に来たんじゃないよ、あたしは・・・！ゲームに集中・・・！」

3番田に鎖を引き抜いたラブ。

ラブ「港の近くにいよう。港にある遊覧船に、このチケットを渡して乗れば自首が成立するんだから、あんまり離れない方がいいね」

港の近くに身を潜める事にした様だ。

そこへ、うららが通り掛かる。

「うひひ「あれ? ラブさん、そこで何してるんですか?」

「ラブ「何って見れば分かるでしょ? 隠れてるんだよ」

「うひひ「ちやんと下見した方がいいですよ? 自分が何処にいるのか分からなくなるのが落ちですよ?」

「ラブ「あたし、50万円になつたら自首するつもりだからさ。だから別に下見する必要無いもん。ここに隠れてれば、勝手にお金が増えてつて、すぐに自首に行けるからさ」

「うひひ「せつとき私、港の方からエリアを見とこいつと思つて行つたんですけど、訳があつて関係者以外は港には入れないつて言つてました」

「ラブ「えつ? また? ・・遊覧船が港にあるんだよ? 一般客が入れない訳無いじゃない。チケットさえ見せれば入れるんじゃないの?」

「うひひ「それだつたら確かに辻襷つじまは合いますけど? ・・とこ「うかラブさん。あなたさつき50万円で自首するつて言こませんでした?」

「ラブ「言つたよ」

「うひひ「ダメですよ、そんな図々しい事考えたらうー無欲だつて思われますよ?」

「ラブ「無欲でいいんだよ。人間はね、欲を出したら罰ヒヤウが当たるもんなんだよ。それにさ、あたし達は一般人な訳だから、50万円ももらえれば十分じゃん」

「でも多分、他の皆もんな逃げ切りを狙つてると思いますよ？だからせめて、嘘でもいいので、ラブさんも逃げ切るつて言ってもらわないと……」

ラブ「まあ……そりゃあ50万円より72万円の方が全然いいよ？逃げ切れば、それだけ達成感もあるだらうしち……でも自首だつて正当な手段だと思うよ、あたしは。逃げ切れないと踏んだ時の最終手段なんだから……」

「うひひ「やつ言わると、否定出来ませんね……でも、獲るつて決めたからには絶対獲らないとダメですよ？」

ラブ「分かつてるつて。あたしだつて、それぐらいの事は分かつてるよ」

「うひひ「じゃあ、お互に出せる気力を出し切つて頑張りましょー。」

ラブ「うんー。」

未公開シーン？ 下見中（後書き）

次回は反省中

確保された逃走者達の嘆き「メンントに注目せよ！」

未公開シーン？ 反省中（前書き）

ハンターに捕らわれた、哀れな逃走者達・・・

日向 咲編

咲「ハンターのあの速さ……一体何なの……!?」反則ものでしょ……！ そんなに近くで見つかってなかつたから、こつちは何回も曲がり角を使って撤こうとしてたのに、パッと振り向いたらすぐ目の前にいたよ……！ あんなに速いもん……!? テレビで見てたのと桁違^{けた}いじやん……！ この様子じやあ……なぎささんとか……りんとか美希とかいつきとか……運動神経いい人皆捕まっちゃうだらうな……！ ていうか、一寸待つてよ……！ 10分も経たずに捕まっちゃってるよ、私……これさ……ソフトボール部のエースの名に傷が付くよ……！ 1回捕まつたら終わりだもんな、逃走中つて……はあ、マジで悔しい……！ もう1回だけチャンスがあればな……！」

水無月かれん編

かれん「運が無いにも程があるわ……何で逃げた先にもハンターがいるのよ……？ こんな炎天下で休みもしないで、どうやって逃げろつて言つのよ……？ 折角^{せつかく}の水が台無しだわ……はあ……もうあとは……牢獄でこのゲームが終わるのを傍観し続けるしかないものね……！」

2回目

かれん「3分半……！ 70万円……！ ここまで積み上げて

た70万円が、一瞬にして飛んでた・・・！ええ～！？最後の望みの敗者復活に勝ち残つて・・・ボトムのクローンも净化して・・・ゲーム終了が目前という時に・・・ハンターに挟まれた・・・最初の時もそうだったわね、2体で追い掛けられて・・・こういう運命が付きまとつてゐるのかしら、私には・・・？もう少しだったのに・・・

・牢獄の人達に見せる顔が無いじゃない・・・

明堂院いつき編

いつき「捕まつた・・・あの足の速さ・・・まともに走つて勝てる訳無いよ・・・！別のルート通つてれば良かつたな・・・こっちだつたらね、ハンターに見つかつても入り組んだ道を使つて撤ける可能性があつた訳だし・・・鉢合わせだつたもんね・・・悔しいな・・・今まで感じた事の無い悔しさ・・・何だろう・・・？ボクの人生の中で、3本の指に入るほどかな・・・？兎に角悔しい・・・！また機会があつたら、参加したいな・・・面白いよ、逃走中・・・

・何回出ても飽き足らないと思うな・・・

蒼乃美希編

美希「嘘～・・・！？何にもしないで捕まつてる・・・！」こまちさんと協力してミッションやりたかったのに・・・何て言うか・・・さつきの3人にも悪い事してるわね、あたし・・・多分あの3人で、6人家族のをやりに行こうとしてた筈^{はず}なのよ・・・逃げる様に言つたから、散り散りになつちやつて・・・何処まであたしつて最悪なの・・・？ああもうう・・・！情けない自分にイライラしてきた・・・

・一ホント悔しい・・・・・

雪城ほのか編

ほのか「ああ～・・・タンクは重いし・・・ハンター2体に挟まれたし・・・こんな2重の苦しみなんて過去あった・・・?何で空なの?、あんなに重いの・・・?」このミッションは手を出すんじゃ無かつたわね・・・力のある人に任せとけば良かつたわね・・・それにして、このHORIAすごい暑いわ・・・!まるで常夏の南の島じやない・・・こんな暑い中であんなタンクを運ばせるなんて・・・熱中症になつて下さいつて言つてる様なもんぢやない・・・!私達が中学生だつて事を、一寸は考えてほしいわ・・・

美墨なぎさ編

なぎさ「すぐそこだつたのに、充填所^{じゅうてんしょ}・・・!といつか・・・あたし、心の何処かに隙があつた感じだよね・・・?充填所着いた^{じゅうてんじやく}、良かつた^{じやつた}みたいな・・・ミッション成功目前だからつて安心し切つてる様じや、あたしもダメだね・・・目的を達成するまで、ちゃんと氣を引き締めなきやいけなかつたね・・・もう終わりだもんな[・]・・・折角目立てるチャンスだつたのにな〜・・・これ、復活なんてあるのかな〜・・・?もし復活出来るんだつたら復活したいけどさ・・・」

なぎさ「今度はミッショントリニティーにも辿り着けなかつた……！」
・！一寸待つて……あたし、敗者復活1位で抜けたんだよ……
？2位のつぼみがさつき捕まって……敗者復活のワンツーフィニッシュユを飾つた2人が……ワンツーで確保されてさ……何これ……？こんな事絶対ありえない……！牢獄があたしとつぼみが落ち着く場所だと思われちゃうじゃん……！」

秋元こまち編

こまち「でも……あんな事つて起こり得るものなの……？振り向いたら田の前にハンターいるなんて……私、別に足が竦んだ訳でもないのに、1歩も動けなかつたのよ……？何か……？金縛りみたいな感覚になつて、気が付いたら確保されてたつていう感じ……でもいいわ……いろいろなミッショントリニティーにも参加出来たし……逃走中の面白さもこの身を持つて実感出来たし……こういう経験が出来た事に感謝しないとね……」

桃園ラブ編

ラブ「ハンター酷過ぎでしょ……？ハンターってさ、視界に捉えた人を見失うまで追うんでしょ……？完全にのぞみを狙つてたじやん……！何で突然あたしを狙うんだつて言いたいよ……？あ……しかもさ、タイマーが狂つて……いつまで経つても50万円に届かないんだもん……！これタイミングがもう少し早かつたら、自首出来てたな……50万円行かないにしても、あの時自首してればいくらかは生活の足しに出来てた筈だもんね……ああも

う～、マジで悔しい～・・・・・」んなに捕まる事が悔しいなんて・・・」

来海えりか編

えりか「くそ～・・・・！」ここまで残つたのに～・・・・！お金がパ
だよ～・・・・！あのまますぐに自首すれば良かつたな～・・・・金に
目が眩くらんだか・・・でも、皆考えてそうだよね自首・・・だつても
う50万円じゃん・・・？一般人の、しかも中学生からすれば50
万円もらえればすごい方だよ・・・まあ、それ以前に逃げ切る事を
目標にしてる人が多いんだろうけどね・・・はあ～・・・

美々野くるみ編

くるみ「こんなの絶対逃げ切れる訳無いじゃない・・・・！」この狭さ
で7体とかふざけてるでしょ・・・・？最悪・・・のぞみに巻き添え
食らつた・・・あんな偽善者から・・・普通ハンター連れて他人ま
で巻き込む・・・？連れてきた人が捕まれば、全部丸く收まるのに
さ～・・・何で善良な私が天に見放されるの・・・？ここまで來た
ら、絶対逃げ切ろうと思つた矢先に・・・運が私の許もとから離れてい
つた感じ・・・また出る機会があつたら、その時は絶対に逃げ切り
たい・・・・！運も一緒に味方して・・・！」

未公開シーン? 反省中(後書き)

次回は獲得中

賞金を獲得した逃走者達の喜びのコメントに注目せよー

そう言えば、23日の放送ではオープニングゲームが新しくなるそうですよ。

どんな物になるのか非常に気になります。

未公開シーン？ 獲得中（前書き）

港町に愛された勇者達・・・

正規ステージ

夢原のぞみ編

のぞみ「2・・・1・・・0！逃げた～！ホントに逃げた！すごい！逃げ切つた！？やつた～！逃げた～！すごい～！まさか逃げ切れるなんて・・・全然運動出来ないのに・・・まだ実感湧かないや・・・ホントに！？嬉しい～！こんなに嬉しかった事、今まであつた？こんなに達成感がある事なんて今までしてきた？いや～、やれば出来るもんなんだね！絶対最初の10分ぐらいで捕まっちゃうかと思つてたけど・・・120分間逃げたよ、私！しかも72万円！こんなすごいお金を持つて帰れるんだよ！？よ～し！このお金で、お父さんとお母さんに親孝行するぞ～！けつて～い！」

山吹祈里編

祈里「2・・・1・・・0！逃げた～！ホントに逃げた！すごい！逃げ切つた！嬉しい！そこに・・・すぐそこにハンターがいたよ・・・！良かつた、気付かれなくて・・・！ハンターが7体に増えたから、もう無理だと思つてたけど・・・やつぱりあれかな？ミッションを積極的にやつたからかな？のぞみちゃんもりんちゃんも逃げ切つてるもんね？やっぱりそうだよ・・・！怖がつて何もしなかつたら、絶対罰当たつてたよ・・・ミッション出来た事も嬉しいけ

ど、逃げ切った事は特に嬉しい！面白いな、やっぱり逃走中つて・
・・出て良かつた・・・！頑張った分の報いがあつたよ・・・！こ
の喜び、一刻も早く親に伝えたいな・・・！絶対喜んでくれる筈・
・・！」

秋元こまち編

こまち「2・・・1・・・0！嘘！？ホントに！？ホントに終わり
！？ええ？復活枠で逃げ切ったの、私？ホントに？ホントに終わっ
たのね・・・！嬉しい・・・！でも私、100分ぐらいしか逃げ
てないのよ？それで72万円持つて帰つていの？私、1回ハンタ
ーに捕まってるのよ？ホントにいいの？一緒に復活したのに、結局
捕まつた3人に申し訳ない様な・・・いいんだつたら、有無を言わ
さず持つて帰るわ・・・！それで、72万円で家族で旅行に行きた
いわ・・・汗水流して得られたお金だもの・・・！屹度きうとお姉ちゃん
も喜んでくれるわ・・・！逃走中つてホントに楽しいものね・・・
！機会があつたら、いつでも出てみたい・・・そう感じさせるゲー
ムだったわ・・・！有難う御座いました・・・！」

美翔 舞編

舞「2・・・1・・・0！終わった！逃げた！すごい！敗者復
活枠での逃走成功！嬉しい！途中で200体のハンターに囲まれ
て捕まつた時は、もうダメだと思ったもの・・・！でも、このハン
ター除けスプレーが・・・私を助けてくれた・・・！これのお陰で、
私はこうやって逃げ切った！これをくれたカオルちゃんにも感謝し

ないといけないし、いろいろと私の手助けをしてくれたポセイドンさんにも感謝しないと……！感謝の心は絶対に忘れちゃいけないから……72万円を持って帰る前に、2人に感謝したいわ……！2人のお陰で私は逃げ切つて、72万円獲得出来た！そしてそのお金は、2人への感謝を忘れずに、大事に使いたいわ！」

ボーナスステージ

夏木りん編

りん「逃げたぞー！滅茶苦茶緊張した……！心臓に悪過ぎるよ、このボーナスゲーム……！何処まで追い掛けてくるもんだから……でも逃げ切つたぞ！マジで嬉しい！さっきの120分間逃げ切つた時の何倍も嬉しい！ヤバい……！恐怖からなのか疲労からなのか分かんないけど……もう足の震えが止まんないよ……！正直言うと、始まって8分ぐらい経つてから咲が捕まつた時、あたしも近いうちに捕まるんじゃないかつて思つてたんだよね……ハンターの速さが尋常じゃない事は知つてたけど、咲が捕まつた時はまさかと思つたから……でもこつやつて逃げ切つてる自分がいる訳だから、胸張つて帰れるね……！捕まつたら、家族にもフットサルのチームメートにも悪いからさ……100万円か……宝くじでも当たんなかったよ、そんな金額……！いやもう、多額のお金を見つた事よりも、合計140分間最後まで逃げ切つた事が何よりも嬉しい……！1回牢獄に行かなきやいけないんでしょ？大丈夫かな……？牢獄代表の皆から野次飛ばされないかな……？それだけが心配……」

未公開シーン？ 獲得中（後書き）

次回は牢獄中

これで遂に完結！

牢獄内で、敗者達は何を語つたのか！？

23日の逃走中のオープニングゲーム、新しくした事が吉と出るのか凶と出るのか・・・

何はともあれ、18人の逃走者達の活躍に期待大です

自分は、前回と前々回同様に全滅となつて終わると予想・・・

未公開シーン？　牢獄中（前書き）

戦いに敗れた逃走者達・・・その思いは・・・？

未公開シーン？　牢獄中

最初に捕まり、牢獄前に現れたのはつぼみ。

つぼみ「これが牢獄・・・門番みたいな人がいないうて事は、自分で入れつて事・・・？酷過ぎる・・・」

愚痴を零しながら、つぼみは入獄する。

つぼみ「自分で扉開けて、自分で中に入つて、自分で閉めて・・・もつヤダ～・・・悲し過ぎる～・・・」

暫くして、メールが届いた。

つぼみ「メール・・・『花咲つぼみ確保、残り17人』・・・何で本人にも送つてくる訳！？そんな事言われなくたつて分かつてるつてば！何この、ぞんざいな扱い・・・もう・・・帰つたら絶対皆に笑われる・・・」

その約10分後、咲が牢獄前に現れた。

つぼみ「あれ？咲さん？捕まつたんですか？」

咲「この表情でここに来てんだもん・・・捕まつたに決まってるじやん・・・て言つかせ、メールで見たでしょ？」

つぼみ「だつて、まさかソフトボール部のエースの咲さんがこんな早くに捕まる訳無いと思って・・・」

咲「まあ、私だつて10分も経たずに終わるなんて思つてなかつた
ぐらいだから・・・ホントにさ、ハンター速過ぎだよ・・・全然振
り切れなかつたもん、50m8秒を切つて走れる私が・・・」

そつ言いながら、咲は入獄する。

つぼみ「咲さんも相當速いですね・・・」

咲「でもりんは50m6秒切つてゐて言つてたからさ・・・」

つぼみ「こつきも、確か50mは7・5秒くらいで走れるつて言つ
てました・・・」

咲「でもハンターは、絶対それよりも速いよね・・・じゃなかつた
ら、私なんかこんな早くに捕まる訳無いもん・・・多分、りんもい
つきもすぐ捕まると思つ・・・」

つぼみ「確かにこの逃走中は、足が速いだけじゃ逃げ切りは出来な
いって言つぐらいですからね・・・」

更に、かれん・せつな・いつき・美希・うららが入獄。その後、2
つ田のミッショնが届いた。

かれん「ミッショն2・・・」

咲「ミッショն来るペース早くない?」

かれん「『データ』にスタッフが回収しなかつた5本の空タンクがあ

る』・・・』

美希「空タンク・・・？あつ・・・さつきビーチの隅の方で見たあれの事ね・・・！」

かれん「『残り60分までに』、全ての空タンクを充填所に運ばなければ、コンプレッサーが停止してしまい、ゲーム時間が30分間延長されてしまう』・・・」

いつき「30分！？延長され過ぎだよ・・・！」

つぼみ「失敗したら、残り90分になるって事ですか！？」

いつき「おまけに、賞金も減らされちゃうみたいだし・・・！」

せつな「でもダイビング用のタンクって、すごく重いって聞いた事がある・・・多分ラブはやらないわね・・・」

美希「ラブ、重労働嫌いだからね・・・」

うらら「ぐるみさん、怖い時間延ばしたくないってやるんじやないでしょ？」「

かれん「絶対やらないわよ・・・！そんな事をする偽善者になりたくないし、そんな人と関わりたくないって何度も言つてたから・・・」

『

咲「ぐるみ酷いな～・・・ミシシヨンやる人を偽善者だつて・・・」

せつな「『』のゲームを利用して、好感度良く映りたがつてる様に見

えてるのかもね・・・

うらり「でも、そういうのって何か悲しいですよ・・・人をそんな風にしか見れないなんて・・・」

いつき「そつなるとわ、わつきのミシショングクリアした人が捕まるつて捉えられるよね・・・」

つぼみ「恩を仇で返されるみたいな・・・」

美希「でも実際、じゅやつてミシショングクリアした人ばかりが捕まってるのよね・・・かと言つて、くるみの偽善者発言は流石に賛成出来ないわ・・・」

咲「ホントだね、最低だよね・・・ミシショングクリアした事で恩恵受けてるのに・・・そんな事言つてたつてなれば捕まつてほしいよ、くるみには・・・」

せつな「でもそういうあぐどい人ほど、結構長い時間残る事が多いからね・・・多分そう簡単には捕まらないと思つわ・・・」

その数分後、牢獄の者達はタンクを運んでいるなぎさを見つけた。

つぼみ「あれ？あれってなぎせんぢやないですか？」

美希「ホントだ・・・」

かれん「タンク運んでるわ・・・！」

うらり「見た感じ、結構重そうですね・・・ひかりとか絶対一人じ

や持てないでしょ?」

せつな「ブッキーも、若しかしたら持てないかも……」

いつき「あれでハンターに見つかったら最悪でしょ？タンク手放して逃げないと……」

咲「見つかりやすいもんね・・・動きがゆっくりになつてゐし、見通し良過ぎるし・・・」

更に、ほのかが入獄した後、タンクを運ぶのぞみの姿を捉えた。

「アーティストの心」

唉一嘘！？のぞみがタンケ運んでるよ・・・！」

世へなすこいわねのそみも……！」

かわん「危険を顧みず」にシションに挑む勇姿・・・のぞみにひつ
たりの言葉ね・・・！」

ほのか「まさかとは思うけど・・・あれって、私が運んでた物じゃない?」

美希「そうなんですか？」

ほのか「断定は出来ないけどね・・・可能性があるってだけで・・・」

L

つぼみ「じゃあ、ほのかさんはタンクを運んでいてハンターに見つ

かつて捕まつたって事ですか?」

ほのか「恥ずかしいけど、そういう事になるわ・・・何しろ2体で追い掛けられたから・・・」

いつき「2体はきついですよ・・・ボクも2体で追い掛けられて捕まりましたから・・・」

咲「捕まっちゃうかな、のぞみ・・・?のぞみにとつては、かなりの身体的ストレスが掛かると思うんだけど・・・」

美希「水分補給の為の水があるから大丈夫だと思つけど・・・」

ほのか「絶対500mlじゃ間に合わないと思うわ・・・私のだって、見た感じ200mlも残つてないもの・・・」

せつな「大丈夫かしら・・・?」

かれん「大丈夫な事を祈るしかないわよ・・・私達にはそれしか出来ないんだから・・・」

その後、なぎさ・じまち・ひかりが入獄。そして、牢獄の111人に昼食の弁当が支給された。

ひかり「いいんですか?私達が食べても?」

じまち「実際の逃走中でも、こんな事無かつたわよ?」

なぎさ「でも、そろそろお腹も空く頃だし・・・いいんじやない?そんな事よりさ、早く食べよう!」

ほのか「そうね」

11人は弁当のふたを開ける。しかし・・・

美希「な・・・何これ・・・!？」

ほのか「これは・・・弁当とこいつよう・・・」

つぼみ「生ゴミの詰め合わせ・・・!？」

支給された弁当には仕切りが無く、中が生ゴミの様にぐわやぐわやになっていた。

せつな「しかも・・・大きさの割には・・・」

「まち 「量が少な過ぎる・・・!」

いつき「半人前といつより・・・」

ひかり「4分の1人分にも満たない・・・!」

かれん「屈辱ね・・・」

嫌々ながらも彼女達は弁当を口にする。しかし、その味は想像を絶するほどの不味さ・・・

咲「つ・・・な・・・何だよこれ・・・見た目以上に不味いんだけど・・・こんなの食べられないよ・・・」

「しかし、こんな少ないんじゃお腹いっぱになりますよ～・・・折角楽しみにしたのに～・・・」

なぎわら「いくら敗者だからって、この扱いは無によ～・・・そんざい過ぎる・・・ありえない・・・！」

それから暫く時間が経ち、日も傾き始めた時、牢獄の者達は一斉に帰つていく観光客達を見ていた。

咲「観光客が皆帰つてくよ」

いつき「帰つてくと言つ割には不自然な動きだよね？」

美希「何かから逃げてる感じ・・・」

ひまわり「一体どうしたのかしら？」

なぎわら「あたし・・・嫌な予感しかしないんだけど・・・」

ひまわり「えつ？何ですか、なぎわらさん？」

なぎわら「だつてさ、お密さんが帰るんだつたらも、ダイビング関係のお店のスタッフの人達とかが後片付けする為にビーチの方に行く筈なのに、スタッフの人も同じ方向に走つてるんだもん・・・」

ほのか「確かに、皆ビーチから離れる様に走つてるわ・・・」

ひまわり「ビーチの方で何があつたんでしょう？」

せつな「確認したいのに出来ない・・・ホントにもどかしい・・・

！」

つぼみ「生き残つてゐる皆さんは、どうするんでしょつか？」

かれん「いくら大事件とは言えど、このゲームは中断出来ないし・・・メールが来れば、何か分かるかも・・・」

その後、逃走劇の舞台をとある島アイランダに移した。そして、えりかが入獄した後、敗者復活をワンツーフイニツシユした2人が再び牢獄へやつて來た。

美希「あつ・・・來た」

えりか「つぼみとなおわさん？」

ラブ「2人とも…全つ然意味無いじゃん！」

いつき「しかも復活ゲーム1位2位の2人がだよ！？」

つぼみ「いら何でも酷過ぎます！」

ほのか「自分達の立場分かつてゐるの…？」

言われたい放題の2人は、そのまま入獄する。

つぼみ「皆さん…一言だけ言わせて下さい…・・・『メンなさい…・・・

なぎさ「不甲斐無也過ぎました…・・・」

えりか「・・・」

ひかり「不甲斐無い以前の問題ですよー。」

咲「2人とも、言わば秒殺じゃん！」

せつな「1位2位で復活した人としてあるまじき事よー?」

つぼみ「すみませんでした!」

なぎさ「申し訳ありません!」

そして、120分間の正規ステージと20分間のボーナスステージが終了。りん以外の17人が入獄した後、完全逃走成功を果たしたりんが牢獄前に姿を現した。

りん「逃げ切ったー！」

のぞみ「りんちゃんおめでとうー！」

祈里「りんちゃんなら逃げれるって・・・私、信じてた！」

りん「自分でも、まさか逃げれるとは思わなかつた・・・！でも、最後の1分は緊張しつ放しだつたよ・・・！」

いつき「そりゃあ、じつちだつてお金欲しいもん

くるみ「田の色変えて捕まえに行くに決まつてるでしょ？」

「まち「それにしても、りんさんは140分も逃げた事になるんで

しょ？」

なぎさ「すうじい事だよ？中学生が140分って……」

えりか「前人未到の大記録を樹立したって事だね」

りん「おおげさ大袈裟だよ、えりか」

咲「にしてもさ、オープニングゲームでハンター出した人が完全逃走成功するなんて、本当にすごいと思うよ」

ひかり「運もりんさんに味方したんでしょうね」

舞「こんな事、絶対りんさんにしか成し得ない事よ？」

りん「舞まで……あたし、も若しかしたらゲーム時間の半分も経たない内に確保されるんじやないかっていうネガティブ思考が、心の何処かにあつたんだよ、ホントの事言うと……でも、このゲームやって分かった……！ネガティブになつてたら、何も出来ない……！積極的にならないと、後で痛い目に遭う……！そんなもんだね……」

せつな「ハンター怖くなかった？」

りん「あのね……あたしがホラー嫌いなの知ってるでしょ？怖くない訳無いじゃない……」

つぼみ「どのくらい追い掛けられました？」

りん「覚えてない……でも、結構な回数と距離を追い掛けられた

ね・・・

ほのか「旅の話は」のくらこして・・・それじゃあ、りんさん・・・
・その箱の中の100万円を・・・」

りん「あつ、そうでしたね・・・箱の上にあるこの鍵で、南京錠を
解くんだ・・・」

逃走成功したりんは牢獄前の箱の南京錠を解き、中の72万円の札
束と28万円の札束 合計100万円 を手に取った。

りん「賞金100万円獲ったぞー!」

牢獄の者達「おめでとうー!」

美希「とこひでりん、その100万円の使い道はどうするの?」

りん「使い道?そつだね・・・やつぱり、家族サービスかな?ゆ
うとあいにも何か買ってあげたいし・・・

かれん「家族サービスってこののは?」

りん「家族で温泉旅行に行くとか・・・親にマッサージチエアを買
つてあげるとか・・・」

りん「一寸だけそれに注ぎ込もうかなとは思つてゐる・・・

なぎさ「兎にも角にも、改めて・・・りん、おめでとう!」

なぎさ以外の牢獄者「おめでとう！」

りん「有難う御座いましたー！」

未公開シーン？　牢獄中（後書き）

逃走中第2弾、いかがでしたでしょうか？

未公開シーンも楽しんでもらえたでしょうか？

前回より長く書いて、少しばか上達したと思います！

感想をどんどんお待ちします！

次回予告

？？？「ハンターいる・・・！」

？？？「怖い・・・！」

？？？「よし今・・・もう少しだ・・・！」

某人気ゲームと某人気アニメ・・・決して交わる事の無い者達が、
とある遊園地で恐怖の逃走劇に巻き込まれる！

更に、スマブラからあのメンバーラ達が再参戦！？

？？？「今回こそは逃げ切つてやる・・・！」

？？？「誰なんだよ・・・！？」

そして、逃走者達に紛れる裏切り者・・・

？？？「メリーポーランド付近にいます・・・」

？？？「うわああ～！」

？？？「ここにつ、もう合計で100万円以上稼いでるの・・・！」

？？？「ハンターからも裏切り者からも逃げ切つてやる・・・！」

その全貌はいかに！？

逃走中！深夜の遊園地 2011年1月頃更新開始！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4811n/>

プリキュアオールスターズ×逃走中～水面に眠る海神～
2011年3月13日13時15分発行